

					図	面 リスト							
	意 匠 図			構 造 図			電 気 設 備 図				機 械 設 備 図		
図面番号	図 面 名 称	縮尺	図面番号	図 面 名 称	縮尺	図面番号	図 面 名 称		縮尺	図面番号	図 面 名 称		縮尺
A-01	特記仕様書(1)	_	B-01	特記仕様書(木工事)軸組工法(1)	_	E-01	電気設備 特記仕様書		_	M— 01	機械設備 特記仕様書 (1)		
A-02	特記仕様書(2)	_	B-02	特記仕様書(木工事)軸組工法(2)	_	E-02	電気機材指定表		_	M-02	機械設備 特記仕様書 (2)		
A-03	特記仕様書(3)	-	B-03	特記仕様書(木工事)軸組工法(3)	_	E-03	電気設備図		1:100	M-03	給排水設備図		1:100
A-04	特記仕様書(4)	_	B-04	特記仕様書(木工事)軸組工法(4)	_					M-04	浄化槽詳細図		1:30
A-05	特記仕様書(5)	_	B-05	特記仕様書(木工事)軸組工法(5)	_								
A-06	特記仕様書(6)	_	B-06	特記仕様書(木工事)軸組工法(6)	_								
A-07	特記仕様書(7)	_	B-07	特記仕様書(木工事)軸組工法(7)	_								
A-08	附近見取り図·配置図	1:100	B-08	休憩所棟 各伏図·基礎詳細図	1:20-100								
A-09	休憩所棟 平面図·立面図·屋根伏図·天井伏図 矩計図·仕上表·部分詳細図	1:100 1:10·30·50											
A-10	【改修前·改修後】外構配置図	1:100											
A-11	ユニットトイル詳細図①	1:50											
A-12	ユニットトイル詳細図②	1:50											
A-13	ユニット目隠し壁詳細図	1:20											
特			1		1			 東 洋	ET ET	1	エ 事 名 野根地区公衆トイ	/ レ等整備工事	
記									<u> </u>		図面名 図面以		
								製図	検 印		2025. 04. 30 縮尺 S= -	図 番	A -00

		項目	特 記 事 項	項目	特 紀 事 項	項目	特 記 事 項
野根地区公衆トイ	レ等整備工事	10工事安全計画書	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を監督職員 に提出する。		測定方法 ※厚生労働省「室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について」による。	29 不当要求等への対応	暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害(以下この文において「不当介入」という。) の排除については次による。
工事概要					測定対象化学物質		a)受注者は、暴力団又は暴力団関係者からの工事の施工に関して不当介入を受けたときは、その旨を
1. 工事場所 高	馬知県安芸郡東洋町大字野根丙1848-1	(11)統括安全衛生管理義務者 の指名	労働安全衛生法第30条第2項に基づき指名をする。 (1.3.7)		※ホルムアルデヒド ※トルエン ※キシレン ※エチルベンゼン ※スチレン ※ パラジクロロベンゼン ・		直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署
2. 工事種目 到	建築・電気設備・機械設備				測定箇所 (集会室①·台所) 計2箇所		に届出なければならない。
			産業廃棄物の運搬、処分等については、(1.3.11)により適切に処分するものとし, 《1.3.11》 事前に監督職員に処理計画書を提出する。		なお、測定結果が厚生労働省の定める指針値を超えている場合は、原則として本工事の引き渡しを 行わないこととする。ただし、次のいずれかに該当する場合は除く。		c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除処理を講じなければならない。 d) 受注者が、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指名停止措置要綱」に基づき、
			産業廃棄物の運搬、あるいは処分を他業者に委託する場合は、書面による委託契約を行い、		1 何らかの対策が施された結果、揮発性有機化合物の濃度が厚生労働省の定める指針値以下となっ		指名停止措置を行うものとする。
			処理計画書にその写しを添付する。 自己処分場で処分する場合は、その処分場が関係法令の規定に適合する旨の資料を提出し、監督職員		たことが確認された場合。 2 濃度測定の結果が、本工事の施工により生じたものでないことが明確である場合。	30 消防計画	工事の着手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事中の部分の安全を確保するため、
			の現地立会を受けたうえで承諾を得る。(積替・保管についても同様とする) 産業廃棄物の収集・運搬に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下廃棄物処理法という)		3 濃度測定が、使用開始後(備品の搬入等を含む)に行われた場合。		別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の 承諾を得て届出を行う。
3. 別契約関連工事	・電気設備工事 ・機械設備工事 ・ガス設備工事 ・昇降機設備工事 ・植栽工事		産来成果物の収集・理販に当たりでは、成果物の処理及び消費に関する法律(以下成果物処理及という) 施行令に基づく車両への表示及び書面の備え付けを行うこと。		本工事の引き渡し後、あるいは、使用開始後に室内の揮発性有機化合物(VOC)の濃度測定が行われ、 測定結果が厚生労働省の指針値を超えている場合については、受注者は、工事引き渡し後で		予防で付し加山で11 /。
	合併処理装置設置工事 外構工事		また、産業廃棄物を搬出する車両について、処分場ごとに1台のみ写真撮影(現場搬出時及び処分場 到着時)し、随時監督職員に報告する。		あっても、その原因究明に当たって協力しなければならない。 また、本工事の施工が原因となって、化学物質の濃度が厚生労働省の定める指針値を超え	31 工事特性等	受注者は、自ら立案した工事特性、創意工夫、社会性等のそれぞれの評価項目について、実施 しようとする場合は、事前に計画内容を所定の様式で監督職員に提出する。
4. 概成工期 5	完成期限の()日前 (令和 年 月 日) 《1.2.1》		廃棄物処理法を遵守し、工期内に最終処分(埋立処分、海洋投入処分又は再生)を終了しなければなら		たものであることが判明した場合は、受注者の負担により、その対策を講じなければならない。		また、実施後、工事完成時までに所定の様式に実施状況の分かる図面や状況写真等を添付して監督職
			ない。 また、産業廃棄物管理票(以下マニフェストという)により適正に処理されていることを確認するとと	(20) 直接仮設の養生	内部養生に合板又は構造用パネルを使用する場合、その合板または構造用パネルのホルムアルデヒ		員に提出する。
建築工事仕様			もに、監督職員にそのE票の写しを提出する。		ド放散量はF☆☆☆☆、又はそれと同等と認められる製品を使用する。	仮設工事	
 特記仕様 項目は、番号にOB 	つの付いたものを適用する 。		ただし、廃棄物処理法を遵守した上で、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合 で、監督職員が認める場合においては、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとする。	21 建築材料等	本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれ	1 足場その他	
2) 特記事項は、・印の	O付いたものを適用する。・印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。		この場合、マニフェストにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに、監督		らと同等のものとする。(記載順序は不同)また. 「評価名簿による」と特記されたものについては、 「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」によるもの. 又は評価の内容につい		「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。
	:場合は、共に適用する。 《 》内表示番号は、「公共建策木造工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。		職員にそのB2票の写しを提出する。また、最終処分終了後速やかにE票の写しを提出する。 なお、廃棄物処理法に定める電子情報処理組織を使用する場合は別途協議する。		てこれらと同等と認められるものとする。ただし、同等とする場合は、監督職員の承諾を受ける。	2 監督職員事務所	・設ける ※設けない (2.3.1)
	() 内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。		・引渡しを要するもの(・・))		県内産資材の優先使用	3 監督職員の備品等	備品等の設置 (2.3.1)
 適用基準等 図面及び特記事項に記載 	まされていない事項は、全て国土交通省(建設)大臣官房官庁営繕部監修の以下による。		 ・ 現場再利用を図るもの (・・・・) ◆ 再資源化を図るもの (※コンクリート ※コンクリート及び鉄から成る建設資材 		本工事に使用する資材は、機能、品質、価格等が同等であれば、県内産資材を優先して使用するもの とする。 なお、県外産資材を使用する場合は、使用理由を施工計画書の打合せ事項に記載し、監督	・血口減臭の細胞等	偏品の種類 机・椅子 書 棚 黒 板 PC 掛 時 計
3	《公共建築木造工事標準仕様書 (令和4年版) 《公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) (令和4年版)		** **********************************		職員の確認を受けること。		数量組合枚合個 備品の種類温度計ゴム長靴雨がっぱ保護帽懐中電灯
	・公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) (平成31年版)		1 × 22 × 100		注1: 県内産資材とは、高知県内で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工した資材、 又は高知県外で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工された資材をいう。		数 量 個 足 若 個 個
	※建築工事標準詳細図 (令和4年版)・敷地調査共通仕様書 (平成27年10月改訂版)	(13)再生資源利用(促進)	再生資源利用(促進)計画書及び実施書を、国土交通省ホームページにおいて公開されているEXCEL形式		ただし、①木材は、高知県内の森林から生産されたもの、②生コンクリートの細骨材に配合する		備品の種類 衣類ロッカー 冷暖房機器 消火器 湯沸器 加入電話付属器 数 量 人用 台 個 台 台
	· 建築物解体工事共通仕様書 (平成31年版)	計画書及び実施書の提出	の様式、または、建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成し、提出は以下による。		海砂は、高知県内で産出されたものとする。 注2: 県外産資材とは、県内産資材以外の資材をいう。		備品の種類 掃除具
項目	特 記 事 項	(請負金額100万円以上)	a)建設資材の利用量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式1)を、完成資料として監督職員に提出する。				数量儲
般共通事項			b)建設副産物の発生量及び搬出量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用促進計画書及び	22)特別な材料の工法	公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料 製造所の指定する工法による。	4 工事用水・電力	構内既存の施設(用水) ① 利用できる (※有償 ・無償) ※利用できない
	を録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズ 《1.1.4》		実施書 (建設リサイクルガイドライン様式2) を、完成資料として監督職員に提出する。 c) これらの提出時には、作成したデータを電子媒体に保存したものと合わせて提出することとし、建	23)風圧力	本工事に使用する材料及び工法は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応したものとし、速度圧を		構内既存の施設(電力) ・利用できる (※有償 ・無償) ※利用できない
(CORINS)への登録	テクリス登録等に関する規約」による。		設リサイクル法第18条に基づく書類の提出が必要な場合は、再生資源利用(促進)実施書の提出を もって、それに代わるものとする。		求める場合の風速 (Vo) 及び地表面粗土区分は、次の数値とする。		
(請負金額500万円以上) (受注,変更,完成時)			もって、それに代わるものとする。 d)受注者は作成したデータを含め、再生資源利用(促進)計画書及び実施書を工事完成後1年間保存		風速(Vo): ※ 40m/sec ・36m/sec 地表面粗土区分: ※ Ⅲ ・		構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)~c)による。 a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、整督職員と協議する。
			する。 e) 以上のことが行い難い場合は、監督職員にその旨を書面で報告し、監督職員の指示に従うこと。	24 仕上面の出隅処理	内外部とも仕上出隅で利用者の手の届く範囲は、図示が無くとも原則として全て面取りを施す。		b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。 c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントから
	原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者 連名による総合工程表を監督職員に提出する。		の、水上のことが11で減が一切目は、重日機関にての目と音楽しまれると、重日機関の指示に戻りこと。		木部 (家具を含む) 6 m 程度 コンクリート. モルタル部 20 m 程度		とする。なお、接続する回路の負荷状態等を確認し、既設負荷への波及がないようにする。
40.0 5		14工事の保険	工事請負契約後、速やかに工事目的物、工事材料等に生じる損害、第三者に及ぼした損害を補價する		鉄部, 金属部 3 mm程度		また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。 構内既存の施設を利用できる場合で、有價の場合は、上記a)~c)に下記d)~e)を加える。
	E事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の (1.2.3) k諾を受ける。		上手師貝夫初後、迷ぐがに上手日的物、上手や付号に工じる訳言、第二者に必はじた訳言を指膜する 保険を締結する。保険期間は、工事着工のときから完成期限より24日後以降までの期間とする。		建具類等、上記により難い場合は、監督職員と協議する。		d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。
		15 契約保証	※ 金銭的保証方式	25 事業損失補價	※現場説明書による。		e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。
1 1	世上とにエ争の主般的な程恵及び次週のエ争アルを記載した口跡を監督機員に提出する。 (1.2.4) た、工事の経過が明確にわかる写真を貼付すること。			26 完成時の提出図書	Constitution of the Control of the C	5 仮囲い	※図示
)工事写真 コ	上事写真はL版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し 1 部提出する。(A4版台紙) (1.2.4)	16 前払金支出割合区分補正	· 有		○完成図(CADデータの提出 ※する(CD-R等) しない)○保全に関する資料(提出部数 ※2部 部)(1.7.3)	(6) 仮設物撤去後の 整地・跡片付け	※原形の復旧 ・良土にて設計地盤まで盛土整地する。範囲(図示)厚さ() (2.4.1)
1	最影方法は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(平成31年版)・同解説 工事	17 証明書の提出	「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)及び「高知県グリーン購入 サネキないではない。		※ 上記のほか、使用材料のメーカー名、品番、色(マンセル値等)をCADデータ等で監督職員に提出する。		
	『真の撮り方 建築編」による。 『ジタル工事写真の小黒板情報電子化の実施をする場合は、監督職員の承諾を受ける。		基本方針及び実施計画」に基づき、重点調達品目については、積極的に利用すること。なお、重点調 達品目の中で木材・木材製品等においては、その原料とされる原木が生産された国における森林に関		また、工種別下請負者の一覧表を提出する。 ○施工図、施工計画書 (1.7.2)	土工事	
t _e	なお、実施については、国技建管第10号(平成29年1月30日付)「デジタル工事写真の小黒板情報電子		する法律に照らして合法なものを使用する。		提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものと	1 埋戻し及び盛土	種別 ・ A種 (水締めのきく砂質土) (3.2.3) (表3.2.1) ※ B類 ・ C類 ・ D類
11	について」による。		木材・木材製品等については、県産木材納入証明書、県外産合法木材納入証明書を監督職員に提出すること。 《1.4.2》		する。		※B種 · C種 · D種
下請負者の報告	下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。	18 技能士及び技能資格者	※ 適用する (O:一級、●:二級) (1.5.2) (1.5.3)	27完成写真	下表のものを監督職員に提出する。 位 置 分類・規格 撮影枚数 部 数 原版の大きさ(mm)	② 建設発生土の処理	※構外搬出適切処理(搬出前に建設発生土の受入証明又は法令による許可書等を提出する) (3.2.5) ・構内指示の場所に敷き均し
電気保安技術者 道	預用する。 (1.3.3)	1 1	エ 事 種 別 技 能 検 定 等 の 職 種		○各室 手札版(L版) ※ 2 枚 · 枚※ 1 部 · 部 · 100 × 125以上		・構内指示の場所にたい積
)施工条件 前	5.エロ及び施工時間 ※1.3.5(1)(7)による。 (1.3.5)		- 仮設工事 ※ ●とび(又は足場組立作業主任者) - 鉄筋工事 ※ ○鉄筋施工(鉄筋組立作業)		外部 キャビネ版 ※ 4 枚 ・ 枚※ 1 部 ・ 部 ・ 24 × 36以上 外部 半切パネル(・木製枠※アルミ枠) ※ 1 枚 ・ 枚※ 1 部 ・ 部		・構外指示の場所に処分(搬出調書等を提出する) ・受入れ施設名:
1	•		・コンクリート工事 ・ 〇コンクリート圧送施工 ・ 〇型枠施工		- スライド ※ 1 部 ・ 部		- 受入れ場所:
	事用車両の駐車場所及び資機材の置場所 (1.3.5) ※ 仮囲内 ・ 図示		 ・鉄骨工事 ※●とび・ ・ブロック・ALCパネル工事 ・ ○ブロック建築・(単一)ALCパネル施工 		カラー・電子データ化 (CD-R等) し、すべて提出する。 撮影箇所は監督職員と協議する。	3 山留め	山留め工法・・
-	- の他の施工条件		・防水工事 ・ 〇アスファルト防水工事 ・ 〇合成ゴム系シート防水工事		上表のほか、監督職員指示の箇所をデジタルカメラにて撮影し、CD-R等にて提出する。		山留めの撤去 ※撤去する ・存置する (3.3.3)
-			・○ウレタンゴム系塗膜防水工事・○アクリルゴム系塗膜防水工事・○シーリング防水工事		画像形式等 フォーマット: JPEG 画質:標準 画像サイズ:1024×768ピクセル程度		抜き跡の処理 ※砂で充填する・
-			・OFRP防水工事 ・O塩化ビニル系シート防水工事 ・石工事 ※O石材施工・	28 設備工事との取合い	施工範囲 ・貫通孔、開口部の補強 ※下表 ・図示	地業工事	
			・タイル工事 ※〇タイル張り ・		・壁、天井の仕上村、下地村の切込み及び下地村の補強 ※下表 ・図示	1 試験杭	
			・木工事 ※ ○建築大工 ・ ・屋根及びとい工事 ・ ○かわらぶき ・ ●スレート能工 ・ ○建築板金		・駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ・自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強		杭の種類 ※本杭・
			・金属工事 ・〇銅製下地工事 ・(単一)金属製パルコニー工事			2 杭の載荷試験	試験の種類 ・鉛直載荷試験 ・水平載荷試験 (4.2.3)
1	交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を 8.は4.整件業子の整件員も科学することは、神学体学員等の体験様の来る代表を持ちませたいことによる		・左官工事 ※〇左官・ ・ 建具工事 ・〇サッシ施工		補強種別 内容		試験位置 ()箇所 ※図示・ 試験深さ・設計GLより()m
	●けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。 □だし、一時的な作業等で、安全確保に対処できると監督職員が認めたものについては、この限りで		・〇木製建具製作 ・〇ガラス施工		楽		試験対象土質
t.	sいものとする。		・カーテンウォール工事 ※ 〇カーテンウォール施工・ ・ 塗装工事 ※ 〇塗装(建築塗装作業)・				最大荷重 () t 試験の方法及び報告書の記載事 攻 図示
	記置人員等 ・令和 年 月 日から令和 年 月 日までの間は 名常駐する。 ・作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。		内装工事・○プラスチック系床仕上げ工事・●カーペット系床仕上げ工事			0 10 00 0 00 00 00 00	
	○監督職員と協議し、適宜配置する。 記置人員の資格		・ ○ボード仕上げ工事 ・ ○表装(壁装作業) ・ ○畳製作 ・ 植栽工事 ※ ○造園		黄通孔、開口部の補強	3 地盤の載荷試験	試験の種類 ※平板載荷試験 試験位置 ()箇所 ※図示 (4.2.4)
-	1名以上/1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者(1級又は2級)を配置する工事。		・その他 ・(単一)樹脂接着剤注入施工(エポキシ樹脂注入工事)				試験深さ・設計GLより()m
	交通誘導に関し、1名以上/1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。 資格		 ○家具製作(家具手加工作業) - 				試験対象土質 最大荷重 · () t
1	. 2級交通誘導警備 交通誘導警備に関して、公安委員会が学科及び実施試験を行		適用する技能士について、当該資格を有することが確認できる書類及び資格者が特定できる書類(選 転免許証等)の写しを提出する。				試験の方法及び報告書の記載事際、図示・
1	R定合格者 い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの 交通誘導警備員 A) 人				<u> </u>	4 既製コンクリート	杭の種類 ※遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) (4.3.3)
	・通誘導に関し、専門 警備業法における指定講習を受講したもの	19 化学物質の 室内濃度の測定	化学物質の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、 (1.5.9) 報告書を監督職員に提出する。		壁切込み及び補強	杭地業	・外殻綱管付きコンクリート杭 (SC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)
1	7な知識及び技能を有 警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第 2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通		ただし、完成検査前に報告書の提出が困難な場合は、事前に信頼のおける速報等の資料を監督職員に				
	交通誘導警備員B) 誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの 人		提出する。この場合、後日に正式な報告書を速やかに監督職員に提出しなければならない。 測定する業者の選定にあたっては、あらかじめ監督職員に報告し、測定時期、測定対象室については		 工业机队 2		種類、性能、曲げ強度等による区分等 ※図示 ・ 寸法及び継手の箇所数 ※図示 ・ (4.3.3)
	なお、事前に監督職員に検定合格証の写し等の資格要件の確認できる資料を提出する。		監督職員と協議する。		天井切込み及び補強		杭先端部の形状 · 開放形 · 半開放形 · 閉塞形 ※図示 (4.3.3)
	また、警備員等に変更が生じた場合は、速やかに監督職員に同様の資料を提出する。			1			
持				- 凡	 東 洋 町	ュ	事 名 野根地区公衆トイレ等整備工事
				1.		辛	匠図 特記仕様書(1)
5				例			<u>に 図 付記は</u> (味音(1)) . 04. 30 縮 尺 S=1: 図 番 A-01
1					9X E2 1X 11	2020	

項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項	項目	特能事項
		コンクリート工事		木造工事			国土交通大臣が指定した乾燥処理を施した木材 (6.2.2)
	支持層の位置及び土質: ※ 図示	1)コンクリートの	※普通コンクリート (6.2.1~6.2.2) (6.2.4) (表6.2.2)	1 複数の構・工法			施工箇所:() 含水率:・20%以下 ※15%以下
	傾斜 1/100以内 ・特定埋込杭工法(建築基準法認定工法) (4.3.3)(4.3.5)	種類・強度・スランプ	設計基準強度 Fc (N/mm2) スランプ (cm) 適 用 箇 所 ※24 ・ 15 ⊙ 18 基礎	②ホルムアルデヒト	※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるのものとする (4.1.3)		広業樹製材「製材の日本農林規格」 (6.2.2)
	工法: 支持層の位置及び土質: ※ 図示		<u>○</u> 21 · 15 <u>○</u> 18 ±間	放出量 3 耐火構造			### お話の品質 お話の品質 ・特等 ※図示 ・13%以下 ・K2 ・K2
	杭の根入れ長さ: ※ 図示 杭の精度: 水平方向の位置ずれの精度 杭径の1/4かつ100mm以内		・軽量コンケリート	3 順火構造	本材を用いて耐火構造とする場合の適用 (4.1.5) ・平成12年告示第1399号に基づくもの ・国土交通大臣の認定を受けたもの		· 1等 · 10%以下 · K3
	傾斜 1/100以内 杭の継手工法 ※アーク溶接 (4.3.6)		設計基準強度 Fc(N/mm2) スランプ (cm) 適 用 箇 所	4 防腐・防蟻処理	- 処理不要樹種 ※4.2.1(7)による (4.2.1)		・ 2 等 ・ K 4 基準強度:平成12年告示第1452号第五号に基づくもの
	- 無溶接継手 (工法: ※性能評価された工法 ・		*21 · 15 · 18 · 18 · 15 · 18		適用部材 ※図示		- 縦振動ヤング係数測定対象部材 (別定数 - 全数 ※抽出 (抽出方法: JIS Z 2101による ※ 無作為に10%)
5 鋼杭地業	材料 (4.4.3)(表4.4.1) ・鋼管ぐい 種類の記号(・SKK400 ・SKK490)				○薬剤の加圧注入 ①日本農林規格の保存処理 性能区分 K2 ※K3 · K4 ・JIS K 1570又はJIS A 9002		無等級材「日本農林規格以外の製材」 (6.2.2)
	- 胸管 (い 種類の記号(SMK400 - SMK490) - H 影響 (い 種類の記号(SHK400 - SHK490 M) - 寸法 ※ 図示		コンクリートの類別※ I 類 ・ I I 類 (6.2.1) (表6.2.1)		・インサイジング加工 適用部位 ※図示		部位 樹種 寸法 含水率 保存処理 材面の品質
	1.	②セメントの種類	※普通ボルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)・高炉セメントB種 (適用箇所:外部側溝)				※図示 ・ 20%以下 ・ K 2 ・ K 2
	杭の根入れ長さ: ※図示 杭の精度: 水平方向の位置ずれの精度 杭径の1/4かつ100mm以内		・フライアッシュセメントB種 (適用箇所:)		●薬剤の塗布		· K 4
	傾斜 1/100以内 継手の工法 ※ 図示	2 2 +	アルカリシリカ反応性による区分 ※A ·B (6.3.1)		- JIS K 1571付属書A (規定) による 薬剤の種類 ()		※図示 ・K2 ※ 15%以下 ・K3
	・杭頭処理 杭頭の切断方法 ※ガス切断 ・図示 (4.4.6)	0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10			適用部位 ※図示 ・地面から1m以下の部分 処理方法 ※4.2.1.(ク).(b)による		・K4
6 場所打ち コンクリート杭地業	据削工法 ・アースドリル工法 (安定液 ※ 使用する ・使用しない) (4.5.1)(4.5.5) ・リバース工法	4 混和材料	②混和剤 ※A E剤又はA E減水剤標準形 (JIS A 6204) (6.3.1) ・高性能A E減水剤標準形 (JIS A 6204)		処理に使用した薬剤、使用量等の記録を監督職員に提出すること		基準強度: 平成12年告示第1452号第五号に基づくもの ・ 縦振動ヤング係数測定対象部材 ()
	・オールケーシングエ法 (孔内の水張り ・ 行う ・ 行わない) 併用する工法・場所打ち飼管コンクリート杭工法 (4.5.1)(4.5.6)		・混和材 ・フライアッシュ(・I種・II種・IV種) (JISA 6201)		・薬剤の接着剤への混入 適用部材 ※図示		測定数 ・全数 ※抽出 (抽出方法: JIS Z 2101による ※ 無作為に10%)
	- 拡底核工法 (安定液 使用する 使用しない) 帯筋の加工及び組立て: ※ 図示 (4.5.4) 鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm ・ 図示 (4.5.4)		・コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JISA 6206) ・コンクリート用シリカフューム (JISA 6207)		・合板等の加圧注入 適用部材 ※図示	4 枠組壁工法構造用製材	枠組材「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」 (6.2.2) 施工箇所 品名 樹種 樹種群 寸法型式 等級 含水率 保存処理
	数筋のでは、かかっから 数筋かこの補強 ※ 図示 (4.5.4) 数筋の節ごとの継手 ※ 重ね継手 (4.5.4)		- > 5 H	5 地盤の土壌の防蟻処理	業剤及び使用量 ※図示 (4.2.3) ① 建物基礎下及び土間コンクリート下全面(使用量:1 m2当たり薬剤原体換算 30 g 以上散布する。		- 甲種枠組材
	セメントの種類 ※ 高炉セメントB種 ・ (4.5.4) コンクリートの設計基準強度 (Fc) ※ 図示 ・ (4.5.4)	5 構造体強度補正値 (S)	※表6.3.2による ・ (6.3.2)	6 防腐措置	・床下換気 ・ねこ土台 ・換気孔 (4.2.4)		・MSR枠組材 ・K 4
	コンクリートの種別 ※表4.5.1による · (4.5.4) スランプ ※18cm · (4.5.4)	6 打継ぎ目地及び ひび割れ誘発目地	打継ぎ目地の寸法 ※9.7.3(1)(7)による・ (6.6.4)(9.7.3) ひび割れ誘発目地の位置 ※図示 · (6.8.1)		・小屋裏換気 ・4.2.4.(3).(c)による(換気孔の大きさ ※ 図示)		- 甲種枠組材 - K 2 - K 3 -
	構造体強度補正値(S) ※ 3 N/mm2 ・ (4.5.4) 鋼管 鋼管部分の材料) ※ 図示 (4.5.4)	○○四年の元日地	ひじ耐化防死日尾の吐血 ※固示 (6.8.1) (7) による (6.8.1) (9.7.3)	7 防火被覆処理	防火被覆材の材料及び厚さ ※図示 (4.3.2)		- MSR枠組材 - K 4 - 甲種枠組材 ※ 19%以下 - K 2
	支持層の位置及び土質: ※ 図示 孔壁の確認 ・ 行う(超音波測定器による) ・ 行わない (4.5.4~4.5.5) 私の精度: 水平方向の位置ずれ ・ 旅径の1/4かつ100ms以下・	7 打増し厚さ	外部に面するコンクリートの打増し厚さ(mm) (6.8.1)		接合部等の防火被覆処理 《4.3.3》		- Z種枠組材 - K3 - MSR枠組材 - K4
(7)砂利及び砂地業	杭の精度: 水平方向の位置ずれ ・ 核径の1/4かつ100ms以下・ 傾斜 1/100以内 材料 (4.6.2)		外壁 ※図示 · 20 · 25 · 軒天 ※図示 · 10 · 15 · 20		柱若しくは梁を接合する継手又は仕口の接合金物の防火被覆処理 ※図示・ボルト・ドリフトピン等の接合具に防火被覆処理を行う		「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」以外の材料を使用 する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を
いが何及び砂地業	材料 (4.6.2) 砂料地業 ※切込砂利又は切込砕石 ※ 再生クラッシャラン(直接基礎下を除く) 砂地業 ・山砂 ・川砂又は砕砂		その他 ※図示 - 20(基礎立ち上り外面) - 15	+140 48 14 (4) 18 17 -			満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
	厚さ ①図示 ※ 60mm · (4.6.3)	8構造体コンクリートの仕上り	コンクリートの打放し仕上げ ※合板せき板を用いる場合 (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4)	軸組構法(軸構造系)工事			国土交通大臣の基準強度の数値等の指定を受けたMSR枠組材 (6.2.2) 施工箇所:() 含水率:・20%以下 ※15%以下
(8) 捨コンクリート地業	コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・ (6.14.1) 設計基準強度(Fc) ※18N/mm2 ・ スランプ ※15cm ・ (4.6.4)		種別 厚さ(mm) 施工箇所 ○ A種 ※ 12 ・ 見え掛部(基礎、外構)	1 集成材	構造用集成材「集成材の日本農林規格」 (6.2.2)	5 枠組壁工法構造用	たて継ぎ材「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」 (6.2.2)
9 床下防湿層	ペランノ ※ 150m (4.6.4) 厚さ ※ 55mm 施工範囲 ※建物内土間スラブ及び土間コンクリートの直下(ビット下を除く) (4.6.5)		- D種 ※ 12 ·		部位 品名 曲/f性能 材面の 接着性能 (使用環境) 樹種 寸法 保存処理	5 枠組壁工法構造用 たて継ぎ材	施工箇所 品名 樹 種 樹種群 寸法型式 等 級 備考
・ 小	施土範囲 ※ 推例外工間スラノ及び工間コングリートの直下(ピットトを除く) (4.6.5) (断熱材がある場合は、断熱材の直下) - 図示		- ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **		- 1種 · A ※ 図示 - 2種 · B		・甲種たて継ぎ材・乙種たて継ぎ材
10 抽盤功卓	・ポリエチレンフィルムの厚さ ※ 0.15mm ・		付料() 厚さ()		- 3種 · C - 1種 · A ※ 図示		- MSRたて継ぎ村 - 甲種たて継ぎ材
10 地盤改良 鉄筋工事	・ 図示(構造図)		適用部位 ※下表 ・図示 (6.2.5) (表6.2.5) (15.4.2)		・2種 ・B ・3種 ・C		- 乙種たて継ぎ材 - MSRたて継ぎ材
		の平たんさ	種別 コンクリートの 内外装仕上げ 平たんさ		「集成材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、 部位ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を		・甲種たて継ぎ材 ・乙種たて継ぎ材
(1) 鉄筋の種類	(5.2.1) (表5.2.1) 種類の記号 呼び名 使用箇所		コングリートが見え掛りとなる 場合又は仕上げ厚さが種 めて薄い場合での他非常 さ [良好な平たんを及び良 プロロングリート直均し仕上げ		監督職員に提出すること。		・MSRたて継ぎ材 「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」以外の材料を使用
	● \$0295		□程 「只身好な平たんを及び長」 「		化粧ばり構造用集成柱「集成材の日本農林規格」 (6.2.2) 郵位 (芸材) 品名 化粧薄板の厚 見付け材面 寸法 の品質 の品質		する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を 滅たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
	- 50390 - 50390 - 5R235		哲 t上げ度がアmm 未満の 3mにつ 仕上室材塗り かっぺ 7h張り 物・ペーク機の子の他内径で記される。 は 様々の子の他内径で記される。		部位 (常校) 品名 1C租滞(Mの)字 児(行)「Aが回 寸法 つ品質 ・1等 ※ 図示		国土交通大臣の基準強度の数値等の指定を受けたたて継ぎ材 (6.2.2)
	- SR295		t		・2等		施工箇所: () 含水率: - 20%以下 ※ 15%以下
② 溶接金網等	規格 ※ JIS G 3551 (5.2.2) 種類 · 溶接金網 · 鉄筋格子		世上げ厚さが7mm 以上の 増合又は下地の影響を受けたくい仕上げの場合 けにくい仕上げの場合 市		. 1等 ※ 図示 . 2等 . 2等	6 木質接着成形軸材料	木質接着成形軸材料, 木質複合軸材料, 木質複合パネル, 木質接着複合パネル (6.2.2) 施工箇所 形 状 寸 法 含 水 車 備 考
	鉄線の形状、網目寸法 (図示 鉄線の径(mm) (図示)		けにくい仕上げの場合 Tomp以 下 胴縁下地 二重床		「集成材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、 部位ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を ************************************	木質複合軸材料 木質断熱複合パネル	82.4.曲/71 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1
③ 鉄筋の継手及び定着	継手 (5.3.4)(表5.3.2~表5.3.3) 節 位 継 手 方 法 呼び名	10 スリーブの材種. 規格等	※下記の通り ・図示 (6.8.2)(表6.8.1) (i) A以降の場内報公室水電大ス報公に用いるフリーブは、つばはき個等とする		監督職員に提出すること。	木質接着複合パネル	
	か 位 機 手 カ 法 呼0名 柱・梁の主筋 ※ ガス圧接継手 重ね継手 機械式継手 溶接継手 耐力型の鉄筋 ※ 重ね継手		(i) 外壁の地中部分等水密を要する部分に用いるスリーブは、つば付き鋼管とする。 (ii) 地中部グで水密を要しない部分に用いるスリーブは、硬質ポリ塩化ビニル管とする。 (iii) (iii) (iiii) (iiiiiiiiiiiiiiiiiii	2 構造用単板積層材	4.744.00	7 直交集成板	直交集成板「直交集成板の日本農林規格」 (6.2.2) 施工箇所 品名 曲げ性能 種別 接着性能 樹種 寸法
	その他 ※ 重ね継手・ 総手の位置 ※ 図示・配筋標準図による (5.3.4)		(iii) (i)及び(ii)以外の円形スリーブは、溶融亜鉛めっき鋼板とし、原則として、筒形の両端を 外側に折り曲げてつばを設ける。また、必要に応じて、円筒部を両方から差し込む伸縮形とする。		施工箇所 樹種 品名 (曲げヤン ケチョン が (機着性能 (使用環境) 区分 (機存処理 区分)		(強度等級) (使用環境) (特性 1/公 (使用環境) (特性 1/公 (
	先組み工法等で柱、梁の主筋の隣り合う継手を同一箇所に設ける場合 ※ 図示 重ね継手の長さ ※ 図示 5.3.4(3)による (表5.3.2)(5.3.4(3))		(iv) 硬質ボリ塩化ビニル管は、防火区画を貫通する場合には使用しない。 なお、柱及び梁以外の箇所で、閉口補強が不要であり、かつ、スリーブ径が 200mm 以下の部分		※ 図示		· B
4 ** * * * * * * * * * * * * * * * * *	鉄筋の定着の長さ ※ 表5.3.4による ・ (表5.3.4)(5.3.4(5))		は、紙チューブとすることができる。		※ 図示		· A ※図示
4 鉄筋のかぶり厚さ	 ※ 表5.3.6による (表5.3.6)(5.3.5) ※ かぶり厚さは目地底から算定する。 ・塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所の最小かぶり厚さは下表による。(5.3.5) 	11 床型枠用鋼製デッキ プレート	評価名簿による (6.8.3) 使 用 箇 所 厚 さ 備 考		※ 國示		・ C ・ C 「
	進書を受けるおされいめる部が寺・耐久性上不利は固州の数(パルかり) 早さは下我による。 (5.3.5) 施 工 箇 所 等 表5.3.6の値に加える数値 (mm) 柱、梁、壁及び庇等の外気に接する打増し面 ※10				「単板積層材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、 施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を		施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を 監督職員に提出すること。
		12 軽量コンクリート	(6. 10. 1) (6. 10. 2) (表 6. 10. 1)		施工曲所 ことに指定している安木 正能を利たしているものとなっていることを証明する具件を 監督職員に提出すること。	(8)構造用面材	新日明県に按出すること。 構造用合板「合板の日本農林規格」 (6.2.3)
	表5.3.6の値に加える数値(mm) () 機械式縄手及び溶接縄手の場合の鉄筋相互のあき ※ 図示 (5.3.5)			3 製材	目視等級または機械等級区分構造用製材「製材の日本農林規格」 (6.2.2)	で特足が単位	構造用含板「含板の日本展林規格」 (6.2.3) 施工箇所 品名 (mm) 樹種名 等級 版面の 曲げ性能 接着の 保存処理 品質 (強度等級) 程度
5 各部の配筋	※ 図示 ・ (5.3.7)	10 無筋コンクリート	コンクリートの種類 ※普通コンクリート・軽量コンクリート		部位 樹種 強度等級 含水率 保存処理 材面の 美報		M.
6 圧接完了後の試験	試験方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 (5.4.10)	(捨コンクリート を除く)	コンケリートの種類 ※音通コンケリート・軽重コンケリート (6.14.1) 設計基準強度 Fc (M/mn2) スランブ(mn) 適用簡所 ※ 18 ・ ※15 ・ 18 ※ 6.14.1(4)による・図示		図示 図示		・1般 ※行わない ・1般 特類 ・7う
6 貫通口補強	· 図示		次 10 次 10 次 14 1 (中) による 図示		・ 20%以下 ・ K 2・K 3 ・ 15%以下 ・ K 4		・1類 ※行わない ・2級 ・1類 ※行わない ※屋外又は屋内の常時湿潤状態となる場所に使用する接着の程度は特類とする。
					· 20%以下 · 15%以下 · K 2 · K 3		「合板の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて. 施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を
					- 20%以下 - 15%以下 · K 2 · K 3		監督職員に提出すること。
					各部位の寸法は図示とする。 機械等級区分構造用製材の材面の品質 (節. 丸身など)		
特 ———				凡———	東洋町	エ	事 名 野根地区公衆トイレ等整備工事
					ж /+ ш	- 普 「	至 図 特記仕様書(2)
				例	製 図 検 印		1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
•				•	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•	_

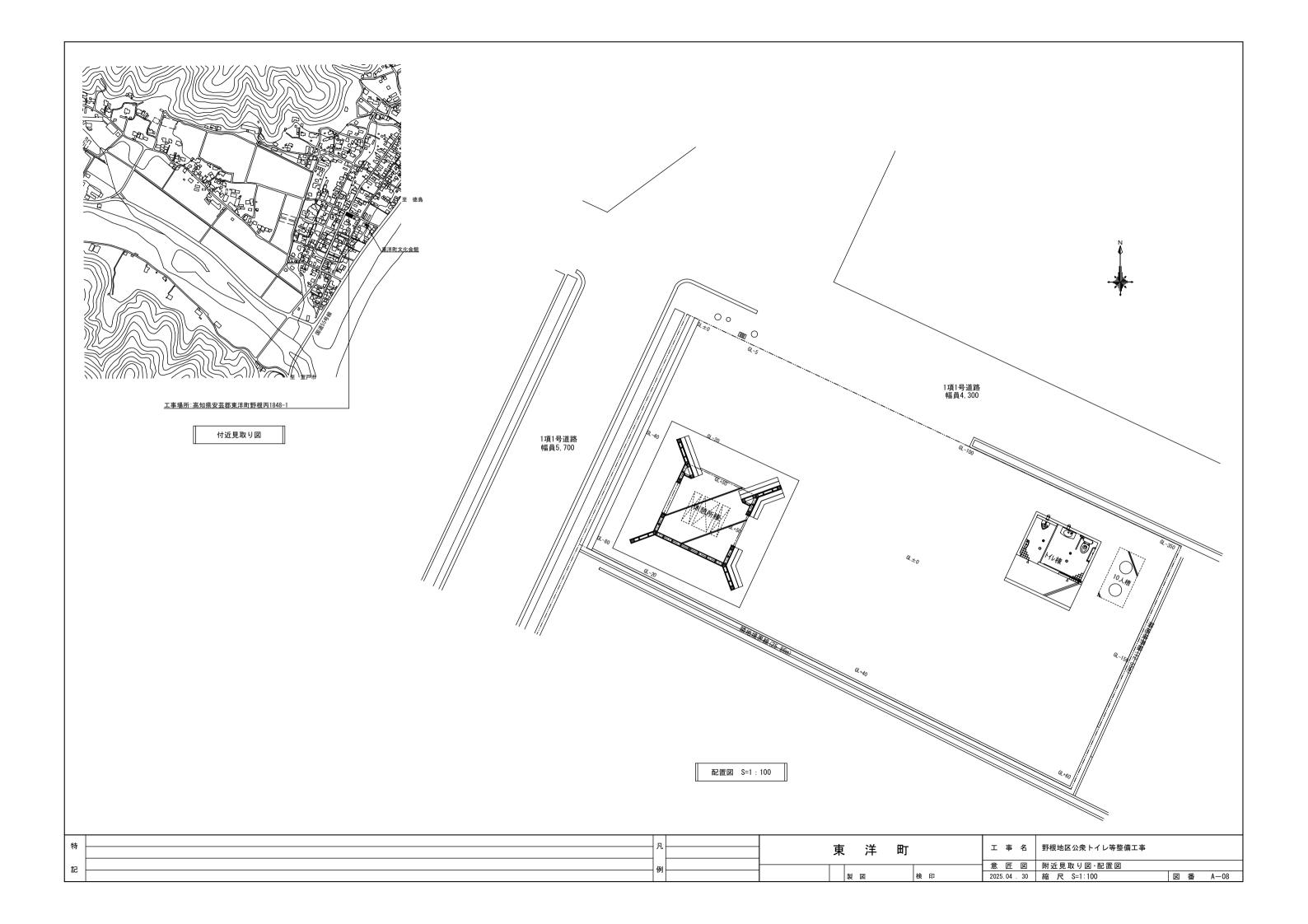
項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項		項目	特 能 事 項	項目	特 記 事 項
	化粧ばり構造用合板「合板の日本農林規格」 (6.2.3)	15接着剤	・床鳴り防止用接着剤の種類 ・変成シリコーン樹脂系 ・ ウレタン樹脂系	(6.2.4)		・木製床東 上部仕口の形状 ※図示 ・突付け ・ (6.8.2)		「集成材の日本農林規格」に基づく造作用集成材 (10.2.2)
	施工箇所 品名 厚さ 操著の程度 備考		●接着剤による接合の接着剤の種類・変成シリコーン樹脂系・ウレタン樹脂系			留付け方法並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示 ・N75釘斜め打ちの上かすがい打ち又はひら金物ZN75太め釘4本打ち		部位 樹種 品名 化粧薄板 見付け材画 見付け材 面の品質 寸法 備考
	(mm)		○接着剤を併用した接合の接着剤の種類 ○エポキシ樹脂系			- 銅製床束の仕様及び設置方法 ※図示		
	- 1類	16 現寸図	床書き現寸図の作成 ・作成する ・作成しない	(6.4.2)		- 樹脂製床東の仕様及び設置方法 ※ 図示 - 機大掛 継手の形状 ※ 図示 突付け 《6.8.3》		· 2 等
	- 特類 - 1類	17 孔あけ加工	ボルト孔の大きさ ※表6.4.1による・	(6.4.5)		留付け釘の種類及び留付け方法 ※図示 ・N75釘2本平打ち (6.8.4)・根太 根太の間隔 ※図示 ・300mm程度		※1等 ※図示
	※屋外又は屋内の常時湿潤状態となる場所に使用する接着の程度は特類とする。		ドリフトビンの孔径 ※ビン径と同径・			継手の形状及び留付け釘の種類 ※図示 ・突付けN90釘打ち		· 2等
	「合板の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて, 施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を	18表面の仕上げ	見え掛り面の表面仕上げ	(6.4.6)		梁又は大引と根太との仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示 ・置渡しN75釘2本斜め打ち		※1等 ※図示
	監督職員に提出すること。		機械加工によるかんな掛け仕上げの程度(製材) ・ A種 ・ C種			床組に根太を用いない場合の工法等 ※図示・ 《6.8.5》		· 2等
	パーティクルボード (JIS A 5908) (6.2.3)		機械加工による仕上げの程度(構造用集成材)			・休栄 任日の形状业のに接合金物及の接合具の種類 ※ 図示 ・大入りあり掛け羽子板ボルトM12締め		
	施工箇所 厚さ 曲げ強さに 表裏面の状態に おる区分 よる区分 おる区分		・A種 ※B種 手加工によるかんな掛け仕上げの程度(製材)			- 構造用面材によるほ組 - 構造用合板6.2.3(7)による適用部位 ※図示		「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 《10.2.2》
	- 18 - 13 - 8 - RN - RS - VN - REG		· H — A種 · H — B種 · H — C種	/5 / A)		化粧ばり構造用合板6.2.3(4)による適用部位 ※図示		部位 樹種 化粧薄板 見付け材 含水率 寸法 備考
	-24-10 -17.5-10.5 -VS -DV -DO -MR 1 -30-15 -DC -MR 2		○木材保護塗料塗り (WP)適用箇所 ※図示 ・見え掛り面	(5.4.4)		・パーティクルボード6.2.3(f)による適用部位 ※図示 ・構造用パネル6.2.3(r)による適用部位 ※図示		※ 15%以下 ※ 図示
	Market and the second	19搬入及び建方	アンカーボルトの埋込み深さ ※図示	(6.5.3)		・根太を設けた床組		* 図示
	構造用パネル「構造用パネルの日本農林規格」 (6.2.3) 施工箇所 品名 厚さ (mm) 曲げ性能(等級)	Marrian and	保持及び埋込み工法 ・A種 ※B種	《表6.5.1》		・根太と床梁又は胴差の上端高さが同じ場合 床梁・胴差との接合部の根太の仕口の形状		A 100 Tr
	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・ 4級 「構造用パネルの日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に		位置の許容誤差 ※ ± 5 mm ・ 基礎天端及び柱底均しモルタルの仕上げ	(6.5.3) (6.5.4)		※図示 ・ 根太の留付け方法並びに接合金物及び接合具の種別		* 図示
	準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを		厚さ ※ 20mm程度 ① 10mm			※図示 ·		
	証明する資料を監督職員に提出すること。		セルフレベリング - 適用する 無収縮モルタル - 適用する			構造用面材の留付け釘の種類、留付け方法及び釘打ち間隔 ※図示		
9 接合金物	屋外環境で使用する金物の材質 ※ステンレス製 《6.2.4》		柱底均しモルタルの工法 ・ A種 ※B種	《表 6. 5. 2》		・根太と床梁又は胴差の上端高さが異なる場合 床梁等に直交する根太の仕口の形状		「単板積層材の日本農林規格」に基づく造作用単板積層材 (10.2.2)
	- 6.2.4.(1).(a)による金物 寸法、形状および銅材の材質 ※図示 《6.2.4》			(6.5.7) (6.5.8)		※図示 ·		施工箇所 厚さ (mm) 表面の化粧加工 防虫 処理
	表面処理の適用 (14.2.3) (18.3.2) (18.3.3) 《6.2.4》		構造材を接合する釘及び木ねじの種類. 本数及び間隔 ※図示 ・ 各種ポルトの工法	《6. 5. 11》		受材・際根太の寸法 ※図示 ・		・ 有り (・天然木化粧加工・塗装加工)・無し () ・ ・ 有り (・天然木化粧加工・塗装加工)・無し () ・
	・溶融亜鉛メッキ (※電気亜鉛メッキ ・錆止め塗装・防腐・防蟻処理製材等に使用する場合は、腐食が起きないよう表面処理を施したもの		施工箇所 種 類 径 本 数 間 隔 座金の			留付け釘の種類、留付け方法及び釘打ち間隔 ※図示・・		
	溶接接合 溶接技能者への技量付加試験					構造用面材の留付け釘の種類、留付け方法及び釘打ち間隔		「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 (10.2.2) 防虫
	・行う ※行わない		構造材を仕上げ材として用いる場合の見え掛り部の取付け方法			※図示 ・根太を設けない床組		施工箇所 厚さ(mm) 表面の化粧加工 処理
	代替エンドタブを使用する場合は、技量付加試験を行うか、AW検定協議会が 実施する代替エンドタブ検定により認定された溶接技能者でなければならない		※座掘りして埋木処理 ・輸型ジベル接合	《6. 5. 15》		留付け釘の種類、留付け方法及び釘打ち間隔		・有り(・天然木化粧加工・塗装加工) ・無し ・ ・ 含水率 ※14%以下 ・
	開先の形状 ※図示 ・「鉄骨工事技術指針・工場制作編」による (7.6.4)		種類,材質,形状及び寸法 ※図示	《6. 5. 16》		※図示 ·		直交集成板「直交集成板の日本農林規格」 (10.2.2)
	スカラップの形状 ※図示 エンドタブ ※切断する ・切断しない		種類、材質、形状及び寸法 ※図示					■交乗及板「■交乗及板の日本要件規格」 部位 樹種 品名 (当の) (使用環境) で法 (使用環境) (使用環境)
	適用箇所 ※見えがかり部 ・図示 ※6.2.4.(1).(b)の2またはCマーク表示金物による	(20)軸組	①土台 仕口の形状 ※図示 隅の仕口 ※図示	(6.6.1)				(強度等級) 12.27 (使用環境) 7.24 (使用课程) 7.24 (使用程) 7.24 (使用
			継手の形状 ※図示					· B種構成 · C
	接合金物の工法 [6.5.9] 2つ以上重なりあう場合などの木材の彫り込み ※接合金物の厚さ		世口及び継手の位置 ※図示・火打土台 仕口の形状 ※図示	(6.6.2)	工事			
	見え掛り部に取付け方法 ※図示		留付け釘の種類及び方法 ※図示 ・鋼製火打土台の施工箇所 ※図示	Œ	表面仕上げ	機械加工によるかんな掛け仕上げの程度(製材・造作用集成材) 《表10.1.1》 《10.1.3》		普通合板「合板の日本農林規格」 (10.2.3)
10 釘及び木ねじ	※6.2.4.(2).(ア)または(イ)及び(ウ)による釘または木ねじの適用 [6.2.4]		○柱 仕口の形状 ※図示	(6.6.3)		表面仕上げの種別 適 用 箇 所 ・ A 種		施工箇所 厚さ (mm) 樹種名 接着の 板面の品質 防虫 壁燃 防炎 堀 寿
	・6.2.4.(2).(エ)によるコンウリート用釘、その他特殊な釘または木ねじの適用 材質:※図示 寸法及び形状:※図示	(21)小屋組	○小屋梁 仕口及び継手の形状、位置並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示	(6.7.1)		· B種		世 ○ 9 772 ※ 1 類 広業樹 (※2等以上) 12.0 2 類 針葉樹 (※C-D以上)
	釘及び木ねじの工法 《6.5.10》		軒桁又は敷桁との仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示・・			- C種 手加工によるかんな掛け仕上げの程度(製材) 《表10.1.2》 《10.1.3》		屋外又は屋内の常時湿潤状態となる場所に使用する接着の程度 ※1類
	部 位 釘の種類 釘打ちの間隔 備 考 図示 図示 図示		→ 小屋東 上部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類	(6.7.2)		表面仕上げの種別 適 用 箇 所		構造用合板「合板の日本農林規格」 (10.2.3)
	構造材を仕上げ材として用いる場合の見え掛り部の釘打ち		※図示 下部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類			※H-B種 内部造作材、外部造作材		施工箇所 厚さ 単板の樹種名 接着の 容級 板面の品質 防虫 強度等級
	・隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し		※図示			※ H - C種 下地材		屋根·内壁 24.0 4 葉樹 ※ 特類 1級以上 ※ C-D以上 .
(1)ボルト、アンカーボルト	※6.2.4.(3).(a)による (6.2.4)		・登り梁 上部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類 (合掌) ※図示	(6.7.3)	材料	材料の含水率の規定がない場合の種別 (表10.2.1) (10.2.1) 下地材 ※ A種15%以下 ・ B種20%以下		② 12.0 ^{18 1/18 1} ・ 1 類 ※ 2 級以上 ・ ※ 指定しない 屋外又は屋内の常時湿潤状態となる場所に使用する接着の程度 ※特類
ナット及び座金	・6.2.4.(3).(b)による ポルト及びナット材料等: ※表6.2.2による・ (6.2.4)		下部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示			造作材 ※ A種15%以下 · B種18%以下		化粧ばり構造用合板「合板の日本農林規格」 (10.2.3)
	表面処理の適用 (14.2.3) (18.3.2) (18.3.3) 《6.2.4》	1 1		(6.7.4)) 木材	「製材の日本農林規格」に基づく製材 《10.2.2》		族工策部 日夕 厚さ 接着の 単版の財孫タ 防虫
	・溶融亜鉛メッキ ※電気亜鉛メッキ ・錆止め塗装 ・防腐・防蟻処理製材等に使用する場合は、腐食が起きないよう表面処理を施したもの		上部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示	ľ		部位 樹種 板面の品質 形状 含水率 保存処理 備考		- 株類
	アンカーボルトの材質. 寸法等 ※図示 ・ (6.2.4) 座金 (6.2.4)		下部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類 ※図示			下地材 図示 2級 図示 ※15%以下 図示 図示		・ 1類 ・ 1類 ・ を外又は屋内の常時湿潤状態となる場所に使用する接着の程度 ※特類
	材質: ※図示		○棟木. 母屋 継手の形状及び位置並びに接合金物及び接合具の種類	(6.7.5)		W 1594 N T		
	厚さ、寸法及び形状 ※表6.2.3又は表6.2.4による		※図示 T字部の仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類			造作材 図示 上小節 図示 無し 見え掛り面		天然木化粧合板「合板の日本農林規格」 (10.2.3) 施工箇所 厚さ 化粧板の単板 接着の 防虫 傷 者
	引張り応力を受けるポルトの座金 《表6.2.3》		※図示 ○析行筋かい、振れ止め	(6.7.6)				施工箇所 (mm) の樹種名 程度 処理 備 考
	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種 ・ G種 せん断応力を受けるポルトの座金 (表6.2.4)		設置位置 ※図示					
	・H種 ・I種 ・J種 ・K種 ・L種 表面処理の適用 (14.2.3) (18.3.2) (18.3.3) 《6.2.4》		留付け方法及び留付け釘の種類 ※図示			各部位の寸法は図示とする。		特殊加工化粧合板「合板の日本農林規格」 (10.2.3)
[]	・溶融亜鉛メッキ ※電気亜鉛メッキ ・錆止め塗装		●垂木 軒先部以外の留付け方法及び留付け釘の種類	《6.7.7》		「製材の日本農林規格」以外の製材 (10.2.2)		「
	防腐・防蟻処理製材等に使用する場合は、腐食が起きないよう表面処理を施したもの		※図示 軒先部の留付け方法並びに接合金物及び接合具の種類			部位 樹種 材面の品質 乾燥処理 含水率 防虫処理 難燃処理 備考		ルーニ (mm) 程度
12 ラグスクリュー	※6.2.4.(4).(7)によるラグスクリュー ・6.2.4.(4).(7)によるラグスクリュー		※図示・火打ち梁 梁、嗣差、桁等との仕口の形状並びに接合金物及び接合具の種類	(6.7.8)		※15%以下		・ ブリント ・ 塗装
	材料等 ※表 6.2.2による		※図示					
	表面処理の適用 (14.2.3) (18.3.2) (18.3.3) (6.2.4) ・溶融亜鉛メッキ ※電気亜鉛メッキ ・錆止め塗装		● 鋼製火打ち梁の施工箇所 ※ 図示● 屋根野地	(6.7.9)				パーティクルボード (JIS A 5908) 《10.2.3》 (本った) 厚さ 表裏面の状態 曲げ強さ 接着剤 難燃性
	・防腐・防蟻処理製材等に使用する場合は、腐食が起きないよう表面処理を施したもの		・ひき板の樹種、厚さ、継手の形状、取付け方法			7. 20 th O + 11 th M = 1, + 7		施工箇所 (m) による区分 による区分 による区分 による区分 による区分
	形状、寸法等 ※図示 (6.2.4) (6.5.12) 見え掛り部の取付け方法 ※図示 (6.5.12)	1 1	※図示 ・厚さ9mm継手は登り板約10枚毎に乱継ぎ垂木芯で実付けN38釘2本平打 (精造用合板野地板 留付け釘の種類及び釘打ち間隔			各部位の寸法は図示とする。		
13 ドリフトピン	材質 ※JIS G 3101のSS400 ・ (6.2.4)		※図示 ・N50釘間隔150mm以下 ・パーティクルボード野地板 留付け釘の種類及び釘打ち間隔					(・研磨品・無研磨品)
	形状 ※JIS G 3191の丸鋼 ・		※図示 ・N 5 0 釘間隔 1 5 0 m m 以下					構造用パネル「構造用パネルの日本農林規格」 (10.2.3)
	程. 寸法等 ※図示 ・ (6.2.4) (6.5.13) 表面処理の適用 (14.2.3) (18.3.2) (18.3.3) (6.2.4)		・構造用バネル野地板 留付け釘の種類及び釘打ち間隔 ※図示 ・N50釘間隔150mm以下					施 工 箇 所 厚さ(mm) 等 級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級
	- 溶融亜鉛メッキ ※電気亜鉛メッキ ・錆止め塗装 - 防腐・防蟻処理製材等に使用する場合は、腐食が起きないよう表面処理を施したもの	22 床組	・大引 大引の継手の形状及び留付け釘の種類 ※図示 ・腰掛あり継ぎ ・相欠き継ぎの上N75釘2本打ち	(6.8.1)				ミディアムデンシティーファイパーボード(MDF) (JIS A 5905) (10.2.3)
	・助腐・助職処理設付寺に使用する場合は、腐食が起ぎないよう表面処理を施したもの 見え掛り部の取付け方法 ※図示 ※座掘りして埋木処理 (6.5.13)		大引と土台との仕口の形状及び留付け釘の種類					
14 木栓及び木だぼ	樹種 形状及び長さ ※図示 · 《6.2.4》		※図示 ・大入りあり掛け、腰掛け又は乗せ掛けの上N75釘2本斜め打ち 大引と柱との仕口の形状及び留付け釘の種類					## # # # # # # # # # # # # # # # # # #
	Table		※図示 ・柱添え木に乗せ掛けの上N75釘2本打ち					
							<u> </u>	
特					凡	東 洋 町	ェ	事 名 野根地区公衆トイレ等整備工事
=7					/Fol		意	匠図 特記仕様書(3)
記 ————					ויער	製 図 検 印		04. 30 縮 尺 S=1: 図番 A-03
						· ·		

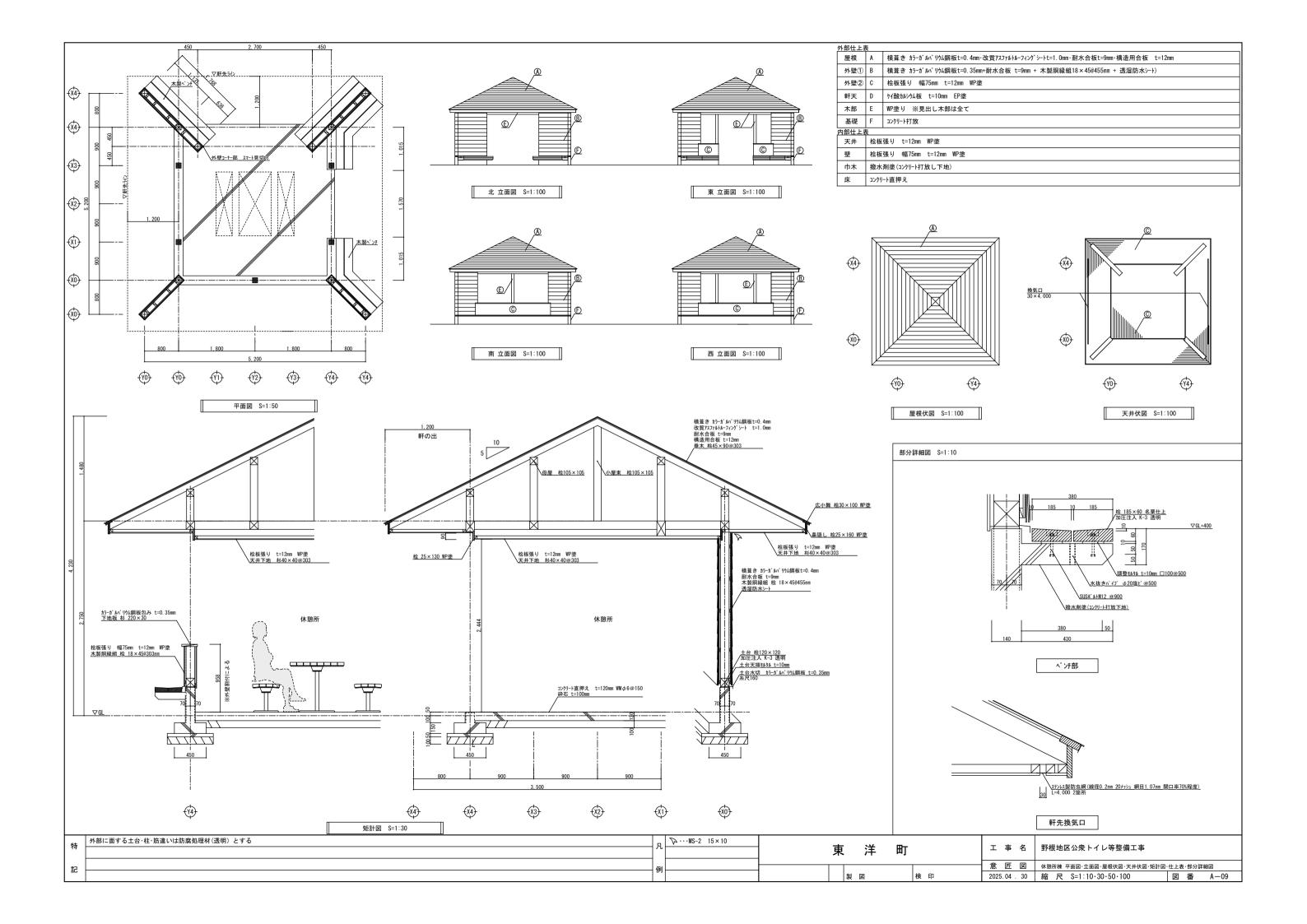
新 新 新 大 一 、 防 由 処理	※10.2.4.(1).(ア)による釘 ・10.2.4.(1).(イ)による釘 (村質並びに寸法及び形状: ※図示 打ち工法 下張材に対する釘の打込み本数 ※図示 斜めに釘を打ち込む場所 ※図示 途件材化粧面の釘打ち ・	0.2.43 12 外要進作 13 ひさし 3 内部壁	・付け土台 機種及び寸法 ※図示・ (10.8 ・雨押え 梯種及び寸法 ※図示・ ・見切り縁・笠木・外部回り縁 機種及び寸法 ※図示・ ・陸ひさし 製材の樹種及び寸法 ※図示・ (10.8 ・廊除けひさし 製材の樹種及び寸法 ※図示・ (10.8	1 施工	石材の割付け ・図示 ※10.1.3(1)(7)及び(4)による (10.1.3) 粗面仕上げの場合ののみ込み部の仕上げ ・図示 ・ 行う(適用箇所・すべて・ (10.1.5)		一般部の葺き方 互棒及び釘の留付け間隔 ※図示 溝板及びキャップの留付け方法 ※14.3.5 (3) (7) (c) による
新候性. 防虫処理 ご	下張材に対する釘の打込み本数 ※図示 絆のご割を打ち込む場所 ※図示 造作材化粧面の釘打ち ・		・露除けひさし 製材の樹種及び寸法 ※図示	.5)			
↑ ★ 対候性、防虫処理 ○ ○ ○	※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し たねじ ※10.2.4.(2).(ア)による木ねじ ・10.2.4.(2).(イ)による木ねじ(材質並びに寸法及び形状: ※図示 ・))))) 耐候性処理 ※屋外に使用する仕上げ木材の木材保護塗料塗り(WP)	14内部壁	施木ひとと (とこうひとと) 表刊の間性及び1点 太昌小		屋内の床のワックスがけ ・ 行う (適用箇所・すべて・) (10.1.5) ※ 行わない		解版による屋根一般部分 互棒、吊子及び釘の留付け間隔 ※図示 各部工法
候性. 防虫処理) 耐候性処理 ※屋外に使用する仕上げ木材の木材保護塗料塗り(WP)		○內壁木下地 胴織の樹種. 寸法及び間隔 ※図示		材料		棟覆い 銅板以外の板による心木あり瓦棒葺きの棟部分の工法 釘打ちの間隔 ※図示 銅板による心木あり瓦棒葺きの棟部分の工法
©		0.3.1)	内壁板張り○横羽目板・縦羽目板張り横種及び寸法※図示	2)			留付け釘の間隔 ※図示 軒先 留付け釘の間隔 ※図示 雪止め ※設けない 設ける
根回り	※ラワン及びならを使用する場合 K1	0.3.2)	- 目板付縦羽目板張り 目板及び羽目板の樹種及び寸法 ※図示 ・敷目板張り	3 テラゾ	種石の種類 ※大理石 種石の大きさ ※1.5~2mm	6 心木なし瓦棒葺の工法	※特殊工法によるものは各製造所の仕様による ・ 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法
	対先・けらば回り	0.4.1》	樹種及び寸法 ※図示	3)	世上げの種類 和磨き ・水磨き ・本磨き (表10.2.2) 形状、寸法 ※図示		※製造所の仕様による ・図示 一般部の葺き方 釘打ちの間隔 ※図示 ・
		0.4.2》	・回り線 樹種及び寸法 ※図示 ○天井下地 (10.9 吊木受け及び吊木 樹種及び寸法 ※図示	タイル工事		1	各部工法 棟覆い 留付け釘の間隔 ※図示 軒先 留付け釘の間隔 ※図示
	心木の樹種及び寸法 ※図示 ・杉 高さ40mm×幅45mm以上 心木の防腐、防蟻処理 ・適用する(4.2.1による) 屋根通気下地		野線、野線受け及び板野線 樹種及び寸法 ※図示 ・天井板張り ・		位置 ※表11.1.1による (11.1.3)(表11.1/1) ・図示		屋根の流れ方向に平行な壁との取合い部 雨押えを付ける場合 留付け釘の間隔 ※図示 雨押えを用いない場合吊子の間隔 ※図示
	屋根の構造用面材の上部に適気層を設ける場合 適気垂木の樹種及び寸法 ※図示 ・	13 和室の造作	- 打上げ天井板張り 樹種及び寸法 ※図示	2 セメントモルタル によるタイル張り	(11.2.2) (雪止め ※設けない ・設ける ※特殊工法によるものは製造所の仕様による
	野縁受け、野縁及び下地板の樹種及び寸法 ※図示・	0. 4. 3)	- 背割不要の処理を行った製材 ※図示 - 閉口部回り 敷居、かもい等の機種及び寸法 ※図示 - 壁回り 塗込め貫の樹種及び寸法 ※図示 (10.10	. 3)	1 頭 4 頭 4 頭 4 頭 2 四 頭 2 四 頭 2 回 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面 面	(7)横葺の工法	建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※ 製造所の仕様による ・図示 雪止め ※設けない ・設ける
	外部出入口木製建具回り木製枠 枠材の樹種及び寸法 ※図示 ・ (*)	0.5.1) 0.5.2) 0.5.2)	・			8 立平葺の工法 (図中:縦ハゼ葺き)	※特殊工法によるものは各製造所の仕様による 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※製造所の仕様による ・図示
c	下枠の材料 ステンレス製(厚さ2mm以上)の寸法及び形状 ※図示 厚さ40mm以上の花こう岩による石材で種類、寸法及び※個示 外部額線		・特殊吊金具 (表10.10 ・床の間回り 床の間に使用する製材等の樹種及び寸法 ※図示 (10.10 ・掛軸用金物 ※図示 (表10.10	.7)	タイルの見本焼き ※行わない 行う 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 (11.2.7) ・ MCR工法 ・ 目荒し工法・ 壁タイル張りの工法		※ 表述の必はまによる ・
	樹種及び寸法 ※図示・ (0. 5. 3)	・ 床脇棚に使用する製材等の樹種及び寸法 ※ 図示		内装タイル ※改良積上げ張り・ 外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り・改良匠着張り 内装タイル以外のユニットタイル・マスク張り・モザイクタイル張り	9 折板套	材料 ((折板 (JIS A 6514)
	横種及び寸法 ※図示 ・ 内部窓回り 横種及び寸法 ※図示 ・	0.6.2》	ルーフドレンの種類 ※FRP系塗膜防水用ルーフドレン ・鋳鉄製 (11	2. 2)	既調合モルタル タイルエ事用の張付けモルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を工場において所定の割合 配合したものとする。	=	型式 山高 山ピッチ 耐力 材料による区分 厚さ ・重ね形 ・はぜ締め形 ・ ※ 鋼板製
内部床回り -	内部床下地 下地用床板 ・10.2.3 (7) による下地用合板	0.7.1》	下地の構造 ・根太掛 樹種及び寸法 ※図示 ・防腐及び防蟻処理の種類	 2.4》 3 有機系接着剤による 陶磁器質タイル張り 	(11.3.2) (11.3.2) 施工箇所 形状寸法(mm) 吸水率の区分 うわぐすり 色 耐 耐 投物 品 質 漢 情 労 の (公表単価)		折板材料 (14.4.2) (表1 金属板材料・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 ・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
	厚さ ※12mm - 10.2.3 (វ) によるパーティクルボード 強度及び接着剤による区分※13Pタイプ又は13Mタイプ・		- 4.2.1.(4).(a)によるK2 - 根太		I 類 I 類 I 類 I 類 i 数 無		※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき網板及び鋼帯 ・塗装ステンレス鋼板 軒先面戸板 ※図示
	厚さ ※15mm・ ・構造用合板の上の仕上げ用下地用床板 (10.2.3(7)による合板) 厚さ ※図示		4.2.1. (f). (a)によるf(2 下地合板 構造用合板「合板の日本農林規格」 厚さ ※12mm		標準的な曲がりの役割は一体成形とする タイルの試験張り ※行わない・行う (11.3.2)		断熱材 (種別: ※図示 厚さ: ※図示 防火性能: ※図示) タイトフレームを留め付ける下地材 材質: ※図示 形状: ※図示 寸法: ※図示 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雲荷重に対応した工法 ((
	床板に使用する製材の樹種、寸法及び厚さ ※図示	0.7.2)	表板の樹種等 ※図示 防虫処理 ※行う ・行わない ・普通合板「合板の日本農林規格」		タイルの見本焼き ※行わない 行う 接着剤のホパムアルデヒド放散量 ※ F ☆ ☆ ☆ ☆ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	10 粘土瓦葉	建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※ 製造所の仕様による ・図示 材料
		0.8.1》	厚さ ※12mm 表板の樹種等 ※図示 防虫処理 ※行う ・行わない		特局調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 ・ 下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理目荒し工法 ・ M C R 工法 (11.3.7)	10 11 12 14	粘土瓦 (JIS A 5208) 製法による区分 形状による区分 寸法による区分 産地
	⑤剛線 樹種. 寸法及び間隔 ※図示 防腐. 防鋸処理 適用する (4.2.1による) ラス下地板		釘または木ねじの留付け間隔 ※150mm程度 ・コンクリート ・防火板の種類 ※ケイ酸カルシウム板厚さ10mm・	屋根及びとい工事			投物瓦の種類 ※図示 雷止め瓦の使用 ※使用しない ・使用する
	・フヘ P- Ru M		「	2.4》 2.4》 2.4》	下糞材料 ※改質アスファルトルーフィング下葉材(一般タイプ) (厚さ : ※図示・ mm) 《14.2.2》 ・アスファルトルーフィング940		JIS A 5208に基づく凍害試験等 ・行わない ・行う 互法木 材質: ※図示・杉 寸法: ※図示 ・21mm以上×15mm以上
	間め付け釘の種類及び寸法 ※図示 「下地用合板 防腐、防蟻処理 適用する (4.2.1による)	2 保証書 3 シーリング	受注者, 施工者, 材料製造所連名による 10 年保証(完成届提出日より15日後から) シーリング材の種類 (11.3.2) (表11	2 金属板葺	14.3.1に定める以外金属板葺きの仕様 (14.3.1) ※製造所の仕様による		防腐処理の方法 ※図示 棟補強用心材 材質: ※図示・杉 寸法: ※図示 ・21mm以上×15mm以上
	留め付け釘の種類、寸法及び留付け間隔 ※図示 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		記号 主成分による区分 施工箇所 - SR-1 - SR-2 シリコーン系	③金属板套用材料	金属板材料 ・ 塗装溶融亜鉛めっき綱板及び綱帯 (14.3.2) (表14.3.1)		防腐処理の方法 ※図示 棟補強等に使用する金物 材質: ※図示 形状: ※図示
	寸法 ※厚さ18mm以上、幅45mm以上・ ※仕上げ材離目部、壁の出隅部及び入隅部:幅90mm以上 防腐、防蟻処理 ②適用する(4.2.1による)		・MS-1 ◆MS-2 ・PS-1 ・PS-1 ボリサルファイド系		・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 ※ 塗装溶融55% アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 ・ 塗装ステンレス鋼板		寸法: ※図示 留付け方法: ※図示 工法 (1 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※製造所の仕様による ・図示
	※縦通気胴縁	0.8.2)	PU-1 PU-2 ポリウレタン系	3. 3)	・厚さ ※図示 固定釘等の材質 (表 14.3.2) ・亜鉛めっき鉄打 ・ステンレス釘 ・鋼釘 ・亜鉛めっき鉄木ねじ ○ステンレス鋼木ねじ ・		※ 表述 (の と) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本
	・外壁荷重が大きくなる場合の接合具と留付け間隔 ※図示 ・ 積雪地域の補強方法及び補強高さ:高さ:※図示 方法:※10.8.2(ウ)(h)③の特記がない場合による	5		3.5)	・ 心木なし瓦棒葉き 母屋固定の場合の釘の寸法 ※図示 金属板の加工		様の工法 - 14.5.3 (5) (7)による (冠瓦伏せ棟) - 14.5.3 (5) (4)による (のし積み棟)
	○横通気胴縁 胴縁の間隔 ※図示 ・横雪地域の補強方法及び補強高さ 高さ:※図示	4 透湿防水シート. 防水テープ及び	両面粘着防水テープの幅 ※50mm幅以上のもので、傷やしわがないもの (11	4.2》 4 平葺 (一文字葺)	通し付け子の釘留め間隔 ※図示 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 (14.3.4)	11 スレート芸	材料 屋根スレート (JIS A 5423) 種類、寸法及び形状、投物、色彩等※図示
	方法:※10.8.2 (ウ) (i)③の特記がない場合による 通気胴縁以降の外壁仕上げに適合する下地 ※図示 押縁下見板張り(ささら子下見板張り)	の、8、3》	アルミニウム笠木の固定方法、形状及び仕上げ ※図示・	4.3》 の工法	※図示 加工 葺板のはぜのつくり方 ※図示 一般部の葺き方 吊子の間隔 ※図示		建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※製造所の仕様による ・図示 雪止め ※設けない ・設ける
	押線及び下見板の樹種及び寸法※図示 南京下見板張り(よろい下見板張り) 下見板の樹種及び寸法 ※図示	5 ケイ酸質系塗布防	種別 施工箇所 種別 施工箇所	0.6.2)	各部工法 吊子及び釘の留付け間隔 ※図示 ・ 軒先及びけらばの釘の留付け間隔 ※図示 雪止め ※設けない ・設ける	12 アスファルト シングル葺	材料 (1 アスファルトシングル
	横羽目板、縦羽目板張り 羽目板の樹種及び寸法 ※図示 目板が破羽目板張り 目板及び羽目板の樹種及び寸法 ※図示		下地処理 ※ 公共建築工事標準仕様書 9.6.4(2)(7)~(4)による	5 心木あり瓦棒葺のユ	C法 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び精雪荷重に対応した工法 (14.3.5) ※製造所の仕様による ・図示		品質、形状、色調及び寸法 ※阅示 連築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積電荷重に対応した工法 ※ 製造所の仕様による ・阅示 軒先、けらば等の曲面 ・設ける(※半径500mm以上・半径 mm)・設けない
	敷目板張り 敷目板の樹種及び寸法 ※図示・						雪止め ※設けない ・設ける
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				ν	東 洋 町		事 名 野根地区公衆トイレ等整備工事 匠 図 特記仕様書(4)

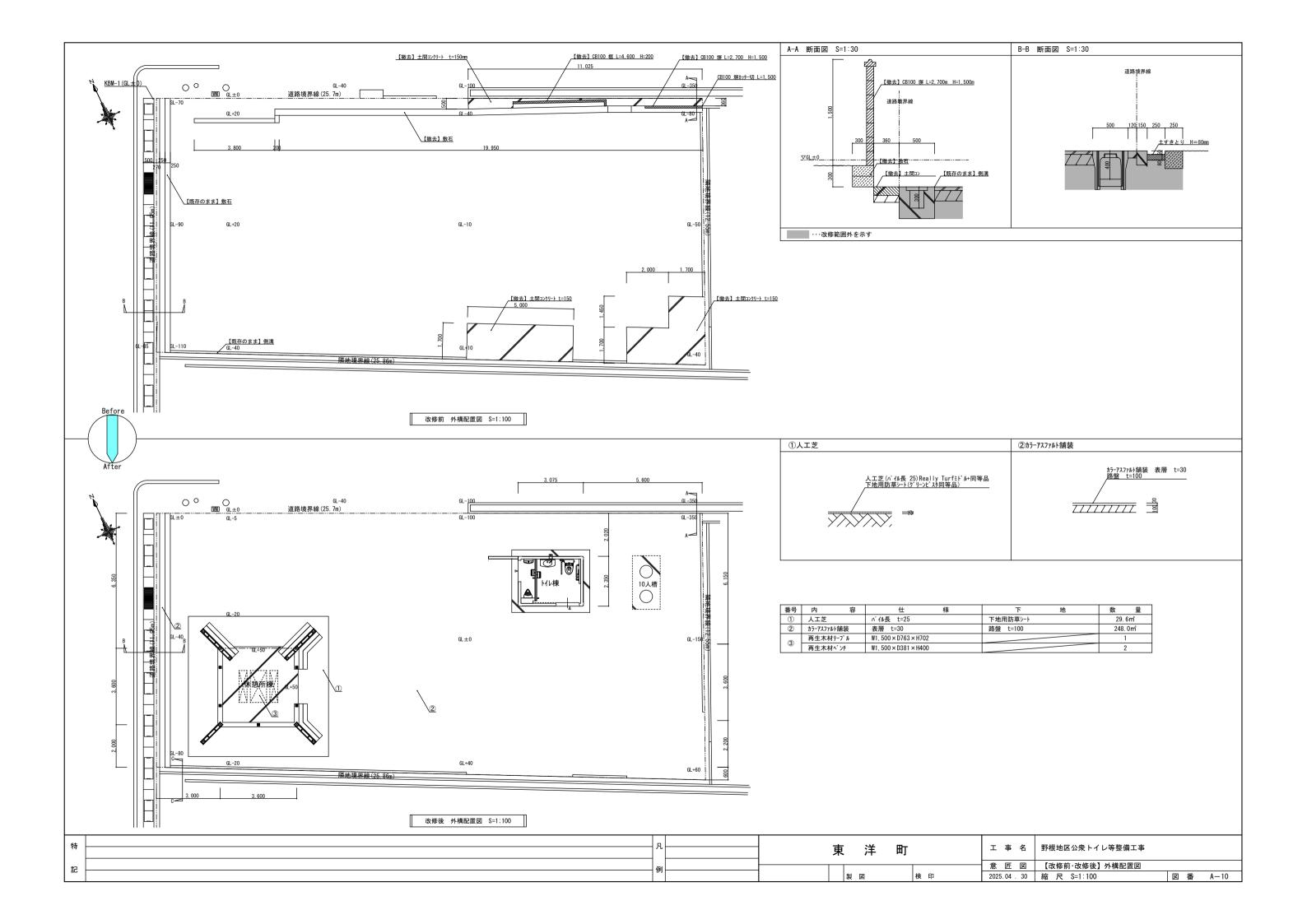
金属工事 1 あと施工アンカー 2 表面処理 2 表面処理 - ステ表の心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	材種 板厚 寸法 施工箇所 金属板(カラがが794線板) 0.35 図示・軒どい・たてどい・谷どい 線板 ※0.35mm 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ※たてどい 個数型排板化ビュル等も取り(45-MD) ※たてどい	 ③ 床コンクリート直均し仕上げ 4 セルフレベリング 材塗り 5 仕上塗材仕上げ 	# 類 標準空厚(mm)	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	10 ロックウール吹付け 建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品 4 アルミニウム製建具	工程の種別 ※A種 ・B種	8 ステンレス製建具 ② 木製建具	個板類の種類 ※亜鉛めっき網板 ・ビニル被電網板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 (16.5.3) ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS4443J1	
金属工事 1 あと施工アンカー 2 表面処理 2 表面処理 - ステ表の心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	# 種 板 厚 寸 法 施 工 箇 所	4 4 セルフレベリング 材塗り	種 類	(15.5.2) (15.5.3) (表15.5.1) エ 箇 所 (15.6.2) (表15.6.1) 備 考 リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品		7	ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS420JIL又はSUS443JI	
・	金属板 (3)-が M が 外側板 (14.1.3) (14.1.3) (14.1.3) (15.2) (1	材塗り	# 類 標準空厚(mm)	工 箇 所 (15.6.2)(表15.6.1) (前 考 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	・水ご和土物 1 工法 ・水ご和土物 2 工法 ・のりご 4 上村 工法 ・のりご 1 上村 工法 ・のりご 4 上村 工法 ・切返し仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法 ・ で 3 上 上げ 工法 ・ 大津みがき仕上げ工法 ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ドネ ★ ★ またはそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・図 示 (15.12.2) ※別作しない ・製作する 適用箇所:※図示 ・	7	解板類の厚さ ※図示(図示がない場合は表16.5.1による) (16.5.4) 要作所 評価名簿による (16.6.2) 表16.7.7に 計画 サンシの返音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (16.2.2) 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア・断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドア・断熱サッシの断熱性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ステンレス銅板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 表面仕上げ ※H し ・ 娘面仕上げ ・ 角出し曲げ ・ 角出し曲げ ・ 角出し曲げ ・ 角出し曲げ ・ 6角 ・ 6角 (16.6.4) (16.6.5) 製作所 評価名簿による (16.7.2) (表16.7.2) 表 16.7.2 (表16.7.2) 表面板の厚さ ※表16.7.6による ・かまちの根種 (・ 格	
・	顕版		・せっこう系・セメント系 ※10 基礎天曜 薄付け仕上塗材 ・砂壁状 ・ 水板薄塗材Si ・砂壁状 ・ かず肌状 ・ かけりが ・ 心ず肌状 ・ 心ず肌状 ・ 心ず肌状 ・ 心ず肌状 ・ 心ずりが ・ 心ずりが ・ 心ずりが ・ 心ずりが ・ 心ずりが ・ 心ずりが ・ 心がすりが ・ こてできる ・ のがすりが ・ のがすりが ・ こできまる ・ いかけけ ・ のがけけ ・ のがけけ ・ のがけけ ・ のを対け ・ のを対す ・ のを対す </td <td>(15.6.2) (表15.6.1) 備 考 リリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリ</td> <td>建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品</td> <td>- のりさし土物工法 - の製せし上げ工法 - ・切返し仕上げ工法 大津仕上げ工法 大津仕上げ工法 - 大津みがき仕上げ工法 - ・普通大津仕上げ工法 - ・大津みがき仕上げ工法 - ・普通大津仕上げ工法 - ・大津みがき仕上げ工法 - ・日本・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td> <td>7</td> <td>製作所 評価名簿による 簡易気密型ドアセット ・適用する (16 5.2) ・防音ドア、防音サッシの適音性の等級 T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (16 2.2) 適用箇所 ※図示 ・断除サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ・ 砂点 ・ 砂</td>	(15.6.2) (表15.6.1) 備 考 リリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリ	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	- のりさし土物工法 - の製せし上げ工法 - ・切返し仕上げ工法 大津仕上げ工法 大津仕上げ工法 - 大津みがき仕上げ工法 - ・普通大津仕上げ工法 - ・大津みがき仕上げ工法 - ・普通大津仕上げ工法 - ・大津みがき仕上げ工法 - ・日本・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	7	製作所 評価名簿による 簡易気密型ドアセット ・適用する (16 5.2) ・防音ドア、防音サッシの適音性の等級 T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (16 2.2) 適用箇所 ※図示 ・断除サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ・ 砂点 ・ 砂	
を属工事	環質ボリ塩化ビニル密カラー (85-VP)	5 仕上塗材仕上げ	#付け仕上塗材 呼 び 名	備 考 リリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリ	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	・砂壁仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法 ・岩通大津仕上げ工法 ・岩通大津仕上げ工法 ・岩通大津仕上げ工法 ・ 大津みがき仕上げ工法 ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ド☆な☆☆、またほそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・図示 (15.12.2) 防火戸の指定等 ※図示 ※製作しない ・製作する (16.1.3) 財火戸の指定等 ※図示 ・ 製作しない ・製作する (16.1.4) 連用箇所:※図示 ・ 製作しない ・製作する (16.2.2)(表14.2.1)(表16.2.1)(表16.2.1)(表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 寿 (2.2.2)(表14.2.1)(表16.2.2) ・ 日種 Sー4 (3.4.4.2.1)(表16.2.2)(表14.2.1)(表16.2.2)(表14.2.1)(表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 寿 (2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.2.	7	簡易気密型ドアセット ・適用する (16,5.2) ・ 防音ドア、防音サッシの返音性の等級 ・ T-1 ・T-2 ・ T-3 ・ T-4 (16,2.2) 適用箇所 ※図示 ・ 断路ドア、断路サッシの断熱性の等級 ・ H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・ D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ・ A で が (16,6.3 (1)) ま面仕上げ ※日上 ・ 鏡面仕上げ ・ 角面 一 ・ 角面 ・	
金属工事	接責権化ビニル雨どい ※ 軒どい ・たてどい ※ 軒とい ・たてどい ※ 軒とい ・たてどい ※ 年との確認試験(引張試験) ・行う 確認強度(5 仕上塗材仕上げ	呼び名	備 考 リリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリ	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	・切返し仕上げ工法 大津社上げ工法の種類 ・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法 ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※方な女女・またはそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・図示 (15.12.2) 防火戸の指定等 ※図示 (16.1.3)	7	- 防音ドア、防音サッシの運音性の等級 - T-1 - T-2 - T-3 - T-4 (16 2.2) 適用箇所 ※図示 - S - S - S - S - S - S - S - S - S -	
会属工事 1 あと施工アンカー 2 表面処理 ステ表的。 ・協工アンカー 2 表面処理 ・ 機種 ・ 機種 ・ 経理 ・ 経費 ・ 経費 ・ 経費 ・ 日本	工後の確認試験(引張試験) (14.1.3) ・ 行う 確認強度(9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	大津仕上げ工法の種類 ・ 著通大津仕上げ工法 ・ 大津みがき仕上げ工法 ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ド☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ(mm) ・ 図 示 (15.12.2) 防火戸の指定等 ※図示 (16.1.3) 下水のがきが、 ・ 製作する	7	- 防音ドア、防音サッシの返音性の等級	
1 あと施工アンカー 2 表面処理 - ステー 表面処理	- 行う 確認強度 () ・行わない (14.2 1) 表面仕上げの種類		- ゆず肌状 - さざ波状 ローラ-達 か壁状 - ゆず肌状 吹付け - かず肌状 吹付け - かず肌状 吹付け - かず肌状 吹付け - かず肌状 - さざ波状 ローラ-達 - かず肌状 - さざ波状 ローラ-達 - かず肌状 - さざ波状 ローラ- を - ・ かず肌状 - さざ波状 - ローラ・を - ・ かず肌状 - さざ波状 - ローラ・を - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (15.12.2) ※Fな な な な またはそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・ 図 示 (15.12.3) 防火戸の指定等 ※図示 (16.1.3) が火戸の指定等 ※図示 (16.1.4) 湯用箇所・※図示 (16.1.4) 湯田正性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 傷 方 ・ A 程 S - 4 A 3 W - 4 ・ B 程 S - 5 A - 3 W - 4 ・ B 程 S - 5 ・ A - 4 W - 5 外部に西する建具の性能等級(ホア地) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 傷 方 ・ C 程 S - 6 A - 4 W - 5 外部に西する建具の性能等級(ホア地) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 傷 方 ・ C 程 S - 6 A - 4 W - 5 外部に西する建具の性能等級(ホア地) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 婚 方 ・ 下 5 下 7 下 5 下 7 下 5 下 7 下 7 下 7 下 7 下 7	③ 木製建具	・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 H-1 H-2 H-3 H-4 H-5 適用箇所 ※図示	
1 あと施工アンカー 2 表面処理 - ステー 表面処理	- 行う 確認強度 () ・行わない (14.2 1) 表面仕上げの種類		- 可とう形外装薄塗材Si - 砂壁状 - ゆず肌状 - 吹付け - 砂壁状 - ゆず肌状 - ウボル - ウボル - ウザ - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	 ※F☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・図示 (15.12.3) 防火戸の指定等 ※図示 (16.1.3) ※製作しない ・製作する (16.1.4) 適用箇所:※図示 (16.1.4) 外部に面する220 (表14.2.1) (表16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 秀 (15.12.3) ・ A種 S - 4 A - 3 W - 4 ※図示 (16.2.2) ・ C種 S - 6 A - 4 W - 5 (16.2.2) ・ C種 S - 6 A - 4 W - 5 (16.2.2) ・ C種 S - 6 A - 4 W - 5 (16.2.2) ・ C種 S - 2 A 3 W - 3 ※図示 (16.2.2) ・ 下述 S - 2 A 3 W - 3 ※図示 (16.2.2) ・ 下述 S - 2 A 3 W - 3 ※図示 (16.2.2) ・ 下述 F ・ 下述 S ・ では 下述 (16.2.2) ・ 下述 F ・ 下述 F ・	③ 木製建具	適用箇所 ※図示 ・ 計震ドアの面内変形追随性の等級	
2 表面処理 ステートの・非・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- 行う 確認強度 () ・行わない (14.2 1) 表面仕上げの種類		- ゆず肌状 - さざ波状 ローラ-達 - 砂壁状 - ゆず肌状 吹付け - 平たん状 - 凹凸状 - です過失 - ・ で で で で で で が で で が で で が で で が で で が で で が で で が で で を で か で で か で で か で で か で で か で で か で で か で か で で か で か で で か で か で で か で か で か で で か で か で か で か で か で か で か で か で か で か で で を で か で か	り り り り り り り り り り り り り り	建具工事 1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	 ※F☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上げ吹付け厚さ (mm) ・図示 (15.12.3) 防火戸の指定等 ※図示 (16.1.3) ※製作しない ・製作する (16.1.4) 適用箇所:※図示 (16.1.4) 外部に面する220 (表14.2.1) (表16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 秀 (15.12.3) ・ A種 S - 4 A - 3 W - 4 ※図示 (16.2.2) ・ C種 S - 6 A - 4 W - 5 (16.2.2) ・ C種 S - 6 A - 4 W - 5 (16.2.2) ・ C種 S - 6 A - 4 W - 5 (16.2.2) ・ C種 S - 2 A 3 W - 3 ※図示 (16.2.2) ・ 下述 S - 2 A 3 W - 3 ※図示 (16.2.2) ・ 下述 S - 2 A 3 W - 3 ※図示 (16.2.2) ・ 下述 F ・ 下述 S ・ では 下述 (16.2.2) ・ 下述 F ・ 下述 F ・	③ 木製建具	・耐震ドアの面内変形追随性の等級	
表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	テンレスの表面仕上げ (14.2 1) 表面仕上げの種類		- 外装薄塗材E - 砂壁状 - ゆず肌状 - 吹付け - 平たん状 - 凹凸状 - こて塗 - 砂・ず肌状 - ささ波状 - 1・ウ・ボース - 1・フ・ボース - 1・フ・ボース - 1・フ・ボース - 1・フ・ボース - 1・フ・ボース - コーラ・ボース - フ・カーラ・ボース - マーカ・ボース - コーラ・ボース - コーラ・ボー	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	世上げ吹付け厚さ (mm) ・図示 (15.12.3) 防火戸の指定等 ※図示 ※製作しない ・製作する 適用箇所: ※図示 外部に面する建具の性能等級等 (コクリート系及び鉄骨下地) (16.2.2) (麦14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2) (A.2.2.2) (A.2.2.2) (A.2.2.2.2) (A.2.2.2.2) (A.2.2.2.2.2) (A.2.2.2.2.2.2) (A.2.2.2.2.2.2.2.	③ 不製罐具	適用箇所 ※図末 ステンレス頻板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 表面仕上げ ※ 由し ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	表面仕上げの種類 材質 施工箇所(手すり、タラップ、建具以外) # 4000		・ゆず肌状 さざ波状 ローラ・塗 ・着色骨材砂壁状 吹付け こて塗塗 ・可とう形外装薄塗材E ・砂壁状 ・ゆす肌状 吹付け ・炉ず肌状 ・さざ波状 ローラ・塗 ・砂砂板 ・さざ波状 ローラ・塗 ・砂砂板 ・吹付け 吹付け ・外装薄塗材S ・砂壁状 吹付け ・内装薄塗材C ・凹凸状 吹付け ・内装薄塗材L ・平たん状 ・凹凸状 こて塗 ・内装薄塗材E ・砂壁状じゅらく・ゆず肌状 ・ウ・連 ・内装薄塗材E ・平たん状 凹凸状 こて塗 ・内装薄塗材E ・吹放し ・出の地 次付け ・水装厚塗材C ・吹放し ・出処地 吹付け ・水装厚塗材E ・吹放し ・出処地 ・工で塗 ・外装厚塗材E ・吹放し ・白部処理 吹付け ・外装厚塗材E ・吹放し ・自動処理 ・ロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	防火戸の指定等 ※図示 ※製作しない ・製作する 適用箇所: ※図示 が能に面する建具の性能等級等(12/59-1-系及び鉄骨下地) (16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表) (8.2.2) 種別 新風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 秀 ・ A種 S - 4	② 木製建具	ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI 表面仕上げ※HL ・鏡面仕上げ (16.6.4) 世界材の加工、総主で時の含水※B種 ・ (5.7.2)(表16.7.1) ジーラッシュ戸 表面材の合板の種類※図示 品質等 ※16.7.2(2)(ア)による 表面板の厚さ ※表16.7.6による・ 表面板の厚さ ※表16.7.6による・ 表面板の厚さ ※表16.7.7による・ 表面板の厚さ ※表16.7.7による・ 表面板の厚さ ※表16.7.7による・ 見込み寸法(mm)※図示(図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.2)(表16.7.7) シーテン・データ ・ 新鳥の子 ※ピニル紙・変花紙(押入等の裏側) (16.7.2)(表16.7.7) ・デン・データ ・ 新鳥の子 ※ピニル紙・変花紙(押入等の裏側) (16.7.3)(表16.7.7) ・デン・データ ・ 新鳥の子 ※ピニル紙・変花紙(押入等の裏側) (16.7.3)(表16.7.7) ・デン・データ ・ ボール ・ 生地線(赤地)・生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・ ・デン・デン・デン・大阪の仕上げ ※塗り線・生地線(赤地)・生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・ ・デン・デン・大阪の仕上げ ※塗り線・生地線(赤地)・生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・ ・デン・オース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カ	
- 井	#400 ※SUS304・ 競面性上げ ※SUS304・		- 着色骨材や壁状 ・吹付け - 可とう形外装簿塗材E ・砂壁状 ・ゆず肌状 穴付け - 平たん状 ・凹凸状 ・こて塗 ・ 応ず肌状 ・さざ波状 ・ローラ塗 ・ ゆず肌状 ・さざ波状 ・ローラ塗 ・ 四凸状 ・ の装簿塗材E ・砂壁状 ・ 吹付け ・ 外装簿塗材E ・ 四凸状 ・ 四凸状 ・ で付け ・ 外装簿塗材E ・ 四凸状 ・ 四凸状 ・ でがけ ・ 内装簿塗材E ・ 四凸状 ・ でが渡状 ・ さざ波状 ・ローラ塗 ・ 内装簿塗材E ・ できるが変状 ・ローラ塗 ・ 内装簿塗材E ・ できるが変状 ・ローラジ ・ 内装簿塗材E ・ アたん状 ・ 四凸状 ・ こて塗 ・ 内装簿塗材E ・ アたん状 ・ 四凸状 ・ こで塗 ・ 下が肌状 ・ でが肌状 ・ で付け ・ 平たん状 ・ 四凸状 ・ こで塗 ・ 小りず肌状 ・ でが肌状 ・ で付け ・ 平たん状 ・ 四凸状 ・ こで塗 ・ 小数厚塗材E ・ 吹放し ・ の部処理 ・ 吹付け ・ 平たん状 ・ 四凸状 ・ こで塗 ・ 小数厚塗材E ・ 吹放し ・ の部処理 ・ 吹付け ・ 平たん状 ・ 四凸状 ・ こで塗・ ・ で変し ・ かき落とし ・ で数し ・ いき超に ・ でがは ・ でで塗し ・ で変し ・ のう必要 ・ ・ こで塗・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	※製作しない ・製作する (16.14) 適用箇所: ※図示 (16.16) 小部に面する建具の性能等級等(コンケリート系及び鉄骨下地) (16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 方 ・	③ 木製雑具	曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ(・a角 ・b角 ・c角) (16.6.5) 製作所 評価名簿による 建具材の加工、組立で時の含水※B種 (6.7.2) (表16.7.1) ・フラッシュ戸 表面材の合板の種類※図示 高質等 ※16.7.2(2)(7)による 表面板の厚さ ※表16.7.6による ・かまち戸 かまちの樹種 (・桧) 鏡板の樹種 (・桧) (16.7.2) (表16.7.7) ・ふすま 種別 ※I型 I型 (16.7.2) (表16.7.7) ・ふすま 種別 ※I型 ・ II型 (16.7.2) (表16.7.7) ・ふすま 種別 ※I型 ・ II型 (16.7.2) (表16.7.7) ・ ふすま 様別 ※I型 ・ II型 (16.7.2) (表16.7.7) ・ ふすま 様別 ※I型 ・ II型 (16.7.2) (表16.7.7) ・ よいまがよい場合は表16.7.7(よる) ・ (16.7.3) (表16.7.7) ・ よいまがよい場合は表16.7.7(よる) (16.7.3) (表16.7.7) ・ が、まかまの見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表16.7.7(よん) (16.7.3) (表16.7.7) ・ 紙張り脖子の見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表16.7.7(よん) (16.7.3) (表16.7.7) ・ 紙張り脖子の見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表16.7.7(よん) (16.7.2) (表16.7.7) (表16.7.7) は、くつずり材料 ※図示 (16.7.2) (表前の7.10) を (16.7.2) (表前の7.11) を (16.7.2) (表述の7.11) を (16.7.2)	
- 鏡 ・出し・AGA MBB	競面仕上げ ※ SUS304 -		- 可とう形外装薄塗材E - 砂壁状 - ゆず肌状 - 吹付け - 中下ル状 - 凹凸状 - こて塗 - 中ず肌状 - さざ波状 - ローラ塗 - 中ず肌状 - さざ波状 - ローラ塗 - ローラ塗 - ローラ - シャ - ローラ - フェーラ - ローラ - ローラー - ローラ - ロー - ロー	り り り り り り り り り り り り り り	1 防火戸 2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	※製作しない ・製作する (16.14) 適用箇所: ※図示 (16.16) 小部に面する建具の性能等級等(コンケリート系及び鉄骨下地) (16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 方 ・	③ 木製建具	製作所 評価名簿による 建具材の加工、組立で時の含水※B種	
- HL アル - AB - AB - BB - BB - BB - BB - BB - BB	批程度		- 可とう形外装薄塗材E - 砂壁状 - ゆず肌状 - 吹付け - 平たん状 - 凹凸故 - ごて塗 - ゆず肌状 - さざ遂状 - ゆず肌状 - さざ遂状 - ゆず肌状 - さざ遂状 - ゆず肌状 - さざ遂状 - ゆう強 - マケー・ - ウを繋が - マたん状 - 凹凸状 - マたん状 - 凹凸状 - マたん状 - 凹凸状 - マケー・ ウず肌状 - マケー・ ウザ肌状 - こて塗 - マたん状 - 凹凸状 - マケー・ ウザ肌状 - マケー・ ウザ肌状 - マケー・ ウザ肌状 - マケー・ マッドリー・ マッドリー・ マッドリー・ マッドリー・ マッドリー・ マッドリー・ マッドリー・ マッドリー・ マッド - マケー・ ・ マケー・ マケー	9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	2 建具見本の製作 3 防犯建物部品	※製作しない ・製作する (16.14) 適用箇所: ※図示 (16.16) 小部に面する建具の性能等級等(コンケリート系及び鉄骨下地) (16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 方 ・	③ 木製建具	建具材の加工、組立で時の含水※ B種 (6.7.2) (表16.7.1) ・フラッシュ戸 表面材の合板の種類※図示	
- AB - AB - BA - BB	ルミーウム及びアルミーウム合金の表面処理 表面処理の種別		・ 序が肌状 ・ 四凸状 こて塗 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状 ローラ・塗 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状 ローラ・塗 ・ 四凸状 吹付け ・ 吹付け ・ 外装薄塗材2 ・ 四凸状 ・ 吹付け ・ 内装薄塗材2 ・ 四凸状 ・ 四凸状 ・ でかけれ ・ 内装薄塗材5 ・ 砂壁状じゆらく・ゆず肌状 ・ マウ・デ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9	3 防犯建物部品	適用箇所:※図示 外部に面する2種具の性能等級等(222791-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	③ 木製建具	- フラッシュ戸 表面材の合板の種類※図示	
- ABC - ACC - BA BB BC - BB	表面処理の種別 皮膜又は核合皮膜の種類 施工箇所(成形板、筮木、手すり 建具以外) AB-1種・AB-2種 ※AA15 BA-1種・BC-2種 ※AA16 BB-1種・BB-2種 ※A2 (過酷な環境の屋外) BB-1種・BB-2種 ※B(一般的な環境の屋外) BB-1種・BB-2種 ※B(一般的な環境の屋外) C種 個別の重鉛のつき 表面処理方法 ※二次電解器を6・アンパー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラ分 (14.2.2) ※温素面処理方法 種別 施工箇所(手すり タラップ以外) 諸薬亜鉛のつき ・A種・B種・C種 18		- 防水形外装海塗材E - ゆず肌状 - さざ波状 ローラ-達 ・ 四凸状 - ツ付け - 外装薄塗材S - 砂壁状 - 型凸状 - 吹付け - 内装薄塗材C - 中か肌状 - さざ波状 ローラ-達 - 小装薄塗材E - 砂壁状じゅらく・ゆず肌状 - さざ波状 ローラ-達 - 平たん状 - 凹凸状 - マケル・ - 四凸状 - マケル・ - でき波状 ローラー - でき - マケル・ -	り	3 防犯建物部品	適用箇所:※図示 外部に面する2種具の性能等級等(222791-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-		- フラッシュ戸 表面材の合板の種類※図示	
- AC - AR - BB - BC - CB - BB - BC - CB - BB - B	AC-1種 - AC-2種 ※AA6 BA-1種 - R - AC-2種 ※A2 (適酷な環境の屋外) BC-1種 - BB-2種 ※ BC-般的な環境の屋外 BC-1種 - BB-2種 ※ BC-般的な環境の屋外 BC-1種 - BB-2種 ※ BC-般的な環境の屋外 BC-1種 - BB-2種 ※ BC-2種 - BB-2種 ※ BC-2種 - BB-2 ※ BB-2		・ 四凸状 吹付け ・ 外装薄達材C ・ 砂壁状 吹付け ・ 内装薄達材C ・ 四凸状 ・ 吹付け ・ 内装薄差材L ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ こて塗 ・ 内装薄差材Si ・ 砂壁状じゅらく・ゆず肌状 ・ 吹付け ・ でき返状 ・ トラ・塗 ・ 内装薄差材E ・ アたん状 ・ 凹凸状 こてを ・ です肌状 ・ 吹付け ・ ア・ラ・塗 ・ で ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・適用する ・適用する ・験放湿性 ・ 適用する りり り り ・ 適用する		外部に面する220 例 1		品質等 ※16.7.2(2)(7)による 表面版の厚さ ※表16.7.6による かまち戸 かまちの樹種 (・桧) 鏡板の樹種 (・桧) 見込み寸法(mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
- BA - BB	BA-1種 - BA-2種 ※ A2 (通勤な環境の屋外) BB-1種 - BB-2種 ※ B (一般的な環境の屋外) BB-1種 - BB-2種 ※ B (一般的な環境の屋外) 「種 - BB-2種 ※ B (一般的な環境の屋外) 「種 - BB-2種 ※ C (屋内) 「種 - BB-2種 ※ C (屋内) 「種 - BB-2種 ※ C (屋内) 「		- 外装簿連材S - 砂壁状 吹付け - 外接簿連材C - 内接簿連材L - 四凸状 - 四凸状 - 四凸状 - です - 平たん状 - 四凸状 - でき - 小枝薄連材 - ・砂壁状じゆらく・ゆず肌状 - でき - 小枝薄連材 - ・砂壁状じゆらく・ゆず肌状 - でき - 小枝薄連材 - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	吸放湿性 り り り り り り り り り	4 アルミニウム製造具	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 考 N-4 N-5 N-6 N-6 N-6 N-6 N-7		表面板の厚さ ※表16.7.6による ・かまち戸 かまちの樹種 (・桧) 鏡板の樹種 (・桧) (16.7.2) 見込み寸法(mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) ・ふすま 種別 ※ I型 I型 上張りの種類・鳥の子 ・新鳥の子 ※ビニル紙・雲花紙(押入等の裏側)・ 見込み寸法(mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) 緑の仕上げ ※塗り場・生地程(乗地) 生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10) ・戸ぶすまの見込み寸法(mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) ・紙紙り障子の見込み寸法(mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) ・ 紙紙り障子の見込み寸法(mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.2) 接着剤の材料 ※ 図示	
- 88 - 60 で ・ 60 で で で で を を を を を を を を を を を を を を を	88-1種		- 内装薄塗材C - 凹凸状 - 吹付け - 平たん状 - 凹凸状 - で変数 - 小砂類状 - さざ波状 - ローラ - 変数 - 小砂類状 - さざ波状 - ローラ・塗 - 小砂類状じゅらく・ゆず肌状 - 吹付け - 平たん状 - 凹凸状 - こて塗 - 小砂類様 - 平たん状 - 凹凸状 - で変数 - マたん状 - 凹凸状 - で変数 - マたん状 - 凹凸状 - で変数 - マたん状 - 凹凸状 - マたん状 - 凹凸状 - マたん状 - 凹凸状 - マたん状 - 凹凸状 - マケン・シャック - ローラ・変 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	吸放湿性 1	4 アルミニワム設建具	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 考 N-4 N-5 N-6 N-6 N-6 N-6 N-7		・かまち戸 かまちの樹種 (・ 桧) 鏡板の樹種 (・ 桧) 見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) ・ふすま 種別 * I 型 (16.7.2) (表16.7.3) 上張りの種類・鳥の子・新鳥の子・※ビニル紙・雲花紙 (押入等の裏側)・ (16.7.3) (表16.7.7) ・最の仕上げ ※塗り縁・生地縁 (素地)・生地縁 (ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・戸ぶすまの見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.10)・ (16.7.3) (表16.7.7) ・紙張り障子の見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) ・ 紙張り障子の見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) ・ 紙張り障子の見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.2)	
- 80 ・印刷 - 80 ・印刷 - 80 ・ 80 ・ 80 ・ 80 ・ 80 ・ 80 ・ 80 ・ 80 ・	BC-1種 BC-2種		- 内装薄塗材L - 平たん状 - 凹凸状 - こて塗 - 小子塗 - 小枝厚塗材Si - 小枝厚塗材Ci - 小子塗 - 小枝厚塗材Ci - 小枝厚塗材Ci - 小枝厚塗材Ci - 小枝厚塗材Ci - 小枝原厚塗材Ci - 小枝原厚塗材Ci - 小枝原厚塗材Ci - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小枝原厚塗材Ci - 小枝原塗材Ci - 小白色処理 - 小子塗 - 小枝原厚塗材Ci - 小枝原塗材Ci - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小女板 - 小子塗 - 小女板 - 小女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女	9 9 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		・ A種 S - 4		かまちの樹種 (・ 槍) 鏡板の樹種 (・ 槍) (16.7.2) 見込み寸法 (mn) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) シャすま 種別 ※ 1型 ・ II型 (16.7.3) (表16.7.3) 上張りの種類・鳥の子 ・ 新鳥の子 ※ ピニル紙・変花紙(押入等の裏側)・ 見込み寸法 (mn) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.1) 線の仕上げ ※塗り縁・生地線 (津地)・生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.1)・ 所示すまの見込み寸法 (mn) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7)・ 紙張り牌子の見込み寸法 (mn) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7)・ 紙張り牌子の見込み寸法 (mn) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.2) 接着剤の材料 ※ 図示	
- CH			- 内装薄塗材Si - 砂壁状じゅらく・ゆず肌状 吹付け - 平たん状 - 凹凸状 - こて塗 - 小砂類珠塗材E - 京壁状じゅらく・ゆず肌状 吹付け - 平たん状 - 凹凸状 - こて塗 - アたん状 - 凹凸状 - で変 - で変 - で変し - 小数厚塗材C - で変し - 小数厚塗材Si - 外装厚塗材Si - 外装厚塗材Si - 外装厚塗材Si - 外装厚塗材Si - 外装厚塗材C - で放し - 凸部処理 - で付け - 平たん状 - □凸状 - こて塗 - 小数厚塗材E - 下たが - □凸状 - □ - □-5-変 - □ - □-5-変 - □ - □ - □ - □ - □ - □ - □ - □ - □ -	り り (備 考		○ B種 S-5		見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) 。 ふすま種別 ※ 1 型 ・ 正型 (16.7.2) (表16.7.3) と張りの種類 ・鳥の子 ・新鳥の子 ※ ビニル紙 ・雲花紙 (押入等の裏側)・ 見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) 縁の仕上げ ※ 差り縁 ・生地縁 (素地)・生地縁 (ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・戸ぶすまの見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) ・ 紙張り障子の見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) ・ (16.7.3) (表16.7.7) と (16.7.3) (表16.7.7) は (16.7.2) 接着剤の材料	
※ 仮数	※二次電解着色(・アンパー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー 銀剛の亜鉛のっき		・内装薄塗材目 ・平たん状 ・凹凸状 ・ごで塗 ・内装薄塗材間 ・京壁状じゅらく ゆず肌状 ・吹付け ・平たん状 ・凹凸状 ・ ごで塗 厚付け仕上塗材 ・呼び 名 ・ 大変 ・	9 増 考 #がパステッコ以外の上塗材 り 上塗材 ・適用する		外部に面する建具の性能等級 (木下地) 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 考		種別 ※ I 型 · II型 (16.7.2) (表16.7.3) 上張りの種類・鳥の子・新鳥の子 ※ ビニル紙・雲花紙 (押入等の裏側)・ 見込み寸法 (mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) 線の仕上げ ※塗り縁・生地線(沸地)・生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・戸ぶすまの見込み寸法 (mm) ※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7)・ 紙張り障子の見込み寸法 (mm)※ 図示(図示がない場合は表16.7.7による)・ (16.7.3) (表16.7.7) (表16.7.7) (表16.7.7) (表16.7.7) (表16.7.7) (表16.7.7) (表16.7.7)	
鉄線 海融 電気 野 屋 屋 外 野 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	接觸の亜鉛めっき 表面処理方法 種別 施工箇所(手すり タラップ以外) 勝題亜鉛のっき - A種 - B種 - C種 3気亜鉛めっき - D種 - E種 - F種		・内装薄塗材料 ・砂ず肌状 さぎ波状 ローラ・塗 ・京壁状じゅらく・ゆず肌状 吹付け マヤん状 田凸状 こて塗 厚付け仕上塗材 呼び名 仕上げの形状 工法 ・外装厚塗材0 ・吹放し ・凸部処理 吹付け マヤん状 ・四凸状 こて塗 ・外装厚塗材3i ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・工て塗 ・外装厚塗材5i ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・ひき起こし ・ローラ・2 ・ローラ・2 ・ ・内装厚塗材0 ・吹放し ・凸部処理 吹付け	9 増 考 #がパステッコ以外の上塗材 り 上塗材 ・適用する		種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 海 考 D種 S-2 A-3 W-3 ※ 図示		上張りの種類 - 鳥の子 - 新島の子 ※ビニル紙 - 雲花紙 (押入等の) 製制 - 見込み寸法 (mm) ※図示 (図示がない場合は表16.7.7による) - (16.7.3) (表16.7.7) 線の仕上げ ※塗り場 - 生地線(素地) - 生地線(ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10) - 戸ぶすまの見込み寸法 (mm) ※図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) - 紙張り障子の見込み寸法 (mm) ※図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) よくつづり材料 ※図示 (16.7.2) 接着剤の材料	
表	表面処理方法 種別 施工箇所(手すり タラップ以外)		・ 内装薄塗材制 ・ 京壁状じゅらく・ゆず肌状 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 吹付け ・ でなが ・ 凹凸状 次付け 厚付け仕上差材 野 び 名 仕 上 げ の 形 状 工 法 ・ 外装厚塗材0 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 口凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし ・ 吹付け ・ 外装厚塗材5 ・ 外装厚塗材6 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ こて塗 ・ ひき起こし ・ でまと ・ ひき起こし ・ のちを ・ でで塗 ・ こて塗 ・ のき起こし ・ 内装厚塗材6 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け	り		D種 S-2 ・ E種 S-3 ・ 防音ドア・防音サッシの連音性の等級 ・T-1 ・ 正 ・T-3 ・ 下 ・T-4 ・ 所勢ドア・断勢サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・ H-3 ・H-4 ・H-5 連用箇所 ※図示		見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) 線の仕上げ ※ 差り線 生地線 (沸地)・生地線 (ウレタンクリヤー塗装) (表16.7.10)・戸ぶすまの見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) (抵張り障子の見込み寸法 (mm) ※ 図示 (図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) 校、くつずりの材料 ※ 図示 (16.7.2) 接着剤の材料 (16.7.2)	
溶酸気 野緑 屋外野 - ・ ス ・ ス	勝亜鉛めっき		・ 平たん状 ・ 凹凸状 こて塗 厚け付仕上塗材 ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け ・ 外装厚塗材C ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け ・ で塗 ・ ひき起こし ・ かき序とし ・ で塗 ・ で塗 ・ 外装厚塗材E ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け ・ アたん状 ・ 凹凸状 ・ こて塗 ・ ひき起こし ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け	備 考 サバントガッコ以外の上塗材 リ 上塗材 リ・適用する		・ 巨種 S - 3 A - 3 W - 3 ・ 防音ドア、防音サッシの遊音性の等級 ・ T - 1 ・ T - 2 ・ T - 3 ・ T - 4 適用箇所 ※図示 ・ 断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・ H - 1 ・ H - 2 ・ H - 3 ・ H - 4 ・ H - 5 適用箇所 ※図示		縁の仕上げ ※塗り縁 生地縁(素地)・生地縁(ウレタンクリヤー塗装) (表 16.7.10) - 戸ぶすまの見込み寸法(mm)※図示(図示がない場合は表 16.7.7による) (16.7.3)(表 16.7.7) - 紙張り障子の見込み寸法(mm)※図示(図示がない場合は表 16.7.7による) (16.7.3)(表 16.7.7) 校人くつずりの村料 ※図示 (16.7.2)	
電気 整量鉄骨天井下地 野緑屋 屋外 野 ・ ・ ・ 天	総第の種類 屋内(※19形 ・25形)		呼び名 仕上げの形状工法 ・效放し ・凸部処理 吹付け ・平たん状 ・凹凸状 こて塗 ・砂装厚塗材Si ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・外装厚塗材Si ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・砂装厚塗材E ・平たん状 ・凹凸状 ・二て塗 ・ひき起こし ・のき起こし ・内装厚塗材C ・吹放し ・凸部処理 吹付け	tがたスタッコ以外の上塗材 り ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		- 防音ドア.防音サッシの遮音性の等級 - T-1 - T-2 - T-3 - T-4 (16.2.2) 適用箇所 ※図示 - 断勢ドア.肺勢サッシの断熱性の等級 - H-1 - H-2 - H-3 - H-4 - H-5 適用箇所 ※図示		- 戸ぶすまの見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) ・紙振り牌子の見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表16.7.7による) (16.7.3) (表16.7.7) (16.7.2) 接着剤の材料	
屋外野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	屋内(※19形 ・25形) 屋外(・19形 ※25形) 外の軒天井・ピロティ天井等 野経等の関係 野経 祭職 野経受 吊りボルト及びインサート 周辺部の端からの距離 ・制風圧性を考慮した補強 適用箇所: ※図示・ 精強方法・※図示・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・外装厚塗材C ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ こて塗 ・ ひき起こし ・ かき序をし ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け ・ 外装厚塗材E ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ こて塗 ・ ローテ・塗 ・ 内装厚塗材C ・ 吹放し ・ 凸部処理 吹付け	tがたスタッコ以外の上塗材 り ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		- 断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示		枠、くつずりの材料 ※図示 ・ (16.7.2) 接着剤の材料 (16.7.2)	
屋外野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	屋内(※19形 ・25形) 屋外(・19形 ※25形) 外の軒天井・ピロティ天井等 野経等の関係 野経 祭職 野経受 吊りボルト及びインサート 周辺部の端からの距離 ・制風圧性を考慮した補強 適用箇所: ※図示・ 精強方法・※図示・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし ・外装厚塗材Si ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・外装厚塗材E ・平たん状 ・凹凸状 ・こて塗 ・ひき起こし ・四小子 ・の・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・つ・	り 上塗材 り ・適用する		適用箇所 ※図示		接着剤の材料 (16.7.2)	
屋外野し、吊天・天	外の軒天井. ピロティ天井等 野縁等の間隔 野縁 野縁受 吊りボルト及びインサート 周辺部の端からの距離 ・耐風圧性を考慮した補強 適用箇所: ※図示 - 補強方法 ※図示 - は通用箇所: ※図示 - 表子下地村における耐震性を考慮した補強 適用箇所: ※ダマで ・図示 (14.4.4)		・ ひき起こし かき落とし こて塗 ・外装厚塗材Si ・吹放し ・凸部処理 吹付け ・ 水装厚塗材E ・平たん状 ・凹凸状 ・こて塗 ・ ひき起こし ・ローラ・塗 ・吹放し ・凸部処理 吹付け	上塗材 り・適用する					
野	野縁等の間隔 野縁 野縁受 吊りボルト及びインサート 周辺部の端からの距離 ・耐風圧性を考慮した補強 (14.4.4) 適用箇所: ※図示 ・ 補強方法 ・ ※図示 ・ 相強的所:※図示 ・ 補強方法 ・ ※図示 ・ 表針ではおける耐震性を考慮した補強 (14.4.4) 適用箇所: ※マペて ・ 図示 ・ (14.4.4)		・外装厚塗材E ・平たん状 ・凹凸状 ・こて塗 ・ ローラ・塗 ・ ローラ・塗 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 吹付け	り · 適用する り			1.1	ホルムアルデヒド放散量※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・耐風圧性を考慮した補強 適用箇所: ※図示・ 吊リボルトの間隔が900mを超える場合の補強 適用箇所: ※図示・ 接強力法: ※図示・ 実件下地村における耐震性を考慮した補強 適用箇所: ※すべて・図示・		<td color="1" color<="" rowspan="2" td=""><td>Ŋ</td><td></td><td>適用箇所 ※図示</td><td>1.1</td><td></td></td>	<td>Ŋ</td> <td></td> <td>適用箇所 ※図示</td> <td>1.1</td> <td></td>	Ŋ		適用箇所 ※図示	1.1	
· 吊 · 天	適用箇所: ※図示 - 補強方法 / ※図示 - 吊りボルトの間隔が900mを超える場合の補強 (14.4.4) 適用箇所: ※図示 - 天井下地村における耐震性を考慮した補強 (14.4.4) 適用箇所: ※すべて - 図示 (14.4.4)		・内装厚塗材C ・吹放し ・凸部処理 吹付け			1	/	10 建具用金物	種類及び見え掛かり部分の材質 ※表16.8.1による ・図示 (16.8.2)
· 吊 · 天	適用箇所: ※図示 - 補強方法 / ※図示 - 吊りボルトの間隔が900mを超える場合の補強 (14.4.4) 適用箇所: ※図示 - 天井下地村における耐震性を考慮した補強 (14.4.4) 適用箇所: ※すべて - 図示 (14.4.4)			1 11		フェントフ級性の経験 WOURDAN AUDIAN III THANAN III		金属製建具用の丁番の枚数及び大きさ ※表16.8.2による /・図示	
· 未	吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強 適用箇所: ※図示 実井下地村における耐震性を考慮した補強 適用箇所: ※すべて の宗		・平たん状 ・凹凸状	⊣ 11		ステンレス銅板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (16.2.3)(16.6.3.(1)) 網戸等		樹脂製建具用の丁番の枚数及び大きさ ※表16.8.3による ・図示 木製建具用の丁番の枚数及び大きさ ※表16.8.4による ・図示	
· 天	適用箇所: ※図示 精強方法: ※図示 天井下地材における耐震性を考慮した補強 (14.4.4) 適用箇所: ※すべて 図示		・ひき起こし ・かき落とし	9		種類 材質 線径 網目 適用箇所		木製建具の戸車及びレール	
· ₹	適用箇所: ※すべて 図示 📗		・内装厚塗材L ・平たん状 ・凹凸状 こて塗り	y		- 防虫網 ※合成樹脂製 ※0.25mm以上 ※16~18メッシュ ※図示		握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ※図示	
· X	/		・ひき起こし ・かき落とし ・内装厚塗材G ・平たん状 ・凹凸状			・ガラス繊維入り合成樹脂製・	1.1		
· x			・ 円を厚坐材は ・ 平たん状 ・ 凹凸状 こて塗! こて塗!	9	1	・ステンレス製(SUS316) - 昨島線 ※ステンレス(SUS304) 終社 ※1.5mm ※関ラ	11 鍵	マスターキーの製作(対応)製作する (・新規・)既存合わせ) (16.8.4)	
	※14.4.4(8)による。ただし、 ふところ1.5m以下の場合も適用し、		・内装厚塗材Si ・吹放し ・凸部処理 吹付け	_	1	防鳥網 ※ステンレス (SUS304) 線材 ※1.5mm ※網目寸法15mm ※図示		・ 製作しない(※ 既存マスダーキーに合わせる ・ 合わせない) 鍵の製作本数 ※3本1組	
	固定方法は専用金具又はポルトとし、溶接は不可とする。		・内装厚塗材E ・平たん状 ・凹凸状 ・こて塗り		1	外部に面する建具 表面処理の種別 ※BB-1種 ・BB-2 種 (16.2.4)(表14.2.1)		製作所 評価名簿による(評価名簿に記載のないものは図示による)	
	. /		- ひき起こし - ローラー塗! 按扇仕上途社	y	1	色合い等 ※標準色(・特注色()	1.1		
	天井のふところが 3 m を超える場合の補強 (14.4.4)		複層仕上塗材 呼び名 仕上げの形状 工法	備考	1	屋内に使用する建具表面処理の種別 ※BC-1種 BC-2 種 (16.2.4)(表14.2.1)	12 自動ドア開閉装置	引き戸用駆動装置 (16.9.2) (表16.9.1) ##### (16.9.2) (表16.9.1)	
4 軽量鉄骨壁下地 スタ	適用箇所: ※図示 補強方法: ※図示			り耐候性	1	色合い等 ※標準色 (/)・特注色 () 結露水の処理方法 ※製作所の仕様による・図示 (16.2.4)		性能値 ※表16.9.1による / 種類 SSLD-1 SSLD-2 DSLD-1 DSLD-2	
	タッド. ランナー等の種類 ※表14/5.1による ・図示		・ 複層塗材Si 吹付け	※ 耐候形3種	1	旅路水の処理力法		を機能トイレ出入口に設置される引き戸用駆動装置 (16.9.2)(表16.9.2)	
	タッドの高さが5mを超える場合図示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・複層塗材E ・凸部処理 ・凹凸状	-	5 樹脂製建具	製作所 評価名簿による		性能値 ※表16.9.2による・	
	/		・複層塗材RE 吹付け	上塗材の種類 (表15.6.2)	1	外部に面する樹脂製建具の性能等級等(コンクリート系下地及び鉄骨下地) (16.3.2)(表16.3.1)	1	引き戸用検出装置の種類※多機能トイレスイッチ (16.9.3) (表16.9.4)	
5 金属成形板張り(天井) 材料	表面処理 (表14.2 1による)		・可とう形複層塗材CE ・ゆず肌状 ローラー塗り	(表15.6.2)		種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 考 ・ A種 S-4 W-4 ※ 図示		戸の開閉方式 ・図示 ・片引き	
#	材 種 製法 ポ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ		· 凸部処理 · 凹凸状 吹付け			· A種		引き戸用検出装置 (16.9.2)(16.9.3)(表16.9.3) 性能値 ※表16.9.3による・	
7	アルミニウム ・押出し スパンドレル形 板厚 ・ ブラウン系 ・ ブラック		・防水形複層塗材CE ・ゆず肌状 ローラー塗り	增塗材		· C種 S − 6		種類 ・光線(反射)スイッチ ・熱線センサー ・音波センサー	
	・ロール 板幅 ・ステンカラー・		・ 防水形複層塗材E ・ 凸部処理 ・ 凹凸状 吹付け	・適用する		外部に面する樹脂製建具の性能等級(木下地) (16.3.2)(表16.3.2)	,	・光電センサー /電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ	
W- 1.1.	・ブレス //パネル形		- 防水形硬層塗材化 - 凸部処埋 - 凹凸状 吹付け 軽量骨材仕上塗材			種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 備 考		防錆・適用する(塩害のおぞれのある場合)※適用しない	
	付け用下地 ※14章 4節/による ・図示 (14.6.3) 縮調整継手 ・設ける /施工箇所 ※図示 ・) (14.6.3)		呼び名 仕上げの形状 工法	備考		· D種		凍結防止措置 ・行う 製造所 評価名簿による	
,T-9831	(14. 0. 0)		・吹付用軽量塗材 ・砂壁状 吹付け			・ 防音ドア, 防音サッシの遮音性の等級 ・ T-1 ・ T-2 (16.3.2) (表16.3.2)	'		
	材の種類 ・250形 /・300形 ・350形 ・		・こて塗用軽量塗材 ・平たん状 こて塗り	(15. 6. 2)		適用箇所 ※図示	13 自閉式上吊り引戸装置	置 性能 ※表16.10.1による・ (16.10.3)(表16.10.1)	
隅角:	角部、端部の役物/※使用する(笠木本体の製造所の仕様による)		内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの	(15. 6. 2)		・ 断熱ドア, 断熱サッシの断熱性の等級 ・ H-4 ・ H-5 ・ H-6 (16.3.2) (表16.3.3)		製造所評価名簿による	
- 表面:	・使用しない 面処理 ・表 [4.2.1 (・BA-1 ・BA-2) 種		防火材料の指定 ※なし ・あり(※図示 ・)	(15. 6. 2)		適用箇所 ※図示 (16.2.3(5))(16.3.3)	14 重量シャッター	シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強敗 N/m2) (16.11.2)	
	面及程 · 衣(=-2.1 (= bA-1 - bA-2) /程 合い等 ※標準色		見本塗 ※行う・行わない	(15. 1. 3) (15. 6. 3)		種類 材質 線径 網目 適用箇所		- 外壁用防火シャッター耐風圧強度 N/m2)	
笠木	木の固定金具の固定工法		ALCパネルの内壁目地部の形状 形目地付き ・	(15. 6. 4)		・防虫網 ※含成樹脂製 ※0.25mm以上 ※16~18メッシュ ※図示		・屋内用防火シャッター	
建	建築基準法に基づく風圧力の(※1・1.15・1.3)倍の風圧力に対して構造耐力上安全である工法	6マスチック塗材塗り	種別 ・ A種 ・ B種	(15.7.2) (表15.7.1)		・ガラス繊維太り合成樹脂製・		・防煙シャッター	
7 手すり	(14. 8. 2)			*		・ステンレス/製 (SUS316) ・防鳥網 ※ステンレス (SUS304) 総材 ※1.5mm ※網目寸法15mm ※図示		開閉方式の種類 ※上部電動式(手動併用)・上部手動式 (16.11.2)(表16.11.1) 電動シャッターに設ける/二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置の設置箇所 ※図示	
I L	材料の種別 施工箇所 表面処理 備考 ステレレス (SUS304) 外構 ・#400 ・ HL	7 せっこう プラスター塗り	下塗り及び中塗り		1			電動シャッターに設ける自動的に停止する機能を有する障害物感知装置の設置箇所 ※図示	
	ステレス (SUS304) 外標 ・ # 400 ・ HL 銅 / ・ 塗装 ・	2 2 2 2 2 2	・既調合プラスター(下塗り用) ・現場調合プラスター(下塗り用) 上塗り	(15. 8. 2)	1	ガラス ・複層ガラス ・単板ガラス ※図示		屋内用防火シャッターだしくは防煙シャッターに設ける危害防止機構の設置箇所 ※図示	
	アルミニウム(BL認定部品) ・ 種別 () 種 色合い等()		・既調合プラスター(上塗り用) ・しっくい塗り		1	表面色 ※標準色 /・特注色(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		管理用シャッターのジャッターケース ・設ける (16.11.2)	
	/				1	水切り板、ぜん板 ※製作所の仕様による・図示 製作所 評価名簿による		スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3) 鋼板の種類 ・ JIS 6 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)	
8 タラップ ※ス	/ ステンレス (SUS304)(表面処理 ※研磨なし ・#400 ・) (14.8.3)	8 しっくい塗り	下地 ・ ナポリ 〒地 (細ぐ 取が久屋の途庫・※本15-10-11-1-1-2	(15. 10. 1) (15. 10. 2)	6 銅製建具	製作所 評価名簿による 簡易気密型ドアセット・適用する (16.4.2)(表16.4.1)		列板の種類 - JIS 6 3312(登装溶融亜鉛めっき銅板及び銅帯)	
	銅製 (表面処理 ※溶融亜鉛めっき 種別C種 ・)		- 木ずり下地(調合及び各層の塗厚:※表15.10.1による こまい土壁下地(調合及び各層の塗厚:※表15.10.2による)		外部に面する建具の 耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 (16.4.2)(表16.2.1)		めっきの付着量※ Z12又はF12を満足するもの・	
<u> </u>			・せっこうラスポード(調合及び各層の塗厚:・) '	1	・防音ドア,防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (16.2.2)		製造所評価名簿による	
左官工事			・せっこうボード(調合及び各層の塗厚:・)	1	適用箇所 ※図尓	15 48 = 2	服用取子 人口如果新子 (工新州中兴工学子)	
1 モルタル塗り モル	ルタル ※現場調合材料 ・既調合材料 () (15.3.2)		・下地シート + せっこうボード		1	・ 断熱ドア. 断熱/ナッシの断熱性の等級 ・ H−1 ・ H−2 ・ H−3 ・ H−4 ・ H−5 適用箇所 ※/図示	15 軽量シャッター	開閉形式 · 上部電動式 (手動併用※手動式 (16.12.2) (表16.12.1) 耐風圧強度 / N/m2)	
	製目地材・適用する(形状※図示) (15.3.2)	9 こまい壁塗り	のりの種類	(15. 11. 2)	1	・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3		スラットの材質の種類 (16.12.3)	
床の	の目地 ・適用する (目地割り ※2㎡程度 最大目地間隔3m程度 ・) (15.3.5)		土壁用ののり ※つのまた	(10.11.2)	1	適用箇所 /※図示		・JIS 6 <mark>/</mark> 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)	
	(種類 ※押し目地・・・) はたくに乗りて地方のでは、これには、		砂壁用ののり ※ふのり		1	鋼板類の厚き ※図示(図示がない場合は表16.4.2による)・ (16.4.4)		めっきの付着量※ 206又はF06を満足するもの・	
	装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 (15.3.5) ※行う ・行わない		色土の種類		1	ステンレズ銅板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 (16.6.3.(1)) 製作所 副価名簿による		JIS/G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着動※ AZ90を満足するもの	
*	20 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12		・土物仕上げに用いる色土 (・大津仕上げに用いる色土 (and the test and the first fir		スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 (16.12.4)	
	ス系下地の種類 (15.2.4)		・大津仕上げに用いる色工(色砂の種類		7 銅製軽量建具	簡易気密型ドアセット ・適用する (16.5.2)		製造所評価名簿による	
	・通気工法二層下地(材料:※2種波形ラス700・)		・天然砂と岩石の砕砂()		1	- 防普ドア. 防音サッシの遮音性の等級 ・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 ・ T-4 (16.2.2)			
	換気口部の措置 ※公共建築木造工事標準仕様書11.4.3(2)(ク)による ・通気工法単層下地(材料:※2種防水紙付きリブラス800)		・人工的に着色・製造したもの(適/用箇所 ※図示 ・断熱ドア,断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5			
	・通丸工法単層ト地(材料:※2種筋水紋付きリノラス800 ・ ・直張り工法ラスモルタル下地		下塗りの調合 ※表15.11.2による	(15.11.3) (表15.11.2) (15.11.4) (表15.11.8)		- 断然トア・断然サッシの断然性の等級 ・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ H-4 ・ H-5 適用箇所 ※図示			
.	・直張り工法ラスシートモルタル下地		塗厚 ※表15.11.8による ・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合((15.11.4)(表15.11.8)		★ 耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・ D-1 ・ D-2 ・ D-3		1/	
建築	築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造の指定()			•	<u> </u>	適用箇所 ※図示	<u> </u>	<u></u>	
4+									
特 ———					/ パ	東 洋 町	エ	事 名 野根地区公衆トイレ等整備工事	
					1			F F H + 7 / H + 7 / C	
5言					例 ———			匠図 特記仕様書(5)	
						製図 検印	2025.	04.30 縮 尺 S=1: 図 番 A-05	

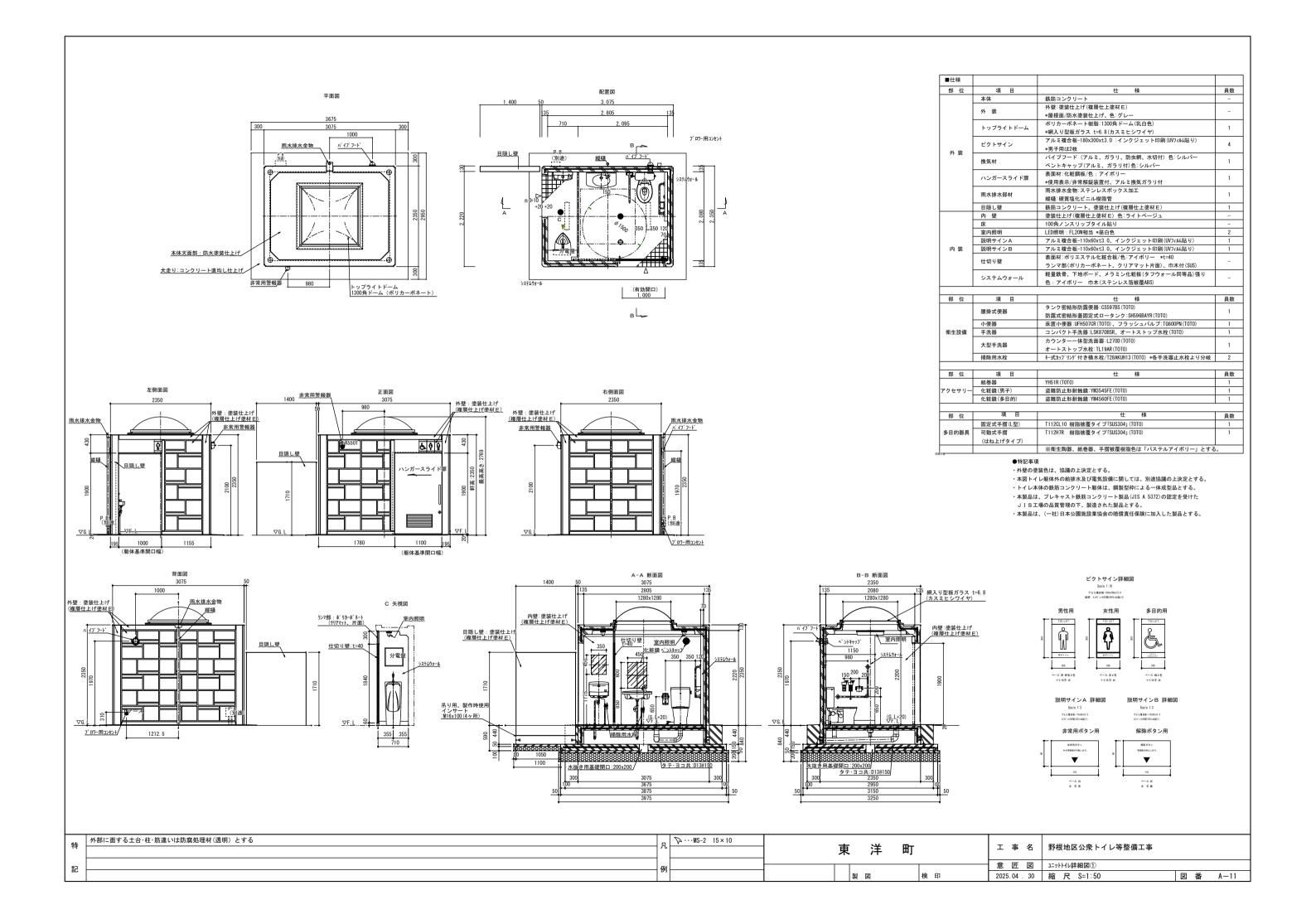
項目	特 記 事 項	項目	特 紀 事 項	項目		特配		項目	特 記 事 項
16 オーバーヘッドドア	(16.13.2~16.13.3) (16.13.2~16.13.3) (16.13.2~16.13.3) (16.13.2~16.13.3) (16.13.2~16.13.3)	内装工事	(19.2.2~19.2.3) 種類の記号 色柄 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 備寿			トルムアルデヒド放散量 たはそれと同等と認められるもの	(19. 5. 2)	断熱・防露. ユニット及びその他工事	
	セクション材料による区分 照開方式 収納形式 ボイドレールの材料 推風圧 による区分 による区分 ボスチールタイプ ※パランス式 ・スタンダード形 溶融亜鉛めっき鋼板 ・50	1 ビニル床シート張り	※ F S - 木目柄 ※ 2.0 - 高耐久抗菌樹脂コーティング 図示 - マーブ・J 4柄	9 畳敷き		: · KT- I · KT- II ※ KT- III · KT-К ·		1 断熱・防露	- <断熱材選定式> 設計熱抵抗値以上となる断熱材仕様および使用量とする
	・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ・ステンレス鋼板 ・75 ・ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・ハイリフト形 ・100		※ H S ※ 無地 ※ 2.5 ・抗菌 ・耐動荷重性			. KI-1-KI-128KI-11-KI-K			壁, 天井 : 熱据抗m2K/W=断熱材厚 (m) ÷熱伝導率(W/mK) (選定断熱材) ≧設計熱抵抗 (2.631) m2k/W
	・バーチカル形 125		※ FS ※ 無地 ※ 2.0 ・抗菌 ・防カビ	10 せっこうボード.その他 のボード及び合板張り		類 JISの記号	(19.7.2)(表19.7.1) 厚 さ(mm) 規格等		床 : 熱抵抗m2K/W=断熱材厚 (m) ÷熱伝導率(W/mK) (選定断熱材) ≧設計熱抵抗 (1.000) m2k/W
42 13	電動式に設ける障害物感知装置の設置箇所 ※図示 製造所 評価名簿による		- ・ マーブ ル柄 ・ ・ 防滑性 ・ 耐熱性 ※ F S ※ 2.0 ・ 帯電防止 ・ 耐動荷重性		・ 硬質木毛セメント・ 普通木毛セメント		15 · 20 · 25 15 · 20 · 25		断熱材 (20.1.2) (20.1.3) (表20.1.1)
17 ガラス	ガラスの種類 摘 要		- マーブル柄 - 防滑性 耐薬品性		・硬質木片セメント・普通木片セメント	板 HF -	12 - 16 - 18 - 21		断熱材の種類
	・ 熱線吸収板ガラス(グリーン) ※ 図示(製作所は評価名簿による) ※ その他のガラス ※ 図示		帯電防止性能 ※ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1. 2以上~3. 2未満又は 体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ⁷ ~10 ¹ ° Q 程度		・ 音通木片セメント○ けい酸カルシウム		イプ2(無石綿) ○6 ・8		- グラスウール ※ 図示 ・ 味 王井 ※ 図示 ・
	ガラス溝の大きさ ※ 表16.14.1による (16.14.3) 熱線反射ガラスの映像調整 行う (16.14.4)	2 ビニル床タイル張り	(19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所		・ 化粧けい酸カルシ	1.0F K ・ウム板 ・	6 •		フェルト状断熱材 - ロックウール ※ 図示 ・ 壁、天井 ※ 図示 ・
18 ガラス留め材	種別 (16.14.2) 建具の種類 材 質 板がラスをはめ込む溝の大きさ(mm)		※KT ・無地 ※300×300 ※ 2.0 ・ ・帯電防止 ・防滑性		- ロックウール化粧	吸音板 DR ※	フラットタイプ(※9(不燃) ・12 ・) 凹凸タイプ(※12(不燃) ・15 ・)		・ロックウール ※ 図示 ・ 床 ※ 図示 ・
	アルミニウム製 ※ シーリング材 ※ 2 ※ 2 ※ 2 ※ 3 ※ 3 ※ 3 ※ 3 ※ 3 ※ 3 ※ 3		・TT ・FT ・ 柄物・ ・ 2.0 ・ 帯電防止 ・ 防滑性・ FOA ・FOB ・ 第電防止 ・ 防滑性・ 防滑性・ ・ 防滑性・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		ロックウール吸音グラスウール吸音		25 25(ガラスクロス包)		- ビーズ法ポリスチレンフォーム ※ 図示 ・ 床 /※ 図示 ・ ・押出法ポリスチレンフォーム ※ 図示 ・ 床 /※ 図示 ・
	・ グレイジングチャンネル形 ・		帯電防止性能 ※ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値 (JIS A 1454)1×10 ⁷ ~10 ¹ 0Ω程度		・せっこうボード	GB-R *	12.5(不燃) • 15(不燃) • 9.5(準不燃)		- 硬質ウレタンフォームA種 ※ 図示 ・ 床 / ※ 図示 ・ ・ポリエチレンフォーム ※ 図示 ・ 床 / ※ 図示 ・
	樹脂製 ※ シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・ガスケット		·		・ 不燃積層せっこう	G B - N C	5(不燃) ・ 化粧無(下地張り用) ・ 化粧有(トラバーチン模様)		・フェノールフォーム ※ 図示 ・ 床/ ※ 図示 ・ 床/ ・インシュレーションファイバー ※ 図示 ・ 床/ ※ 図示 ・
	・ グレイジングチャン考ル形	3 誘導用床材及び 警告用床材	(19.2.2) 種 類 寸 法(mm) 厚さ(mm) 備考		・ シージングせっこ・ 強化せっこうボー		- 9.5 · 12.5 · 15 (※準不燃 · 不燃) 12.5(不燃) · 15(不燃)		・ グラスウール ※ 図示 ・ 産 天井 ※ 図示 ・ は6状断熱材 ・ ロックウール ※ 図示 ・ 産 天井 ※ 図示 ・
	銅製及び銅製軽量 ※ シーリング材 ガスケット ※建具の製造所の仕様による・	= 11/11/NYP	・ レジンコンクリート系 ※ 300×300 ※ 30 ※ JIS T 9251適合品		せっこうラスボー化粧サっこうボー	· ド GB-L · · - ド (トラバーチン模様) GB-D ·	9.5 • 12.5 9.5(準不做) • 12.5(不做)		・セルローズファイバー ※ 図示 🕢 壁.天井 ※ 図示 ・
	ステンレス製 ※ シーリング材 ・ がスケット ※建具の製造所の仕様による・ 木製 ※ シーリング材 押縁留め		・ タイル系 ・ 60 ・ 塩化ビニル系 ※ 300×300 ※ 図示		化粧せっこうボー	- ド(木目) GB-D ·	9.5(準不燃) ・12.5(不燃) 模様()		現場発泡断熱材はJIS A 9526 (建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム) による ※ A種 1 (難燃性を有するもの)・
19 ガラスブロック積み	シーリング材 ※ S R-1 · (表9.7.1) ガラスブロック材料 (16.14.5)	4 ビニル幅木	(19. 2. 2)		・ 普通合板	板	板の樹種名 ※ 図示 面の品質 ()		防湿材 厚さ(mm) ※図示 ・ (20.1.2)
	表面形状 呼び 寸法 厚さ 色調 防火性能 ※なし・あり		材 種 厚さ(mm) 高 さ(mm) 備考				さ(mm) () 着の程度 · 1類 · 2類		・JIS A 6930(住宅用ブラスチック系防湿フィルム)によるもの ・JIS Z 1702(包装用ポリエチレンフィルム)によるもので、厚さ0.05mm以上のもの
	- 壁用金属枠及び補強材 ・ 図示 ・ ステンレス (SUS304) ・ アルミニウム カ骨	5 ゴム床タイル張り	(19. 2. 2)		・ コンクリート型枠		防虫処理 ・難燃処理 ・防炎処理 さ(mm) ()		・ JIS Z 1/02 (包装用ホリエテレンフィルム)によるもので、厚さ0.05mm以上のもの ・ JIS K 6781(農業用ポリエテレンフィルム)によるもので、厚さ0.05mm以上のもの
	対 質		色柄 種類 厚さ(nm) 寸法(nm) 備考 ・単層・複層・3.0 ・4.0 ・5.0 ・6.0 ・9.0		· 構造用合板	厚	さ(mm)() :粧板の樹種名()		気密材 厚さ (mm) ※図示・ (20.1.2)
	・ ・ 化粧目地モルタルの色()	6 カーペット敷き	・機じゅうたん (19.3.3) (表19.6.1)		へのかし私百板	接	着の程度 ・ 1 類 ・ 2 類		- JIS A 6930によるもの - JIS A 6111 (透湿筋水シート) によるもの
	金属製化粧カパー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示	リカーバッド級と	織り方 パイル形状 帯電性 品質(公表単価(円/m2))				さ(mm) (防虫処理		・「日本農林規格」による合板及び構造用パネル並びにJIS A 6901(世/っこうボード)によるもの ・JIS A 9521 (発泡プラスチック保温材)及び
	形状 ※図示		- ウィルトンカーベット - ダプルフュースカーペット - ループパイル - ループパイル		・特殊加工化粧合板 (・メラミン化料		面性能 ・F ・FW ・W ・SW 着の程度 ・1類 ・2類		JIS A 9526 (諸紫物断勝用吹付け硬質ウレタンフォーム) による 0 ・乾燥木材 (含水率20%以下)等
20 建築窓ガラス用 フィルム	名 称 種 類. 記号 ※ガラス飛散防止フィルム ※GI-1. GD-1 ・GI-2. GD-2		- アキスミンスターカーベット - カット. ループ併用 - 色柄. パイル糸の種類		(・ ポリエステル		さ(mm) (防虫処理		- 金属部材
	品質 JIS A 5759による		※模様のない無地のもの 種別 (・A種 ・B種 ・C種) ・ タフテッドカーペット (19.3.3~19.3.4)(表19.3.2)		(•)			ーコンクリート部材
***	/		パイル形状 パイル長 エ 法 帯電性 品質(公表単価(円/m2)) ・カットパイル ※ 全面接着工法 ・ 人体帯電圧		・ ミディアムデンシティ・ 単板張りパーティ	・クルボード・	3 · 7 · 9 · 12 未研磨板 · 研磨板		防風材 %JIS A 6111による透湿防水シートB
塗装工事 (1)材料	 ホルムアルデヒド放散量※ F☆☆☆☆とする。 (18.1.3)		・ ループパイル ・ グリッパー工法 3kV以下 ・ レベルループパイル		・ 化粧パーティクル		10 · 12 · 15 · 18 単層オーバーレイ		- 「日本農林規格」による合板及び構造用パネル - JIS A 5905 (繊維板) によるシージングポード
	防火材料 ・屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする (18.1.3) ・次の箇所を除き、防火材料とする(箇所:)		- カット. ループ併用 - ニードルパンチカーペット (19.3.3)				塗装・プラスチックオーバーレイ10(難燃)・12(難燃)		- JIS A 5440(火山性ガラス質複層板(VSポード)) - JIS A 5905によるMDF
②素地ごしらえ	(18. 2. 2~18. 2. 7) (表18. 2. 1~表18. 2. 7) 下地面等 種別		厚さ(mm) 帯電性 品質(公表単価(円/m2))		・ ハードボード(素は	也) - HB .	未研磨板 (・スタンダード ・テンパード) 研磨板 (・スタンダード ・テンパード)		断熱材の取付け等 [20.1.4]
			- 人体帯電圧3kV以下		・ ハードボード(化料		内装用 · 外装用 2.5 · 3.5 · 5 · 7		充填断熱工法
	ロッエイエ		・ タイルカーペット (19.3.3) 種類 パイル形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 品質(公表単価(円/m2))		・インシュレーショ	ンボード	A級(・天井仕上 ・内装仕上 ・)		- 20.1.4.(3).(7). (a). (b)及び (c) による - 20.1.4.(3).(7). (a). (b)及び (c)以外の取付: ※製造所仕様による・
	モルタル面及びプラスター面 · A種 ※ B種		※ 第一種 ・ カットパイル ※ ループパイル ※ 500×500 ※ 6.5 ・ 第二種 ・ カットパイル ループ併用 ・ 7.0				9 - 12 - 15 - 18		外張断熱工法 - 20.1.4.(3).(4). (a). (b)及び(c)による
	コンクリート・A L C パネル面 (DPを除く) - A種 ※ B種		タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し (19.3.3) 階段部分 ※模様流し ・市松敷き		せっこうボードの 目地工法の種类		(19.7.3) (表19.7.5) っこうボードのエッジの種類		・ 20.1.4.(3).(4). (a). (b)及び (c)以外の(取付: ※ 製造所仕様による・ 防蟻処理: ・ 行う (種類:) ・ 行わない
	せっこうボード面(総目処理工法)		下敷き材 ※JIS L 3204(反毛フェルト)に基づくの第2種2号、呼び厚さ & Omm (19.3.2)		継目処理工法	・ テーパエッジ ※ ※ ベベルエッジ ・			防湿層の施工 ・室内側の防湿層を省略する (20.1.4) 開口部の回りの施工
3 錆止め塗料塗り	(18.3.2~18.3.3)(表18.3.1~表18.3.4) 塗料 鉄鋼面 屋外 ※ A種 ・ B種		取付け用付属品 (19.3.3) 見切り ※(材質 種類 形状)・図示		目透し工法	※ スクェアエッジ ・	ベベルエッジ		・ 床下及び小屋裏点検口の高い気密性の高い構造 ※ 図示
			押え金物 ※(材質 種類 形状) ・図示		合板類の張付け · A		(19.7.3) (表19.7.3) Fヒド放散量 (19.7.2)		電気配線のコンセント及びスイッチボックスの周りの施工 (20.1.4) ・ 気密措置が講じられた専用のボックスを使用する
	亜鉛めっき銅面 ※ A種 B種 C種	7 合成樹脂塗床	(19. 4, 2~3) (表 19. 4, 4~8)		% F ☆ ☆ ☆ ☆ , ま;	MDF及び合板のホルムアルデ たはそれと同等と認められるもの)	2 各部位の工法	・ コンセント及びスイッチボックス か回りを防湿フィルムでくるむ 床の施工 (20.1.5)
	工程 鉄銅面 見え掛り部分 ※ A種 ・B種	(図中:防滑性球 杉系塗床	・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ		遮音壁に用いるシール	レ材・シーリング材 ・ジ	ジョイントコンパウンド (19.7.2)		床に防湿フィルムを張らない場合の適用
	見え隠れ部分 ・ A種 ※ B種		弾性ウレタン樹脂系塗床材 ・ つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのペエ法 ・平滑仕上げ	11 壁紙張り	壁紙種類	程度 防火	(19.8.2) 性能 施工箇所		・床下地板に構造用合板、構造用パネル、パーティクルボード等の床合板等を用いる ・床合板等は、下地のある部分で継ぐか又はさね付きとし、それ以外の場合は、
4 見本施工	その他 ・A種 ※B種 ※行う (18.1.5)		エポキシ樹脂系塗床材 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 下腰流しのベエ法 ・ 防滑仕上げ ・ 樹脂モルタル工法		※塩化ビニル樹脂系	・ 不燃 ・ 準	不燃 · 難燃		気密テープで床合板の継目の知理を行う 天井の施工 (20.1.5)
5 塗装の略号及び塗り	(18.4.1~18.14.2) (表18.4.1~表18.14.1)		・薄膜型塗床材 ※ 図 示 ※平滑仕上げ ※ 塗床材の塗料のホルムアルデヒド放散量 (19.4.2)		*#="1.55 = v.5	· 不燃 · 準	不燃 · 難燃		・天井点検口を設ける天井の気密性及び断熱性の高い構造 ※図示 ・気密型天井点検口 気流止めの施工 (20.1.5)
種別等	略 号 塗装 種別 塗料の種別		※ F☆☆☆☆ またはそれと同等と認められるもの		コンク	ル面及びプラスター面 リート面及びALC面	- A種 ※B種 (19.8.3) (表18.2.4) - A種 ※B種 (19.8.3) (表18.2.5)		気密材の材料及び工法 ※ 図示 気密措置の工法 ※ 図示 (20.1.5)
		8 フローリング張り	単層フローリング (19.5.2~19.5.5)(表19.5.1~表19.5.6) 種類 工法 厚さ(mm) 樹種 備 考			うボード及びその他のボード面		3 サイディング工事	※業系サイディング (JIS A 5422) (20.3.2)
	SAME X FME X F		- 7ローリング ボード 1 等 - 釘留め工法 (根太張り) ※ 15 ※ なら - 釘留め工法 (直張り) ・ 12 ・ 桧		壁紙のホルムアルデヒ	ヒドの放散量 ※F☆☆☆☆、ま	たはそれと同等と認められるもの (19.8.2)		種 類 形 /状 働き長さ 働き幅 厚さ 表面仕上げ 耐凍害 防火・耐 / 火性能
	・NAD アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り ・A種 ※B種		・接着工法 ・8	12 吸音材	材	種 (ガラスクロス包み) ロック	種 類 厚さ(mm) クウール吸音ボード 1 号60 K ・ 25 ・		
	鉄銅面 上塗り塗料等級・1級 ・2級 ・3級 亜鉛めっき銅面 上塗り塗料等級・1級 ・2級 ・3級 亜鉛めっき銅面 上塗り塗料等級・1級 ・2級 ・3級		- 7ローリング・ブ・ロック 1 等 ・接着工法 ※ 15 ※ なら		・ グラスウール吸音	音材(ガラスクロス包み) 吸音月	用グラスウールボード 2 号32 K ・ 25 ・		通気胴縁の樹種 ※杉 ・ 通気胴縁の寸法: ※図示 防腐処理 ※行う ・行わない
	コングリート面及び		フローリングボードの大きさ ※表19.5.1、表19.5.3、表19.5.5による フローリングブロックの大きさ ・300×300 ・303×303		ホルムアルデヒド放 ※ F ☆ ☆ ☆ ☆ . ま;	改量 たはそれと同等と認められるもの)		張り方 ・縦張り工法 ・横張り工法
	コンクリート面 ・ A種 ※ B種 モルタル・プラスター面 ・ A種 ※ B種		複合フローリング	13 接着剤			ーリングその他内装に使用する接着剤の		建具上部の雨/水排出路 ・設ける (位置: ※図示) ・設けない ・現場塗装用サイディングの現場塗装
	EP-G 脂 スマルション 木部 ・A種 ※B種		工法 種別 厚さ(mm) 樹種 備考 ・釘留め工法(根太張り) ・ A種 ※12 ※ なら		ホルムアルデヒド放 ※ F ☆ ☆ ☆ ☆ 、 ま f	敗量 たはそれと同等と認められるもの)		下地処理及び仕上げ ※ 図示 ・ 幅10mm以下、深さ5mm以上
	屋内の鉄鋼面 · A種 ※ B種 屋内の亜鉛めっき鋼面		・ fg留め工法(直張り) ・ B種 ・ 15 ・ 技着工法 ・ 化き板の厚さ)						複合金属サイディング (JIS A 6711) (20.3.3) 種類 形 状 有効幅 長さ 厚さ 表面材 種別 欠性酸 大人酸 大人物
	EP 合成樹脂エマルションペイント塗り ・ A種 ※ B種 ・ EP-T 合成樹脂エマルション模様塗料塗り ・ A種 ※ B種		· 3m以上 ※ 表19.5.4						種類 形状 有効幅 長さ 厚さ 表面材 (0.47(0) 防火・耐 機別 火性能
	・UC ウレタン樹脂ワニス塗り ・A種 ※B種 ・OS オイルステイン塗り		次 数 19. 0. 4 フローリングの大きさ ※表 19. 5. 2, 表 19. 5. 4, 表 19. 5. 6による						通気削線の樹種: ※杉 ・ 通気削線の寸法: ※図示 (20.3.3)
	○WP 木材保護塗料塗り ・A種 ※B種 自然保護塗料塗り(壓内用木部浸透型保護塗料)		接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート (19.5.5)						防腐処理: ※ 行う ・ 行わない
	- フッ素樹脂クリア・塗料 公表価格3,500円/㎡程度 4フッ化、水性、3分ツヤ、高耐候性、低汚染、防薬、防カビ、F☆☆☆☆								機気口部の防水措置 ※ 20.3.2.(3).(7).(c).①,②及び③による (20.3.2) (20.3.3)
	- 漆検室 D-5-塗仕上げ(2回塗) 専用下地シー・採り 株式会社デ持カナジャバン 7479&(-ジー 同等品		・オイルステイン塗りのうえワックス塗り (19.5.6)(表18.13.1) ・生地のままワックス塗り(自然塗料)						換気口. 接続パイプ ※接続パイプJIS K 6741 (硬質ポリ塩化ビニル管) パイプ受け ※接続パイプ適合品した既製品
特			1	Д		 東		<u> </u>	事 名 野根地区公衆トイレ等整備工事
						· * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	/ + "J		匠図 特記仕様書(6)
				例			製 図 検 印		E 図 特託 L (株香 (0) 図 番 A - 06 図 番 A - 06
							<u> </u>		

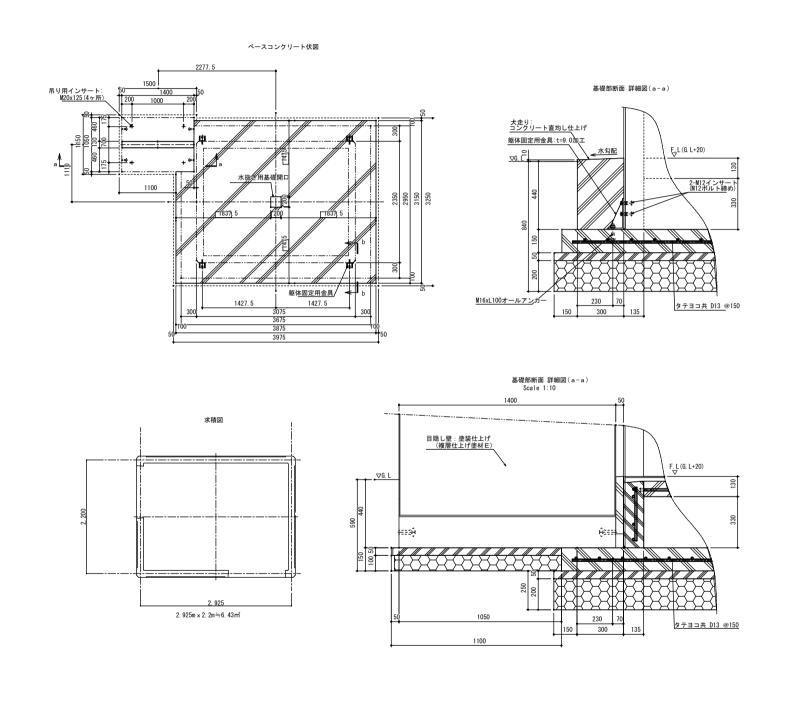
項目	特 記 事 項	項目	特 記 事 項	項目	特 紀 事	· 項	項目	特 記 事 項	
4 A L Cパネル	A L C パネル (JIS A 5416) の種類、形状及び寸法 ※ 図示 (20.4/2)	3 アスファルト舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ※ 図示 ・ (22.4.2) 材料						
(薄型パネル)	通気胴縁の併程: ※杉 通気胴縁の寸法: ※図示 防腐処理: ※行う ・行わない		アスファルト ※再生アスファルト(種類 ※60~80 ・80~100) (22.4.3) ・ストレートアスファルト						
	パネルの構法: ・ 通気構法 ・ 直張り構法 (20.4.3) パネルの取付: ・ 横張り工法 ・ 縦張り工法 (20.4.3)		骨材 ・道路用砕石 ※ アスファルトコンクリート再生骨材 (22.4.3) 加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4)(表22.4.4)						
	バネル幅最小限度 ※150mm ・150mm未満 (20.4.3)		部 位 混合物の種類						
5 底	7%2押出形材 7%742株式会社 AD-1 同等品		表 層 ・ 細粒度アスファルト混合物 (13) シールコート ・ 行う ※行わない (22.4.5)						
			アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない (22.4.6) 舗装の平たん性 ※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 (22.4.2)						
		4 コンクリート舗装	コンクリート舗装の厚さ (22.5.2)						
			舗装の種類						
			- 歩行者用通路 ※ 70 ・図示 ・ コンクリート舗装に使用するコンクリート (22.5.3) (表22.5.1)						
			部 位 設計基準強度 (M/mm2) 所定のスランブ(cm) 租骨材の最大寸法(mm) ・ 車路及 ※ 24 ※ 8 砂利の場合 ・ 25 ・ 40						
			・						
			かり						
			注入目地材料の種別 ※低弾性タイプ 高弾性タイプ (22.5.3)(表22.5.2)						
排水工事			目地の種類 ※表22.5.3による の示 (22.5.4) 目地の構造 ※図22.5.1による の示 (22.5.4)						
1 屋外雨水排水	材料 排水管用材料 ※ 表21.2.1による(材種, 管の種類, 呼び径等は図示による) (2/1.2.1)	⑤カラー舗装	(22. 6. 2) (\$22. 6. 1)						
	- 侧塊の形状及び寸法 ※図示		舗装の種類 部位 着色部の厚さ(mm) ※ アスファルト混合物						
	排水桝の種類 ※図示 地業用材料 ・切込砂利. 切込砕石 ※再生クラッシャラン 4.6.2)(21.2.2)		加熱系 石油樹脂系混合物						
	現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※普通コンクリート		**温系 ・ ニート工法 ・ 塗布工法 車路及び歩行者用通路 ・ 3~5 ・ 1程度以下・						
	設計基準強度 ※18N/mm2 スランプ ※15cm · 18cm		加熱系混合物に添加する材料 - 着色骨材(材質:) - 自然石(材質:) (22.6.3) 総合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量 (22.6.4)						
2 排水桝ふた	現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295A (21.2.1)		トエ法及び塗布工法の配合等 · (22.6.4)						
~ 127 V) 171 V) /~	種類 形式 荷重(安全荷重(KN)) 鍵 鋳鉄製マンホールふた・水封形 ・ T-2用(5) ・有り	6 透水性アスファルト舗装	舗装の構成(歩行者用通路) ※図示 - (22.7.2) 舗装の構成(車路) ※図示						
	練販業マンホールかに ・ 水封79		舗装の平たん性 ※著しい不陸がないもの (22.7.2) アスファルト混合物の抽出試験 行う ※行わない (22.4.6)(22.7.6)						
	・ 中華仕家問取(テーパ・パッキンオ)	7 ブロック系舗装	仕上がり面の平たん性 ※22.8.2(b)による · (22.8.2)						
3 埋戻し土	・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (21.2.1) (表3.2.1)		・コンクリート平板舗装 (22.8.2)(22.8.3) 種類 寸法(mm) 厚さ(mm) 目地材 表面加工 備考						
4 グレーチング	・銅製グレーチング (溶融亜鉛メッキ) (21.2.1)		※ 普通甲板(N) ※ 300角 - 30 ※ 砂 - 研ぎ出し ・ 透水性甲板(P) - 400角 - 60 - モルタル - 洗い出し						
	型 式 用 途 適用荷重 メインバーピッチ メインバー上面の形状 普通目 # 通目 甲型 四凸型		- 保水性平板(M) - 450角 - 80 - たたき出し						
	※ 受枠付		<td color="1" color<="" rowspan="2" td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></td>	<td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>					
	- かさあげ用 - U字溝用 - T - 6用 - T - 14用		※ 普通ブロック(N) 車路 ※80・※5.0・ ※標準色 ・透水性ブロック(P) 歩行者用通路 ※60・※3.0・						
	- т – 20 Я		- 保水性ブロック(M)						
	・ステンレス製グレーチング 型式 用途 適用荷重 メインバービッチ メインバー上面の形状		・綿石舗装 種類 寸法(mm) 厚さ(mm) 施工方法 備考						
	※ 受枠付 ・ 溝ふた用 ・ 歩行用 ・ ・ ・ ・ ・ ・		※ 小舗石(花こう岩) ・ 80 ・ うろこ張り ・ . ・						
	- ますふた用 - T - 2用	⑧砂利敷き	種別 適路 ※A種 ・B種 (22.9.2)(表22.9.1)						
	- U子湾用 - 1 − 14用		建物周囲その他 ・ A種 ※ B種						
	騒音防止ゴム ①適用する 製道所 評価名簿による								
	<u> </u>								
舗装工事 ①路床	路床の材料 (22.2.2~22.2.3)								
	種別								
	- 建設汚泥から再生した処理士 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・								
	路床安定処理								
	路床安定処理用添加材料 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種								
	・フライアッシュセメントB種 ・生石灰(・特号 ・1号) ・消石灰(・特号 ・1号)								
	添加量 (kg/m3) CBRの目標値 ()								
	試験 路床土の支持力比(CBR)試験 ※行わない ・行う (22.2.5)								
	路床締固め度の試験 ※行わない ・行う (22.2.5) 現場CBR試験 ※行わない ・行う (22.2.5)								
② 路盤	路盤の厚さ ※図示 (22.3.2)								
	路盤材料 ・クラッシャラン ・ 粒度調整砕石 (22.3.3)(表22.3.1) ※再生クラッシャラン ・ 再生粒度調整砕石								
	・クラッシャラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ								
<u> </u>	締固め度の試験 ※行う ・行わない (22.3.5)								
特 ———				凡		洋 町	工事	名 野根地区公衆トイレ等整備工事	
記				例			意匠	図 特記仕様書(7)	
						製 図 検 印	2025. 0	4. 30 縮 尺 S=1: 図 番 A-07	

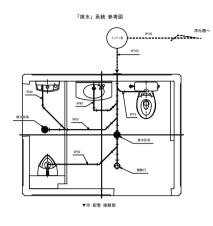




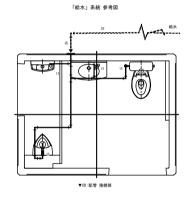




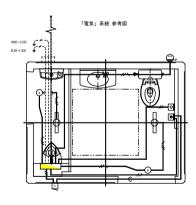










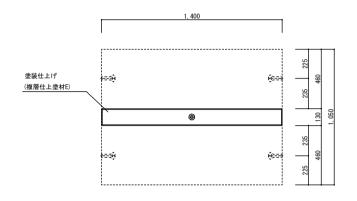


紀 号	名称	備考
	電灯分電盤	
θ	室内照明	LED照明: FL20W相当 *昼白色
⊚	人感知センサー	明るさセンサーON
Ĺ	非常用警報器	EA5501 (パナソニック) 同等品
•	プルスイッチ付押釦	WS65771(パナソニック)同等品 *常開雪
0	解除ボタン	WN5460K (パナソニック) 同等品
₽	防水コンセント	ブロワー用
	IV1. 6x2 (PF16)	
//-	IV1. 6x2 E1. 6 (PF16)	
	予備用空配管	

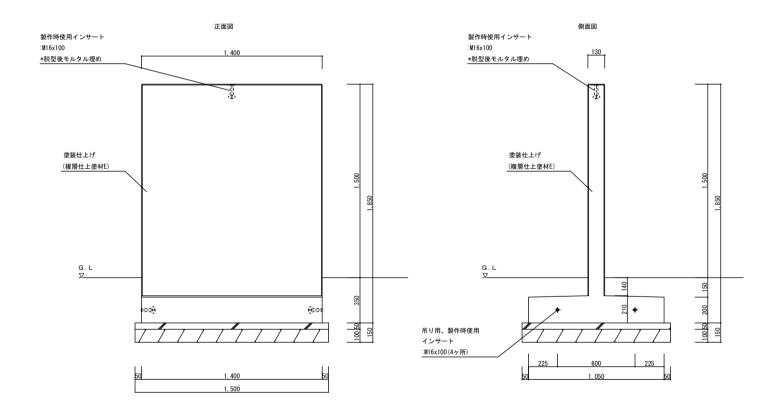
特	[□] ≥	> · · · MS−2 15 × 10	+ **			-	取担地反为南上人上领数进工市		
117] "		東 洋	町		工 事 名 	野根地区公衆トイレ等整備工事		
記	個					意 匠 図	ユニットトイレ詳細図②		
, ac	173		製図		検 印	2025.04 . 30	縮 尺 S=1:50	図番	A-12

目隠し壁(塗装仕上げ) GDT-0001

平面図



参考重量:1442kg

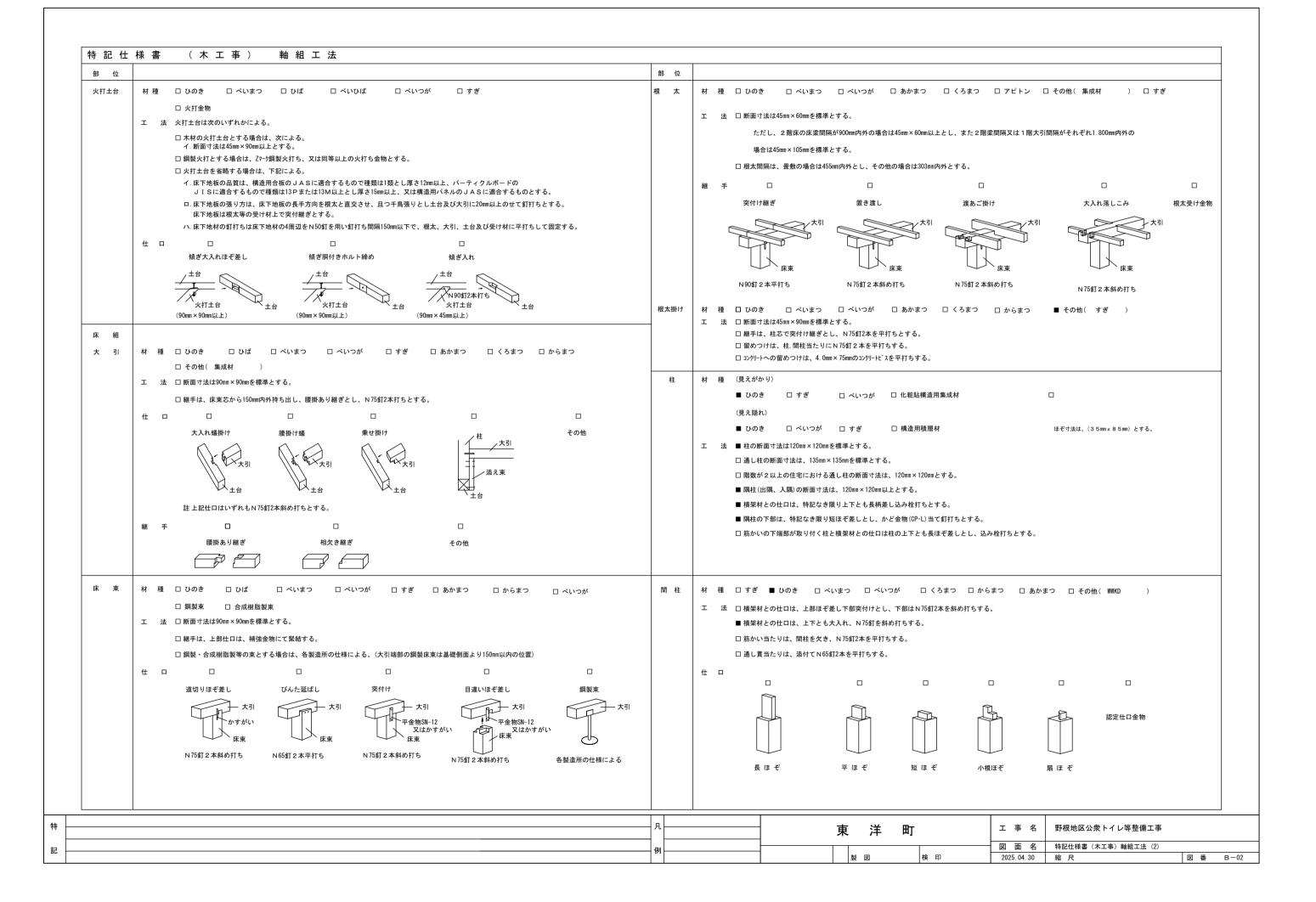


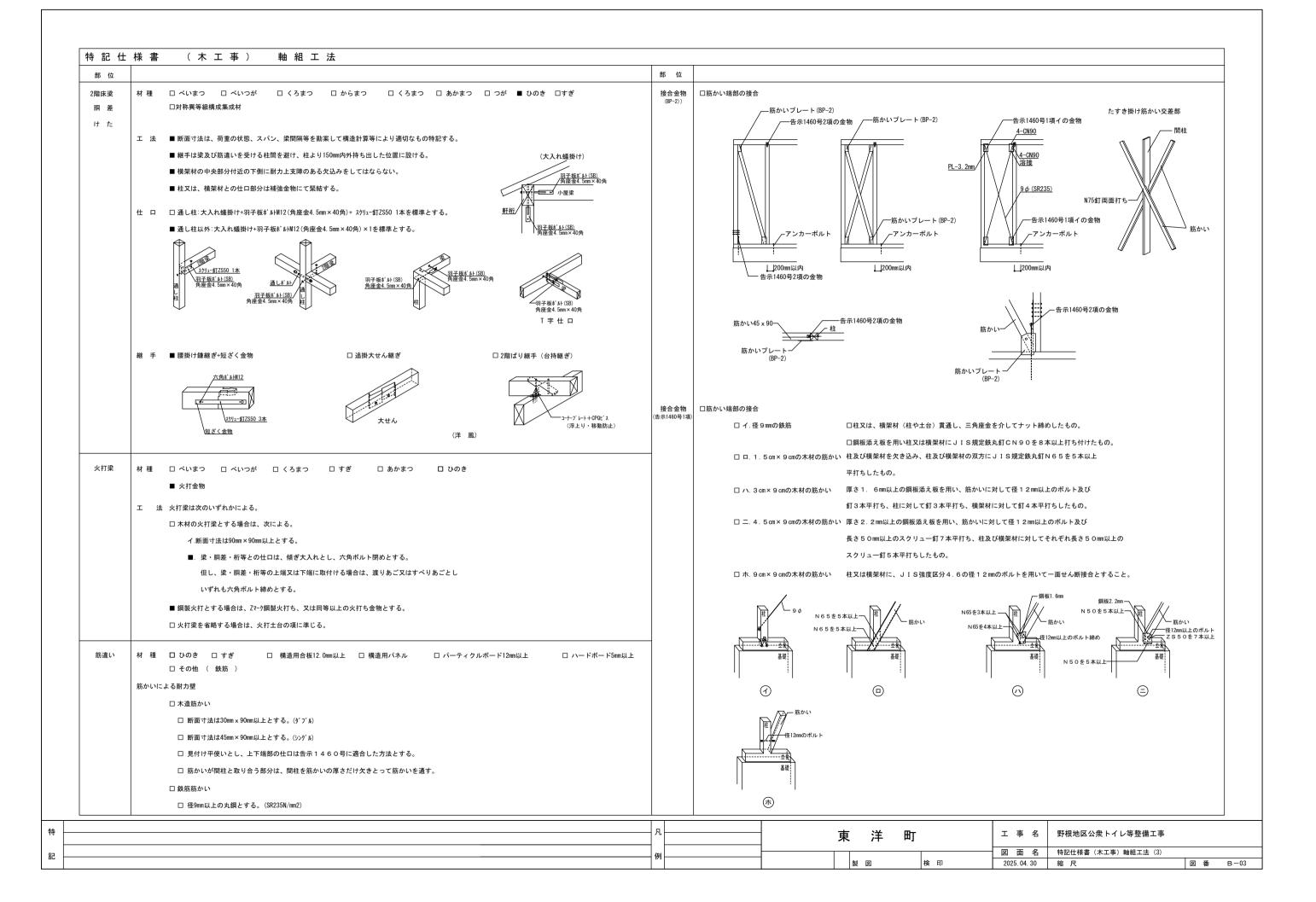
焅	□	+ '*	T = 4	取担 4 反 7 血 1 7 1 ケ 軟 供 7 市
117	71] 東洋町		野根地区公衆トイレ等整備工事
 #2	iai l		意 匠 図	ユニット目隠し壁詳細図
nL.	100	製図検印	2025.04 . 30	縮 尺 S=1:20 図 番 A-13

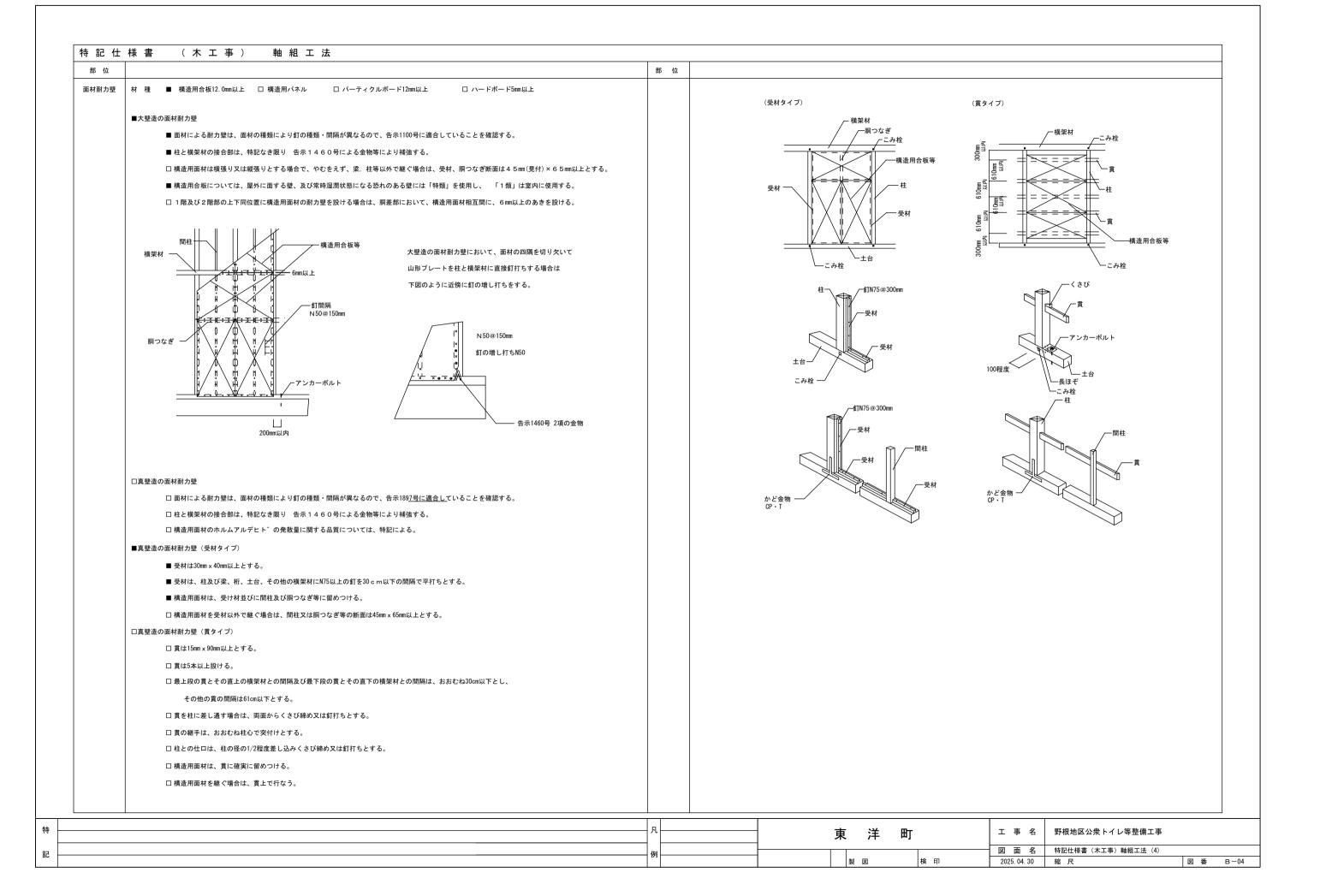
特記仕様書 (木工事) 軸組工法 本工事における構造の骨組(架構体),下地骨組,造作,仕上げの木工事に適用する。 部 位 特記事項は ■ 印の付いたものを適用する。 土 台 材 種 ■ ひのき ⊓ ⟨り □ べいひば □ こうやまき □ ひば 木材の品質 ■ 素材及び製材の品質は、日本農林規格(JAS)の規定がある場合は、すべてこの規格に適合したものとする。 □ 保存処理製材 ■ 土台用加圧式防腐処理木材 口その他(米トガ) ■ 構造材に用いる製材の品質は、構造用製材のJASに適合したものまたは製材のJASで定める1等以上とする。 エ 法 ■ 断面寸法は柱と同じ寸法以上とし120mm×120mmを標準とする。 □ 見掛かりの造作用柱, 板用製材の品質は、製材のJASで定める上小節以上のものとし, 心持材の場合は背割りを行ったものとする。 ただし、多雪区域内(「建築基準法施行令第86条第2項ただし書の規定より特定行政庁が指定する区域」以下同じ)においては □ 目視等級区分の針葉樹構造用製材規格については以下の通りJASによる。 □ 甲種構造材 (構造用 I) (短辺が9cm未満の横物) □ 一級 □ 二級 □ 三級 105mm×105mm以上とする。 □ 甲種構造材(構造用Ⅱ)(短辺が9cm以上の構物) □ 一級 ■ 二級 □ 三級 ■ 継手は、柱及び床下換気孔の位置は避ける。 □ 7.種構造材(柱材など) 口一級 口二級 口三級 □ 機械等級区分の針葉樹構造用製材規格については以下の通りJASによる。 什 口 口 その他(□ 杉 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 □ べいまつ 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 襟輪小根柄差し 大入れ蟻掛け 大入れ柄差し □ 桧 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 □ べいつが 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 ■ 仕口を固める楔、栓は堅木とする。又雇い材は骨組材と同材以上または堅木とする。 □ 構造用に用いる集成材は、構造用集成材のJASに適合若しは化粧ばり集成材のJASに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 □ 構造部材は、集成材を使用様する。 □梁 (E105-F300) □梁 (E120-F330) ■ 無等級製材とする。 木材基準強度は図示とする。 ■ 各種ボード類 継手 ■合板の品質は、構造用合板若しくは普通合板等のJASに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 口構造用パネルの品質は、構造用パネルのJASに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 金輪継ぎ 腰掛鎌継ぎ その他(□ハードボード、硬質木片セメント板、シージングボード、石膏ボード、及びラスシートの品質はそれぞれの日本工業規格(JIS)に適合するもの又は、 认栓 これらと同等以上の性能を有するものとする。 □パーティクルボード、MDF(ミディアム・デンシティ・ファイバーボード)の品質はそれぞれの日本工業規格(JIS)に適合するもの又は、 これらと同等以上の性能を有するものとする。 ■ 土台固定用アンカーボルト a). アンカーボルトの埋設位置; アンカーボルトの埋設位置は以下による。 ■ 木材の工事現場搬入時の含水率は下記による。 耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部: 耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の両端の柱の下部に近接した位置(柱芯より200mm以内)とする。 ■ 針葉樹材についてはJAS区分に準じ、以下の通りとする。 □ 乾燥材 D25 □ 乾燥材 D20 □ 乾燥材 D15 □ 乾燥材 SD25□ 乾燥材 SD20■ 乾燥材 SD15 [200以内 ※ 特記なき場合は乾燥材 D 2 5 (含水率 2 5 %以下) とする。 ■ 無等級製材は以下の通りとする。 什口の場合 □ 乾燥材 KD25 □ 乾燥材 KD20 ■ 乾燥材 KD15 □ 天然乾燥材については、乾燥材D25(含水率25%)を目標とし、係員の承諾を得る。 アンカーボル 十台 アンカーボルト 指定寸法 ■ 木材の寸法については、材長の不足は認めない。断面寸法については下記による。 200以内 (見下げ) (見下げ) △ 基礎天端 乾燥材 未乾燥材 材の短辺及び長辺 9 0 mm以上 90mm未満 36㎜以上90㎜未満 36㎜未満 9 Omm以上 アンカーボルト 表示寸法と許容誤差 ±1.5mm ±1.0mm +3.0~0mm +1.0~0mm +2.0~0mm ※ J型及びL型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。 土台切れの端部及び、土台の継手仕口; 材料検査 ■ 構造材については、係員の検査を受けた後施工するものとする。 土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。 ■ その他の材についてはその都度係員の承諾を得るものとする。 当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。 その他:上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。 諸金物 ■ 土台と基礎や軸組相互の端部などの構造耐力上主要な部分である継手・仕口などは接合金物等を使用し効率よく緊結する。 ■ 接合金物は品質及び耐力等の性能が明らかで良質なものを選択する。 (Zマーク表示金物) 及びZマーク表示金物同等認定品以上とする。 ■ 引張金物専用アンカーボルト 防腐、防虫処理 ■ 防腐剤は、JISK2439(クレオソート油、加工タール・タールビッチ)によるクレオソート油とする。 a). 引張金物専用アンカーボルトの径 □ 外部モルタル塗となる下地板等の面は地盤面より高さ1.0 mまでと、台所、浴室等、湿気のある場所の軸組及び下地材が木質の場合も防腐剤塗とする。 引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。 ■ 辺材(白太)が含まれる木材は、どの樹種においても、防腐・防蟻措置を行うこと。 b). 引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ ■ 土台に接する外壁の下端には水切りを設ける。 引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、 J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。 その他の アンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満た埋込み長さとする。 防蟻処理 □ 行わない ■ 行う (□ K2 ■ K3 □ K4) ※ 木材は高知県産材を使用すること。 野根地区公衆トイレ等整備工事 工 事 名 東洋 町 図 面 名 特記仕様書(木工事)軸組工法(1)

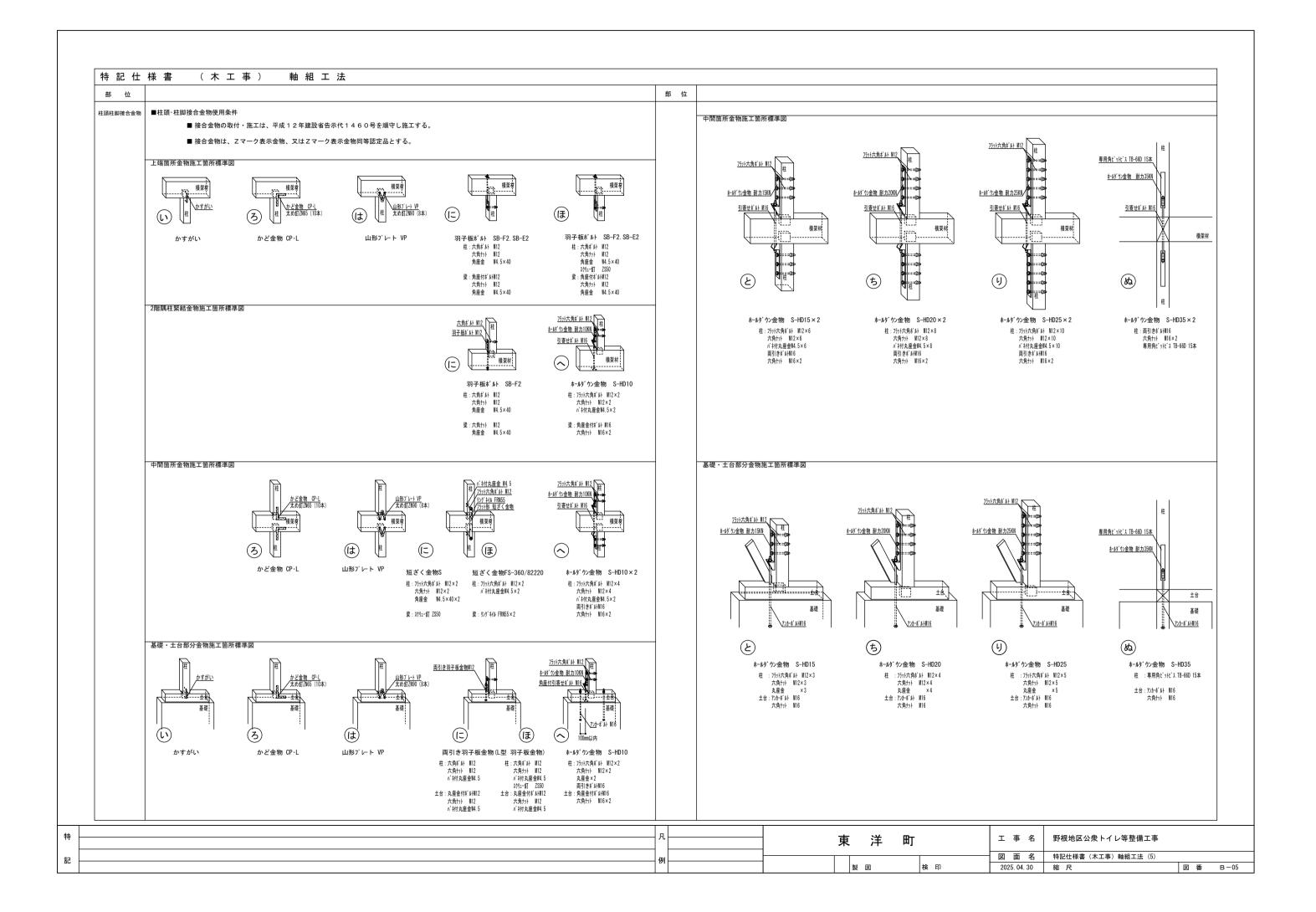
2025.04.30 縮尺

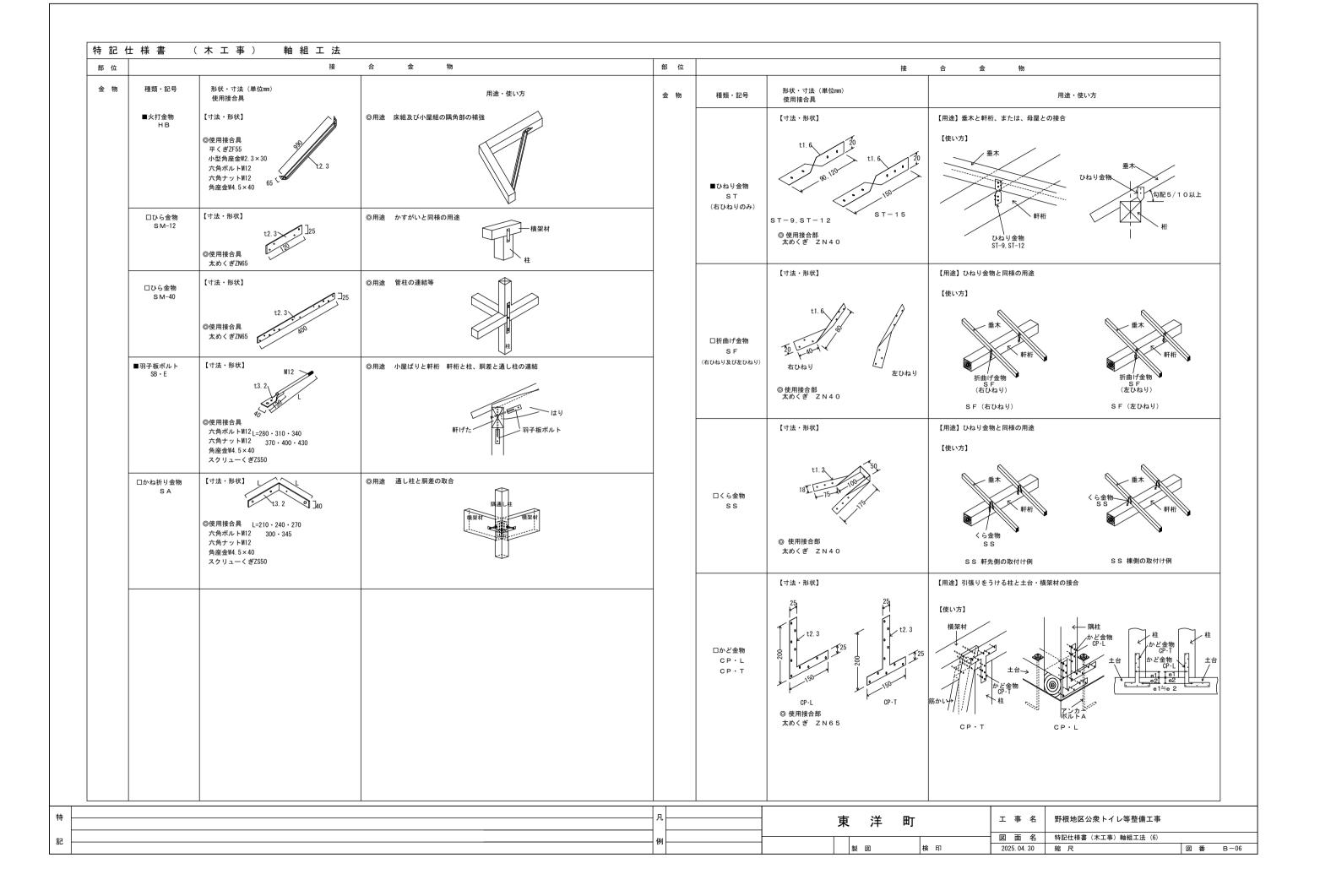
図番 B−01







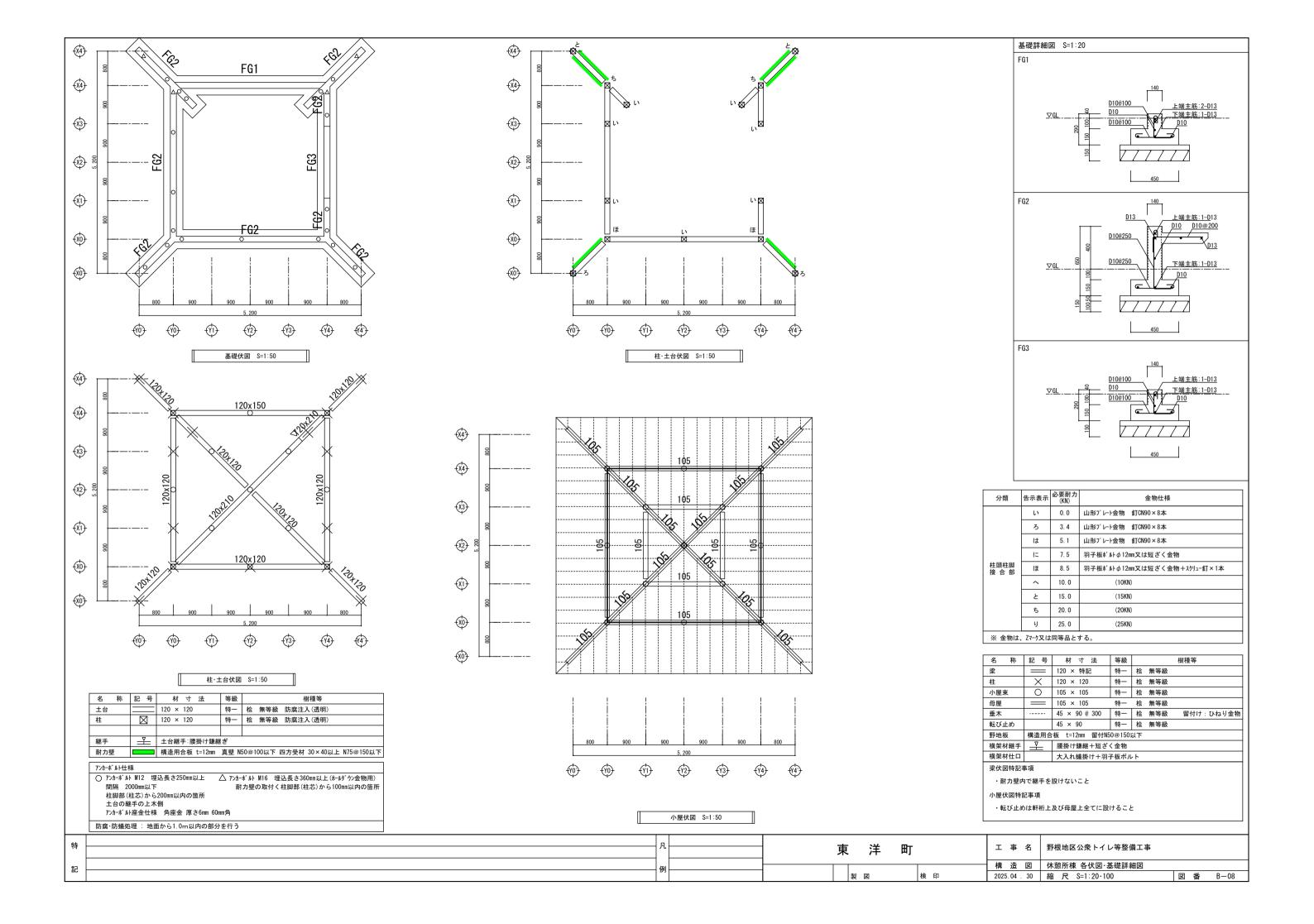




		П	東洋町	工事名 野根	見地区公衆トイレ等整備工事
行筋違い	NSO 1 2 本を平打も				
くも筋違い	□ 瓦棒葺き屋根の場合の垂木間隔は、瓦棒の留め付け幅と同一とする。 材種 □ すぎ □ あかまつ □ くろまつ □ べいまつ □ からまつ □ べいつが □ その他 (ひのき) エ 法 東に添えつけ、N50釘2本打ちとする。断面寸法は貫程度(15mm×90mm)とする。				
垂 木	材 種 □ すぎ □ あかまつ □ くろまつ □ べいまつ □ からまつ □ べいつが ■ その他 (ひのき) エ 法 ■ 継手は乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、釘2本打ちとする。 ■ 軒先部以外の留め付けは、受け材当たりN75釘で両面を斜め打ちとする。 ただし、垂木のせいが45mm程度の場合は、N100釘を脳天打ちとすることができる。 ■ 軒先部の留め付けは、桁に ■ひねり金物(ST) □ 折曲げ金物(SF) □ くら金物(SS)を当て釘打ちとする。		(注)羽子板ポルトについては、施工性を 考えて、軒げたとはり、軒げたと柱 を一定間隔ごとに交互に緊結する。		
末・母屋	材 種 □ すぎ □ あかまつ □ くろまつ □ べいまつ □ からまつ □ べいつが ■ その他 (ひのき) エ 法 垂木当たりの欠き込みを考慮して適切な断面寸法とし、継手は束の位置を避け、持ち出し腰掛け鎌継ぎとする。		軒げた 羽子板ポルト 軒げ	オンカー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ	数 <i>げた</i>
小屋東	材 種 □ すぎ □ あかまつ □ くろまつ □ べいまつ □ からまつ □ べいつが ■ その他 (ひのき) エ 法 上部・下部の仕口は、短ほぞ差しとし、かすがい両面打ちとする。		(大入れ蟻掛け)		軒げた はり
	 □ 六角ボルト(M12)2本締めとする。受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。 □ 末口150mm以下の丸太の継手は、受け材上でやりちがいとし、六角ボルト(M12)2本締めとする。 □ 受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。 □ 軒桁又は敷桁との仕口は、かぶと蟻掛け又は渡りあごとし、羽子板ボルト締めとする。 		小屋ばり	小屋ばり	it by
	エ 法 ■ 継手、仕口は伏図特記による □ 末口150mm以上の丸太の継手は、受材上で台持継ぎとし、下木に太柄2本を植え込み、		小屋ばりの継手 (台持継ぎ)	小屋ばりと軒げたとのf (かぶとあり)	±ロ (渡たりあご)
小屋梁	材 種 梁(丸太) □ ぺいまつ □ くろまつ □ あかまつ □ からまつ □ 構造用集成材 () □ その他 ()	小屋組	継手及び仕口の参考例		
			₩ T T T () □ の ☆ 本 (D)		

図 面 名 特記仕様書 (木工事) 軸組工法 (7) 2025.04.30 縮 尺

図 番 B-07



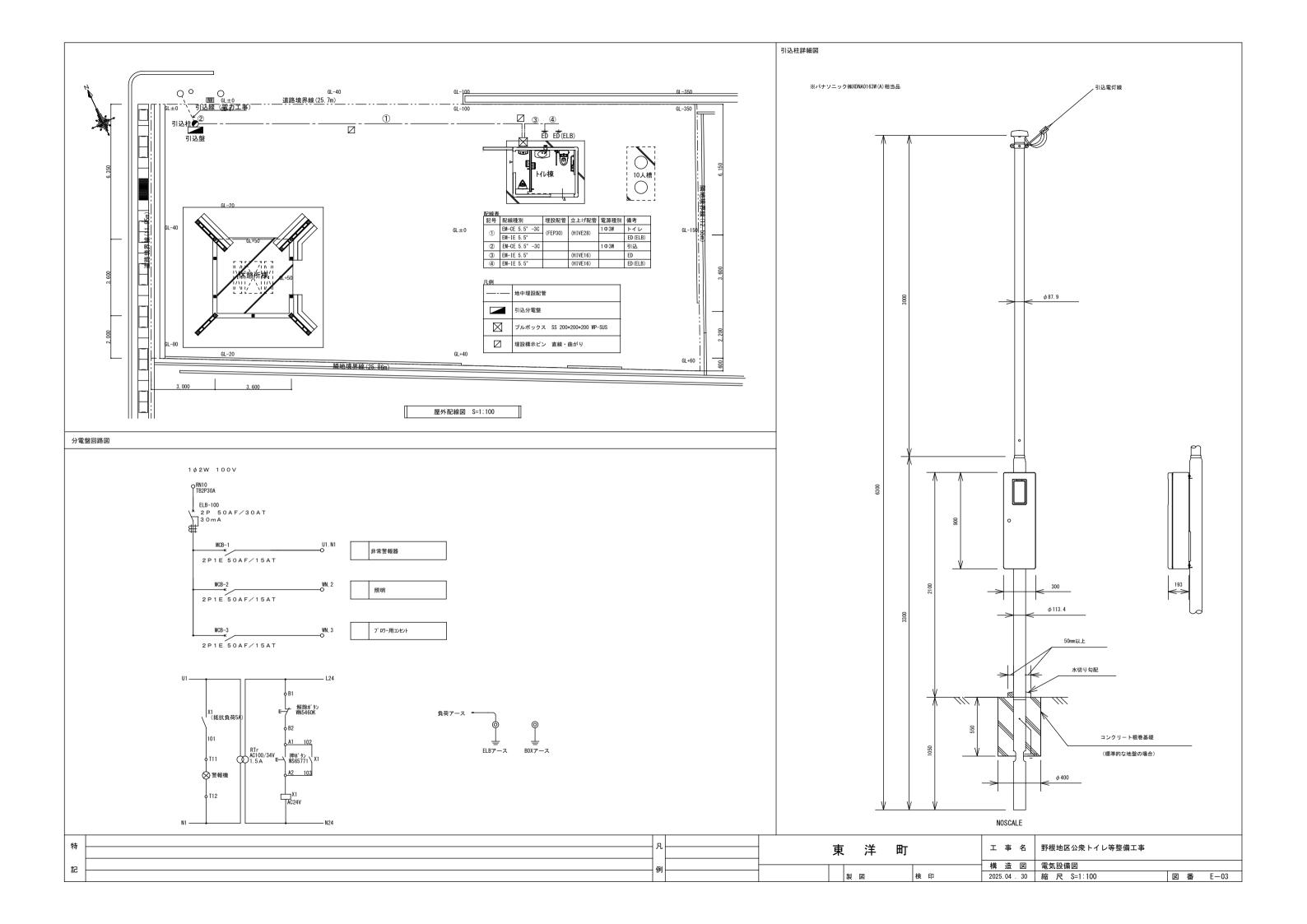
\$\frac{1}{2} \frac{1}{2} \fr			特記仕様	畫	8 電線類	EMケーブルで規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたもとする。		1	いて、細骨材に海 Dを優先的に使用	砂を配合した生コンクリートを するものとする。	E 使用する場合、高知 ■ で	知県内産海砂
A S	2 2 3 3 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5	I 工事概要	14 HP 14 14			耐火ケーブル(FP)及び耐熱ケーブル(HP)はシースに耐燃性ポリエチレンを用いたものとす	9。 31 ハンドホール	ハンドホール	レは現場打ち、ブ	ロックのどちらでもよい。		
Company Comp	Part		羊町		~			写真の繰り	方け 「国+交通	省大田官臣官庁党縒郵監修 党	* 縒丁車写直撮影亜氫	須(平成28年
## 1	## 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1				l Š	_	(32) 工事・元成写具					
Park	### STATE OF COLUMN ASSESSMENT OF STATE OF COLUMN ASSESSMENT OF COLUMN A	2. 建物概要			1 9						1,200 1,123 1-01 0	
The control of the	A	神 柳 夕 折	+## `#= DEE *##	消防法施行令				区分	提出形式	t ·	備 考	
中央	The Part	建物名	博 垣 階 数	近へ面積 別表第一							、写真内容説明を記	己入。
Table	The color The	休憩所棟	木 1 階建	m²				工事写真	画像データ (JPEG用	/ (式)		
T T T T	THE PART	ŀイレ棟	RC 1 階建	m²		B 種 FB 150/Is Ω FB (14φ) x 3連−2組						
A STATE	Color Colo		階建	m²		Is=T線地絡電流						己人。
*** **	*** **		(注	:)延べ面積は建築基準法による表記		12 12					程度。	
No. Column Colu	************************************	3. 工事種目							《工記画力を提出	元队快旦时に従山。		
単名性		745 Mar Dil 75, 75° E Mi										
数	日本 1		休憩所棟 トイレ棟	屋外	① 理 設 表 示		(33) 工 事 完 成 図	共通仕様書	に従った完成図及	び保守に関する指導案内書を	監督職員に提出する	0
数	大田					上記以外の接地極及び地中配線の表示 1000 x 300のコンクリート杭に方向種別を彫り込	i.	A 4	版 黒表紙金文字	製本 1部	※要・不要	Ē
日本日本日 1	東京 日 日					だものとする。ただし、舗装された場所は鉄製ピンとする。		1				
■ 日本	大田							CA	Dデータ CD-	R	※要・不要	Ę
数	本 元 日 日本				~							
本 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	## 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			 	l		③4) 機 器 取 付 高	壁付、壁掛牙	どの機器等の取付	高さは、図面の記載のない場合	合は原則として下表に	による。
株式 日	株式 日本 日本 1			+	I —		5.	ただし、監督	1			
「	フレビル 単元 1			+ +			る。					
大学 1 日本	日本の日本日本			+			易所 ブラケット(一般)					1
本の表現 1 日	東京 1			+ +		を鉄筋探査器により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行い、施工前に工事監理業務	差注 		-			_
数	本 日 日 1			+ +			があ					
************************************	本土 1			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +			# 終 ┣━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━					
図	□ 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			+					-		-	
### 1	### 1	誘導 灯設 備		 	I _							
所 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	### 1 日	トイル呼 出 表 示 設 備			とり配 線 器 具		コンセント、電話用アウトレット、直列ユニット(一般)	"	300	廊下表示灯 (") "	2, 000
□ 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	火災報知設備					// (和室)	"	150	テレビ機器収容箱	"	1, 800
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	株	外 灯 設 備			】 22 LED照明器具							
	・	構内線路					コンセント(ガス漏れ検知器(LPガス))	床上~中心				
	## 20 1	工事 仕様			23 照明器具の接地	ケーブルの一心を接地線として使用する場合は、緑色の心線とする。	分電盤、制御盤、親時計	"				
・	### (上洋事に記載されていたい東頂は 同じ	. 大体少于医疗百克点觉经如既收办从非冲领下	24 照明器具用位置ボックス	ケーブル配線の位置ボックスは原則としてアウトレットボックスとする。	闡閉器箱 中間端子盤(FPS 雷気室)				+	+
日報報 (現場的主 株職・金田) 上球 電影 (東京 日本	(情報) (情報) (情報) (情報) (情報) (日本年間) (日							"	1, 500			+
	3								備考	(天井高) x0.9は天井高が、2	!,500~3,000mmの場:	合に適用する
1	特別性を含うよりがない。	2. 特 記 仕 様					<u> </u>					
## 1 音楽を表示というが大きの音を含まったというでは、またとし、このでは、自然を表示しています。 ## 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	### 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日						■ (35) 室 内 空 気 汚 染 (揮発性有機化合物)対策					
● 日	□ 日			を週用する。たたし、〇印のない場合は※	27 7 0 C 共同支信故调	7.7.						
□ 日	母 日		·0 ·		┃ - 28 構 内 埋 設 線 路			使 用 制	限			
日	日	項目	特記	事 項								
工業用度力、末上の 型	□ 日本 日本 から	① 機 材	設備機材等指定表による。			地中配線には電圧、線路長に関係なく標識シート(ダブル)を管頂と地表面の中間に設け	, 					
② 日	□ 日本	2 工事用電力,水,その他	本工事に必要な工事用仮設電力、水などの	費用は請負者の負担とする。				F☆☆☆☆	スは同等の大臣認	定品とする。		
2 本 用 反 包 物	② まる 用 6 五 数 数			負担とする。	② 耐 震 施 エ	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行	v:+ 1					
正 8 月 後 後 地 注 8 月 後 初 注 8 日 年	② 東 田 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			T-14 A /			保温材, 仕上げ塗材					
差 高 単	議 表 当	a	_				I					
注 文字 1. 次に多。 1. 次に対しませることのありました。 1. 次に多。 1. 次に多。 1. 次に多。 1. 次に多。 1. 次に多。 1. 次においませることのありました。 1. 次に多。 1. 次に多。 1. 次に多数を含める。 1. 次においませることのありました。 1. 次に多数を含めることのありました。 1. 次に多数を含めることのものものものものものものものものものものものものものものものものものものも	(保持キュービルル指導・対立指導・ハンドホール第の向村機会) アスファルト指導を上で再送を使用する。 正記に対し続きするコンリート後・アスファルト指導を開発して再変数を含る。 深が表現という。 第2 日本 第2		•					ホルムアル	デヒド, アセトアル	·デヒド, スチレン, トルエン, =	Fシレン, エテルベン	ゲンを含有
	7. アスファルトは南京として有き点を使用する。 工事に作り換するコンワートは、アスファルトは同様として有言素をを図る事。 工事に作り換するコンワートは、アスファルトは同様を対して、大力を開始して、有言素をを図る事。 工事に作り換するコンワートは、アスファルトは同様を対して、関係を図る事。 工事に作り換するコンワートは、アスファルトは同様を対して、関係を図る事。 工事に作り換するコンワートは、アスファルトは同様を対して、関係を図る事として、対したのできました。 「最初を図る」と、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、	・ 建 取 副 産 物					KIZ	していないフ	k性系のものとす	る。		
工事に何い発生するコンクリート境・アスファルト境は原剤として再発素化を図る事。 ※ 横外 撤出 ※ 横り 瀬田	工事に伴い発生するコングリート境・アスファルト集は控制として再発素化を図る等。											
接 段 乗 生 立 の 処 月 形在地 () 運搬距離 () 1 8	接換 発生 土 の 利 理 搬送の名称 (III =	クロルピリオ	トリス, ダイアジノ	ン,フェノブカルブを含有した	よい、非有機リン系の	の薬剤とし
報告が担信) 連動語 (接出版の場合について	5 建設発生土の処理	※構外搬出			機 器 2.0 1.5 1.5 1.0						
	水産性 1 2 1 5 1			•								
その他、製造大は記を予定している。搬出先が変更となる場合は、設計変更の対象とする。 機用指定場所に接触し、 素知展土木砂建築課 特記仕様書(共通編)「産業廃棄物の処理について」によること。 はり質温部のスリーフ及び経強 スリーフ ※ネエ事 州漁工事 様 強 ※別途工事 * 木工事 自動開開装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアーチェック、フロアーヒンジ ※別途工事 * 木工事 日動開開装置を取付ける防火戸の切込み及び補強 ※水本工事 ・別途工事 工力型型型型型の放付部所の下地の切込み及び補強 ※水本工事 ・別途工事 服開業員、幹部等の元ポルト用インサート ※本工事 ・別途工事 服用の電気気・菌子業を変の皮を必要機と搭機 ※本工事 ・別途工事 服用の電気気・自家業を置める必要使用する。 ※本工事 ・別途工事 服用の電気気・自家業を置める必要使用する場合(素砂速工事 服用の電気気・自家業を置める必要使用する場合(素砂速工事 服用の電気気・自家業を変めを必要に ※本工事 ・別途工事 服用の電気気・自家業を変めを必要に ※本工事 ・別途工事 服用の電気で、自家業を変めを必要に ※本工事 ・別途工事 を作るの主要と解析後 ※本工事 ・別途工事 服用の電気で、自家業を変めを必要に ※本工事 ・別途工事 服用の電気で、自家業を変かしたの必要で、大型を経過を必要に ※本工事 ・別途工事 を作るの主意となる機に が治域・※本工事 ・別途工事 服用の電気で、自家業を変かしたの必要に が治域・ビルトにたを含む)、※別途工事 服用の電気で、自家業を変かしたの必要に が治域・ビルトにたを含む ※別途工事 を作るの主事 ・ 別途工事 を作るの主意 ・ 別途工事 を作る保存を解析を必要に ※本工事 ・ 別途工事 を対して、中央機能が開発をである。 ・ の表のでする。	その他 樹地氏に起を予変している。製出を介養更ななる場合は、設計変更の対象とする。 ・構用表現を無所に基盤と ・ 集内製物の規則について)によること。 仕工事との表 り合い					本産みび産工 水槽類(※1) 2.0 1.5 1.5 1.0	4 内装用接着剂, 木工事用接着剤	1)ホルムアル	レデヒド, アセトア	゚ ルデヒド,スチレン,トルエン	, キシレン, エチルベ	(ンゼンを含す
産業条業物の処理について)他 工事 と の 取 り 合い 他 工事 と の 取 り 合い 「	### (l .				
他工事との取り合い	# 本	6 産業廃棄物の加理について					-	2)フタル酸:	ジ−n−ブチル, フタ	ル酸ジ-2-ヘエチルヘキシルを	含有しない難揮発性	の可塑剤を値
# 強 ※別途工事 ・本工事	様 強 ※別途工事 ・ 本工事	_					 	用している	るものとする。			
自動開開装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアーチェック、フロアーヒンジ ※別途工事 ・ 本工事 天井埋込型器具の取付箇所の下地の切込み及び補強 ※別途工事(患出しは本工事) ・ 本工事 軽量鉄骨壁のボックス取付用の下地の切込み及び補強 ※水工事 ・ 別途工事 埋込型分電壁、端子整等の仮枠及び補強 ((1) 2(3) 4(3) 2(3) 2(3) 4(3) 2(3) 2(3) 4(3) 2(3) 2(3) 2(3) 2(3) 2(3) 2(3) 2(3) 2	自動関門接蓋を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアーチェック、フロアーヒンジ ※別途工事 ・ 木工事 至益教育の取付目所の下地の切込み及び精強	O 11 - 7 C V 4 7 D V	··· / ALMPON / / AUTHOR									:
************************************	************************************		自動闡閉装置を取付ける時心言の切り立				──┃ ③ 豕共、香米、夫駅市、11番				し、該当する材料がた	ない場合は
大井埋込型器具の取付箇所の下地の切込み及び補強 ※別途工事	天井理込型器具の取付箇所の下地の切込み及び補強 ※別途工事 ・ 本工事 (服务員 (※1) 水槽類は、オイルタンウ等を含む。 室内に関わる材料 (上記①~④及び建具、シール材、その他でその接着剤や塗料の溶剤まで含む)については、 注:上層節の定義は次による。 室内に関わる材料 (上記①~④及び建具、シール材、その他でその接着剤や塗料の溶剤まで含む)については、 注:上層節の定義は次による。 室内に関わる材料 (上記①~④及び建具、シール材、その他でその接着剤や塗料の溶剤まで含む)については、 ボルムアルデヒド、アセトアルデビ・ス・デレーの変が解析であるとする。 1 3 開発としの表が重点を表表したる。 2 今 機能の場合は上層 2階、10~12階度の場合は上層 2階、10~12階度の場合は上層 3階 由表で展示では、アルトディア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・						――― 沈囬112 社台、流し台	r w w x X I	* 问寺品を使用す	<i>ଷ</i> ଃ /		
接量鉄骨壁のボックス取付用の下地の切込み及び補強	接量鉄骨型のボックス取付用の下地の別込み及び補強 ※本工事 別途工事		天井埋込型器具の取付箇所の下地の切込み			【備考】(※1)水槽類は、オイルタンク等を含む。	室内に関わる材料(上記①	~ ④ 及 7 6 建 旦 :	ノール材.その他で	その接着剤や塗料の溶剤まで	含む) については	
埋込型分電盤、端子盤等の仮枠及び補強 仮 枠 ※本工事 ・別途工事	# 2 - 6 階離の場合は走屋・飛、7 - 9 階離の場合は走屋・飛、10 ~ 1 2 階離の場合は上屋 3 幣				1	注:上層階の定義は次による。						
照明器具、幹線等の吊ボルト用インサート ※本工事 ・別途工事	照明器具、幹線等の吊ボルト用インサート ※本工事 ・別途工事		理込型分電盤、端子盤等の仮枠及び補強]							
屋内の電気室、自家発電室などの基礎、防油堤、ビット(ふたを含む) ※別途工事 ・ 本工事	屋内の電気室、自家発電室などの基礎、防油堤、ビット(ふたを含む) ※別途工事 ・ 本工事		昭田哭目 乾線笙の兄式』に用ノンサー				一覧表に記入し、その資料を	添付して提出す	るものとする。			
屋外の受変電設備基礎 ※本工事・別途工事 (・中央監視制御装置・・) 動力機器(電動機など)への接続 ※本工事・別途工事 2)設計用鉛直地震力 電話保安器用接地 ※本工事・別途工事 設計用水平地震力の2分の1とし、水平地震力と同時に働くものとする。	屋外の受変電設備基礎 ※本工事 ・ 別途工事									ı		8
動力機器 (電動機など) への接続 ※本工事 ・ 別途工事 2)設計用鉛直地震力 2)設計用鉛直地震力 2)設計用公正地震力の2分の1とし、水平地震力と同時に働くものとする。	動力機器(電動機など)への接続 ※本工事 ・別途工事 電話保安器用接地 ※本工事 ・別途工事 図中に記載されていない工事区分は、別紙工事区分表による。											R05070
電話保安器用接地 ※本工事・別途工事 設計用水平地震力の2分の1とし、水平地震力と同時に働くものとする。	電話保安器用接地 ※本工事 ・ 別途工事 設計用水平地震力の2分の1とし、水平地震力と同時に働くものとする。 図中に記載されていない工事区分は、別紙工事区分表による。											
	図中に記載されていない工事区分は、別紙工事区分表による。											
	カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・											
	大 古 ***											

電気設備図 特記仕様書 2025.04.30 縮 尺

図 番 E-01

機材名	指 定 品	機	材	名	指	定品	機	材	名	メーカー名	機	材	名	メーカー名	機	材	名	メーカー名
意線管類・同付属品	JISマーク表示品						LED照明器	具		アイリスオーヤマ (株) 岩 崎 電 気 (株) (株) 遠藤照明 コイズミ照明株式会社 東芝ライテック (株)		量鉛蓄電池 : 置鉛蓄電池 . hr* ミウムアルカリ著	雷池	エナジーウィズ株式会社 (株) GSユアサ 古河電池(株)				
線類等	国土交通省大臣官房官庁 営繕部監修の公共工事標準 仕様書(電気設備工事編) JISマーク表示品									パナソニック (株) 三菱電機照明 (株) (株) YAMAGIWA 山田照明 (株)	監視カメラ装			(株JVCケンウット・・公共産業システム				
火・耐熱ケーブル	耐火・耐熱電線認定機関 の認定または評価された 旨の表示をしたもの						照明制御裝	支置		東芝ライテック(株) パナソニック(株) 三菱電機照明(株)				TOA(株) パナソニックコネクト(株)				
線器具類	JISマーク表示品						可変速電動	が機用インバ	ーター装置	(株)日立産機システム 富士電機(株) 三 菱 電 機 (株)								
線用遮断機 JIS C 8201-2-1 に適合するもの 電遮断機	JISマーク表示品									(株) 安川電機	盤類(公共建築 分電盤·制能 キューt*りル式能	卸盤	₹)	(株) イトウテック 共 栄 電 機 工 業 (株) 光 電 設 (株)				
IIS C 8201-2-2 に適合するもの 磁接触器							高圧交流遊	医断機 (真空)	東芝インフラシステムズ(株) 日 新 電 機 (株) (株)日立産機システム 富士電機(株)				上記の他、令和5年版「建 築材料・設備機材等品質性 能評価事業 設備機材等評 価名簿」に掲載されたもの				
JIS C 8201-1, JIS C 8201-4-1 に 適合するもの	JISマーク表示品									富士電機機器制御(株) 三菱電機(株) (株)明電舎	太陽光発電装	置		山洋電気(株)				
医圧進相コンデンサ JIS C 4901 に適合するもの	JISマーク表示品						高圧限流ヒ	ニューズ		(株) 宇都宮電機製作所 エナジーサポート(株) 東芝インフラシステムズ(株) (株) 日立産機システム		_		(株) GSユアサ 東芝インフラシステムズ(株) パナソニック (株)				
指示電気計器 JISC1102 (指示電気計器)	JISマーク表示品						高圧負荷開	開架		富士電機機器制御(株) 三菱電機(株)								
常用照明器具	(社)日本照明器具工業会のJIL適合マークが貼付されたもの						向止免训扰	19 (A) that		大垣電機(株) (株) 新愛知電機製作所 (株) 戸上電機製作所 日本高圧電気(株) (株) 日立産機システム	交流無停電電	流井亭 (UDC)		エナジーウィズ株式会社				
導灯器具	誘導灯認定委員会の認定 証票が貼付されたもの									富士電機機器制御(株)	义 加 無 庁 电 电 4	ikray〉 □ (Uro)		山洋電気 (株) (株) GSユアサ (株) GSユアサ(ソフラシステムス* 東芝(ソフランステムス* (株) 富士電機 (株)				
家発電装置 付属する配電盤をふくむ	日本内燃力発電設備協会の認定証票が貼付されたもの						高圧進相二	コンデンサ		(株)指月電機製作所 東芝インフラシステムズ(株)	-			田工电域(株) 古河電池(株) 三菱電機(株) (株)明電舎				
防災電源用直流電源装置	蓄電池設備認定委員会の 認定証票が貼付されたもの						※ 1	モールドコ	ンデンサに限る	ニ チ コ ン (株) 日 新 電 機 (株) 三 菱 電 機 (株) 利 昌 工 業 (株) ※1								
動閉鎖装置	連動機構・装置等自主評定 委員会の自主評定マークが 貼付されたもの						高圧用変圧	- 器 - 器		愛知電機 (株) 四 変 テ ッ ク (株) (株) ダ イ ヘ ン	_							
常放送装置の蓄電池	JEA蓄電池設備認定委員 会の認定証票が貼付された もの									タカオカ化成工業 (株)※ 2 (株)東光高岳 東芝インフラシステムズ(株) 日新電機 (株)								
常警報装置(非常ベル)	日本消防検定協会の認定証票が貼付されたもの						*	2 モール	ド変圧器に限る	(株)日立産機システム 富士電機(株)三菱電機(株)(株)明電舎利昌工業(株) ※2								
動火災報知装置	日本消防検定協会の検定合格証票が貼付されたもの														Ē	電気割	と備 機木	才指定表,
内交換装置	(財)電気通信端末機器 審査協会の認定品																	

特	Л.	畫	洋	R T	工事名	野根地区公衆トイレ等整備工事	
		~	/+	щј			
- 12	(ā)				電気設備図	電気設備機材指定表	
"			製図	検 印	2025. 04. 30	縮尺	図 番 E-02



什 様 書 記 (1) 工事名称 野根地区公衆トイレ等整備工事 棟 名 構 造 階 数 延床面積 (m²) 用途地域 消防法施行令別表第一の区分) 配管用炭素錮錮管 【SGP黒管】(JIS G 3452) ポリブデン管 (JIS K 6778) 設計年度(設計図) 令和6年度 ② 配管用炭素鋼鋼管 【SGP白管】(JIS G 3452) ② 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 【D-VA】(WSP 042) 休憩所梅 木造 ③ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 【SGP-VA】(JWWA K 116・WSP 011) ③ 排水用ノンタールエポキシ塗装鋼管 (WSP 032) 工事期間(完成図)令和 年 月 日~令和 年 月 日 配 本道用内外面硬質塩化ビニルライニング鋼管 【SGP-VD】(JWWA K 116) 4) 排水用鋳鉄管 【メカニカル形2種管】(JIS G 5525) 工事場所 高知県安芸郡東洋町 ⑤ 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 【SGP-PA】(JWWA K 132・WSP 039) 25) 鉛管(HASS 203) トル棒 RC浩 ⑥ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 【SGP-VS】 (WSP 041) 26 硬質ポリ塩化ビニル管 【VP】(JIS K 6741))水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 【SGP-HVA】(JWWA K 140) 共通事項 ⑧ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 【SUS 304 TPD】(JIS G 3448)・・・60A以下は拡管式 28) 排水・通気田耐小「犀管 【内管VP】 ②9 卵形管 【ゴムリング】(JAWAS K-3) (※及び●印をつけたものを適用する))配管用ステンレス鋼鋼管 【SUS 304】(JIS G 3459) (IIS A 5372) ヒューム管 谪 用 仕 ※ 特記なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 令和4年版)」(改修工事の場合は、「公共建築改修工事標準仕様書 10 水道用ダクタイル鋳鉄管 【3種管】(JWWA G 113) (機械設備工事編 令和4年版)」)及び「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 令和4年版)」による。 -31) 硬質塩化ビニル被覆鋼管【ガス】(JIS G 3452原管) 白) 銅管 【M】(JIS H 3300) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 「工事写真撮影ガイドブック 機械設備工事編」 (12) 外面被覆銅管 【M】(JIS H 3330) 給湯 ② ガス用ポリエチレン管 (JISK 6774) ス リ ー ブ ※ 国土交通省仕様 33) ガス用ステンレス製フレキシブル管 【原管(JIS G 4305)によりガス用に製造されたもの】 (13) 耐熱性硬質塩化ビニル管 【HTVP】(JIS K 6776) ☑ ■ L IN 例 : 外壁の地中部等 水密を要す部分はツバ付銅管スリーブ等。地中部分で水密を要しない部分はVUスリーブ。柱、梁以外の箇所で、開口補強が不要でスリーブ径200mm以下は紙スリーブでもよい。) -(4) 断熱材被覆銅管 【ポリエチレン保温材】(JCDA 0009) 冷媒 4)水道用硬質塩化ビニル管 【VWP】(JIS K 6742) ○ 国土交通省仕様 ● メーカー仕様 (15) 耐衝撃性硬質塩化ビニル管 【HIVP】(JIS K 6742) ③ 屋外消火栓設備用高性能ポリエチレン管(日本消防設備安全センターの性能認定取得品) 区画貫通処理 。 6)空調用保温材付ドレン管【ポリエチレン保温材 NDD・MDP同等】(内管JIS規格品) (16) 水道田ゴム輪形種質ポリ塩化ビニル管 【RR-VP】(JWWAK 197) ※「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説・平成8年度版」(建設大臣官房官庁営繕部監修) 耐震措置 特定の施設 一般の施設 設置場所 機器種別 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 によることとし、施工は「建築設備耐震設計・施工指針」(国土交通省国土技術政策総合研究所 水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 【RR-HIVP】(JWWA K 129) 刃 カラーパイプ 上層階 機 器 2.0 1.5 1.5 1.0 屋上及 防振機器 2.0 2.0 2.0 1.5 ・独立行政法人建築研究所監修 2014年版)による。 (18) 水道用ポリエチレン二層管 (JISK 6762) 建物の種別: ● 特定の施設 ○一般の施設 (19) 水道配水用ポリエチレン管 (JWWAK 144))設計用水平地震力は、機器の質量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量) び塔屋 水槽類 2. 0 1. 5 1. 5 1. 0
 ② 架橋ポリエチレン管 (5mm保温付)(水.湯)(先分岐工法.エスロカチット等)

 工種場所屋内一般屋内ピット屋内コンクリ
 に、地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。 重要機器 屋外埋設 屋外架空 屋内土中 # 中層階 防振機器 特記なき場合の設計用標準水平震度は次による。 防災機器 給水(直圧) 2)設計用鉛直地震力は設計水平地震力の1/2とする。 1. 5 1. 0 1. 0 0. 6 火を使用する機器 給水(一般) タンク類 地階・1階 防振機器 | 防振機器 | 1. 0 | 1. 0 | 1. 0 | 0. 6 | 水 槽 類 | 1. 5 | 1. 0 | 1. 0 | 0. 6 | 消火設備機器 使 雑 排 水 通 ※ 基礎のアンカーボルト・吊り基礎ボルト・吊り金物及び防振を施す機器額の取付けボルトは、ロックナット又は2重ナットにて固定する。 機器の固定 気 注)ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。 ス 機器の固定に使用する金属系アンカーはスリーブ打込み式または、ウエッジ式とする。(県標準図16) ※ ケミカルアンカーは、天井方向に使用しない。阪振架台を設置する場合、耐震ストッパーの調整を製造者の指定どおりに行うこと。 ☆ 消 火 湯 仕 ※ 一般土間コンクリート下部配管は耐蝕性のある吊りボルト(亜鉛ドブ漬又はステンレス製)にてスラブ筋に支持する。 配管の支持 器 具 接 続 ※屋外及びピット内配管の支持金物・吊り金物は亜鉛ドブ漬又はSUS製とする。屋内外露出部には既製品支持架台は使用しない。 冷 温 水 ※ 住材のとおりに吊り配管等を施工しても、他の資材配管等と下渉する場合は振れ止めを適宜設ける。
はじ接合材使用区分表 流体種別 給水 給湯 冷温水 管 材 等 種 別 ステンレス管 ライニンヴ管 水栓金具 弁類 ステンレス管 ライニンヴ管 弁類 ステンレス管 寿イニンヴ管 鋼管 弁類 冷 却 水 ねじ接合材 空調ドレン テープシール材 (0) (0) (0) ペーストシール剤 (テープシール材) ※(イ) テープシール材は、JIS K 6885(シール用四ふっ化エチレン樹脂未焼成テープ(生テープ))によるものとする。 ※ 亜鉛メッキ面の塗装下地は化学処理(エッチングプライマ)を施す 注)水栓類は、防食シール材を用いない。テープシール材を使用する。 ※ 鋼管類のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。 ※ (ロ) 一般用ペーストシール剤は、管内の流体に溶出せず、<u>使用目的に適する成分</u>のものとする。 ※ (ハ) 給水用、給湯用及び冷温水用の防食用ペーストシール剤は、JWWA K 161 (水道用ライニング鋼管用液状シール剤) に規定する<u>水道用シール剤</u>とする。 (ペーストシール剤) ※ 土中埋設する鋳鉄管、鋳鉄異形管(メカ型継手共)及び特殊継手類はポリスリーブ巻きとする。 ■ 居室等に露出して使用する配管支持金具類(電気メッキ品)は塗装(さび止めペイント・中塗り・上塗り)を施す。 注)水道用シール剤において JWWA K 161 に適合している主なペーストシール剤は下記による。 ※下記の露出配管、ダクト(ダクト構成部材含む)、電線管、フード類の塗装を行う。 ステンレス鋼管等防食の必要がないネジ部には水道用シール剤(ロ) (例:日本ヘルメチックス株式会社のヘルメシール 403・株式会社ヘルメチックのHERMETIC F-119・山王工業株式会社のヘルメチック No, AO-9など) 屋外: 〇ドレン管(指定色塗装) 〇金属電線管(指定色塗装) ライニング銅管に使用する防食用ペーストシール剤 (ハ) (例:日本ヘルメチックス株式会社のヘルメシール55・88・403・株式会社ヘルメチックのHT-Seal F-109・山王工業株式会社のヘルメチックNo, A0-9など) 屋内: 〇ダクト (指定色塗装) 〇金属電線管(指定色塗装) 〇フード類(指定色塗装) ※ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は呼び径50以下は青銅製、呼び径65以上はステンレス製とする。 サヤ管工法 ※ サヤ管工法で施工する場合、サヤ管施工後に配管挿入を行うこと。 (同時施工を行わない。)

● 一般敷地300mm以上

● 車両通路600mm以上

○ 公道800mm以上

○ 公道1,000mm以上

○ 公道1,200mm以上。 埋設深さ(管上) 工種場所 屋内露出 倉庫露出 天井·PS内 床下暗渠内 屋外露出 屋外埋設 埋設管の保護 ● 埋設管は周囲100mm程度に保護砂を入れる。ただし排水管は別記による。 保 a₂() VII a2 (11) VII C2(□)VI d(□)WI ● 量水器以降の埋設給水管はクイックチューブ等で巻く。 ※ 石綿含有分析調査 〇本工事 ●別途 〇無し 温 a₂() VII 排水・空調ドレン a2() VII C2() VI 石 綿 含 有 品 アスベスト含有品(ガスケット、パッキン、たわみ継手、保温材、天井材等)は関係法令に従い適切に処理を行う。 a₂(□) I C2(口) I d(□) MI e₃(□) I 建設発生土の処理 ※ 榼外搬出 防 冷水・冷温水管 A() III A() III C1() III D() III E₃() III その他 建設発生土の搬出先は上記を予定している。搬出先が変更となる場合は、設計変更の対象とする。 霰 冷 媒 管 (チ)+(ヲ) e3(/\) 矩形ダクト J₁()XI J₁()XI I()XI K₂()XI ○ 構内指定場所に敷き均し ● 構内指定場所に堆積 スパイラルダクト 0.()XI 0.()XI N()XI P2()XI 建設副産物 ※ アスファルト、アスファルト路盤は原則として再生品を使用する。 ※ 浄化槽・桝類の砂利地業は原則として再生クラッシャランを使用する。(アスファルト再生品混じりは不可)
※ 本工事において、細骨材に海砂を配合した生コンクリートを使用する場合、高知県内産海砂を配合したものを優先的に使用するものとする。 エアー・オイル コンクリートT 事 / 骨 材 (二)簡易保温筒10mm (ト)簡易耐熱保温筒20mm ※はつり、穴開け及びあと施エアンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋探査器により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行う。 (イ)ロックウール保温材 (ヌ) ガルバリウム鋼板 はつり・非破壊検査 なお、『コア抜き・はつり工事チェックリスト』を作成し段階確認を行って施工する。 (ロ) グラスウール保温材 (木) 簡易保温筒20mm (チ)冷媒用被覆銅管 (ル)カラーガルバリウム鋼板 下記項目の総合調整を行い、測定表を監督職員に提出する。(測定場所等は監督職員の指示による。) 総 合 調 整 (ハ) ポリスチレンホーム保温材 (へ) 簡易耐熱保温筒10mm リ)SUSラッキング (ヲ) 合成樹脂カバー ○風量調整 ●水量調整 ○室内外空気の温湿度の測定 ○騒音の測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ● フレキシブルジョイントは配管に準じた保温・ラッキングを施す
 ○ 配管施工(配管工事)
 ○ 熟絶縁施工(保温工事)
 ○ 建築板金施工(ダクト製作及び取付)
 ○ 冷凍空気調和機器施工
 ○ その他

 完成
 成図
 ※ CADデータをCD-Rに保存して提出。
 ※ 画像データ(PDF形式)
 ※ A 4 版黒表紙金文字製本 1部 ※ 2 ツ折りA 3 版製本 1部 施工

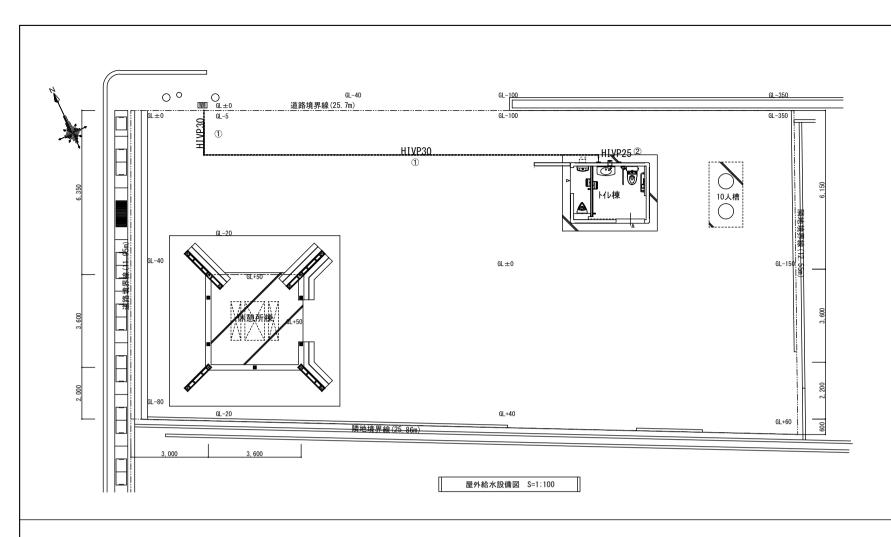
 施工
 図
 ● CADデータをCD-Rに保存して提出。
 ● 画像データ(PDF形式)
 ● 2 ツ折り製本 (サイズは原図による)
 技能士の適用 ※ 器具類 (洗面化粧台・給湯器・温水器等) と接続するステンレスフレキは簡易保温筒にテープ券きを施すこと。 完成後の提出物 ※ 配答表記 工事管理資料(写し) ※ フラットファイル等に閉じたもの。 表 ①機械室・ピット・PS内・天井点検口付近には必ず表記する。 エ 事 写 真 ※ フラットファイル等に閉じたもの。 ②表記内容は、流体・サイズ・系統名とする。 ※ フラットファイル等に閉じたもの。 具 類 ● マンホールフック ○ 制水弁ハンドル ○ 掃除ロハンドル ③場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。 ※ 設計記号の付いている主要機器には、カッティングシート・ペンキ等にて表記(管理番号・室名・設置年月等)を行う。なお、該当する主要機器を事前確認する。 ※ パッケージエアコン等の空調機は、室内外機に表記を行う。(県標準図13) ※ 水中に設置するような各種主要機器類(水中ポンプ等)は銘板を盤付近にも設ける。(製造者名、製造年月、形番、性能等を順記する。) ※ 屋外に設置するバルブ札は固定するか、表示方法を協議する。 ※ バルブROX内部に系統名・管サイズ・設置年目を書いたアクリル札を入れる。 対象建築 材料等 使 用 制 限 ※ 埋設バルブボックスの萎の向きは流体の行き先側に萎の付根を向ける。 合板、木質フローリング、構造用パネル、集成材、 ※ 排水以外の屋外埋設管には曲・分岐部その他埋設管の位置が確認できるように標示鋲(標示柱は県標準図8)を設ける。 単板積層材、MDF、パーティクルボード、ユリア樹脂板 F☆☆☆☆又は同等の大臣認定品とする。 ※ 配管の埋戻し時は、GL-200mm程度に埋設表示用アルミテープ(W)を埋設する。(排水・通気管を除く) 壁紙、緩衝材、断熱材、保温材、仕上げ塗材 ホルムアルデヒド,アセトアルデヒド,スチレン,トルエン,キシレン,エチルベンゼンを含有していない水性形のものとする。 ③ 木材保存剤(防腐処理、防蟻処理等) クロルピリホリス、ダイアジノン、フェノブカルブを含有しない、非有機リン系の薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理は工場で行い 〇 現場において再利用を図るもの(十分乾燥した後に現場搬入する。 ※ 再生資源化を図るもの ・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ※廃石膏ボード等は、原則分別再利用処理とする。 ④ 内装用接着剤,木工事用接着剤,配管用接着剤,接合剤 1) ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを含有してないものとする。 《発生材搬出時の写真記録の方法は特記仕様書(共通編)による。 2) フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-ヘエチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。 染策 ⑤ 家具、書架、実験台、什器、洗面化粧台、流し台 ①、②、③、④の建築材料を使用する場合はF☆☆☆☆を基本とし、該当する材料がない場合はF☆☆☆又は同等品を使用する。 室内に関わる材料(上記②~④及び建具、シール材、その他でその接着剤や塗料の溶剤まで含む)については、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン エチルベンゼン,フタル酸ジ-n-ブチル,フタル酸ジ-2-ヘエチルヘキシル,クロルピリホリス,ダイアジノン,フェノブカルブの有無または成分について一覧表に記入し、その資料を添付して 提出するものとする。 野桐地区公衆トイレ等整備工事 T 事 名 東 洋 町 機械設備図 機械設備 特記仕様書(1) 製 図 **給** 印 図 番 M - 01 2025, 04, 30

□			特	記	仕	様	書		(2	2)				
	●衛生器具設	取 付 位 大 便 化 粧 流 量 調 洗 濯 機	器鏡整	(特に、便器類とき ※ 和風大便器を防火た。 ※ 和風大東行にあたる。 ・ 化粧鏡路・大便器・大便器 ※ 大便器 8~10秒 ※ 洗濯機パンを設置す	F すり・便器類と操コンクリートに接す 国に設置する場合 T 可は落下破損防止コチ動フラッシュ弁 小便器 8~10 T 古床面は、耐荷重	作ボタン類・操作ボ る部分はアスファル 、和風便器用耐シール のため、裏面シール 流量調整は、下記の 強 自閉式水栓 性と平滑性に注意す	タン類と手すり等 ト塗布(3 mm以上 パーを設ける。 材等による張付に 流出時間を目安と 7秒 る。	の位置関係に注集の処、でする。ただし、機器種別、対象のでは、というでは、対象のでは、ない、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	意)標準図1)	置場所の床 壁 - 不 不 不	が湿式(防水) 床 不 - - -	設置場所の 壁 - 要 要 要	示が乾式(非防水) 床 不 - 不 不	
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #								ステンレス iii 化 粧 壁・床の仕	たし台 棚 上様にかかわ	要 不 らず、自動	- カ水栓装置・=	要 要 コンセント・非	不 - 常呼出しなど	
図 表 前 の 名 温	水設	弁	類類	※ 直圧給水弁は水道事 ※ 二次側給水弁(土中 ※ 二次側給水弁(一般 ※ 水栓エルボ、水栓ン ※ ユニットパス付属の ※ ピニル管とライニン ※ TSパルブソケット): 40A以下は青銅製): 40A以下は青銅製): 40A以下は管端閉 リケットは器具側砲: O水栓エルボへの接: レグ銅管の接続には: トは金属製(砲金)	で蝶ハンドル付き山 方食ねじ込み形青銅弁 金内ねじ形とする。 続は砲金継手等を使 水栓エルボ・水栓ソー おすネジを打込して	:水栓、50A以上は ÷5K、50A以上は鋳 用し、管端の防錆 ケットは使用しな いるものを使用す	ソフトシール制 鉄製 F 付き内面 をする。 い。 る。						
● 請 報 報 末 料		隠 蔽 部 の 既設給水鋼管へ 水 槽 類 の 施 二 水 槽 類 の 衛 生	保 温 の接続 工 手管 理	※ 給水管の細部保温は空間の有る壁中配管 ※ 改修工事等で鋼管列 (エポキアのEVCO) ※ 水位設定の協議後に ※ 受水槽・高架水槽を ● 残留塩素濃度の測定	は特記なき場合は下	記の通りとする。壁 し下の空間配管 →)を切断して、やむ こング用)にて処置す 工図を作成し発注・)施工する場合は、 おいて0.2mg/L以上杉	中等で仕様書通り要を得ずメカニカルる。ただし、コカルコカルの施工を行う。な徒情帯・消毒等後にはされるまで消費	の施工が困難な 継手を使用する食 一体県標等の4を 、水張りを行う。)	場合には、	鋼管類の切 ットRC-LA3 位高さを協	断部の防錆処 型㈱リケンを(議する。	理として、JWW 使用する場合は	処理不要とする。)	
● 弁 類 ○ 40A以下は青銅弁5K、50A以上は一般配管用ステンレス飼介10K	· 排 水 設	樹脂 製 排 衛生器具等(排 水 管 の 排 水 管 の	水焼の接続の防験等	○ 遠心力鉄筋コンクリ ※防護蓋等設置する金 ● 洗面器等の排水金量 ※ 既製流し管の下部配配 の南水はののある壁中通水 の高水試験	リート管部分には砂 場合は県標準図7に 長と専用の排水アダ 長に使用してでいる ほに差込継手を使用 ぎ・集合住宅等のス K試験 ○ 鏡確認	利台を要す。 よる。 プタでビニル管に接 ャパラホースはその する。(但し平屋建 ラブ上配管・受水槽	続できない場合、 まま使用せず、VP は不要とする。) 他水槽からドレン	配管直結(VCパ	ッキンでも				Ј露出配管→不要	
総 線 対 策	当 火 没	消火栓	箱			医通省仕様 ○メーカ	一仕様)							
 給 湯 器 用 止 水 弁 そ の 他 ※ ガス用フレキ管とガスコック等(ヒューズコック)との接続は、コック等の固定が出来る部材等を使用して接続する。 ※ ガス用フレキ管とガスコック等(ヒューズコック)との接続は、コック等の固定が出来る部材等を使用して接続する。 ※ ボンベ支持クサリ用のアンカーボルトは、10mm以上のもので、下記のいずれかとする。 ※ 埋込アンカー・雄ネジ形メカニカルアンカー・接着系アンカー(ケミカルアンカー)なお、チェーン、フックも同様の強度を持つものとする。 ※ 自記記録料によるガス圧テスト表の写しを果に提出し、正本は施工業者で5年間保存する。 ※ 使用開始時には必要に応じて種汚泥を投入する。 は 運 転 調 整 ※ 伊他槽の使用開始後おおむね3ヶ月間の試運転調整を行うもので、浄化槽法による「保守点検及び清掃等」を行うほか下記の事項を言う。 1 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は直前に水質検査(BOD, SS, PH, 大腸菌, 塩素イオン)を行い、そのコピーを維持管理業者、施設管理者、工事監督者に渡し、設計・施工・現況の注意事項を申し送ること。 ※ 見やすい場所に型式、施工者名、設置年月、処理能力、放流水質を記入した銘板を設置する。 そ の 他 ※ コンクリート頂版スラブを施工する場合、モルタルの浮き上がり、及び、水たまりが出来ないように仕上げ勾配に注意する。 	給湯設	総縁対 総湯管の	保温	※ 銅管及びステンレス ※ 銅板製ボイラー及ひ ※ 給湯配管に簡易保温 ※ 被覆銅管の継手カノ ※ 給湯器の配管化粧力	、配管は支持金物と が鋼管との接続等、 温筒(クイックチュ・ ボーは保温付きのも 」バー内は凍結破損	の絶縁処理を行う。 異種管との接続には: ーブ)を使用する場のを使用する。 防止を考慮した保温	絶縁継手を使用す 合は耐熱性のもの	を使用する。						
※ 浄化槽の使用開始後おおむね3ヶ月間の試運転調整を行うもので、浄化槽法による「保守点検及び清掃等」を行うほか下記の事項を言う。 : 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は直前に水質検査(BOD、SS、PH、大腸菌、塩素イオン)を行い、そのコピーを維持管理業者、施設管理者、	げ ス 殳	給 湯 器 用 止	水弁	※ スプリングチャッキ ※ ガス用フレキ管とカ ※ ゴムホース接続なき ※ ボンベ支持クサリ用 ※ 埋込アンカー・雄者	・内蔵ボール弁を使 ・ブスコック等(ヒュー・ ・コックはゴムキャー ・プル・カーボルト・ ・ジ形メカニカルア・ ・ジ形メカニカルア・	用する。 ーズコック)との接続 ップを付ける。 は、10mm以 <u>上のもの</u> ンカー・接着系アン:	続は、コック等の で、下 記のいずれ カー(ケミカルア	固定が出来る部	材等を使用	して接続す	\$.	つものとする。		
	争比曹	試運転	調整	※ 浄化槽の使用開始後 1 維持管理を管理す 工事監督者に渡し ※ 見やすい場所に型式 ※ コンクリート頂版ス	後おおむね3ヶ月間 養者に引継ぐ場合は ノ、設計・施工・現 t、施工者名、設置:	の試運転調整を行う 直前に水質検査(BC 況の注意事項を申し 年月、処理能力、放	DD, SS, PH, 送ること。 流水質を記入した	大陽菌,塩素・ 銘板を設置する	イオン) を行 。	い、そのコ	ピーを維持管		管理者 、	

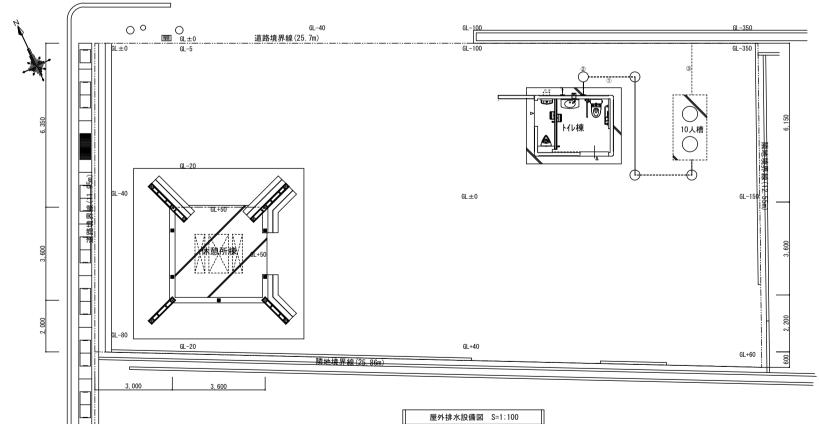
	売 韻	目機 器 の 仕	雄	※ グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成十二年法律第百号)) の判断基準適合品とする。			
•		1 100 THE OUT I	184	なお、パッケージ及びマルチエアコン等については、各メーカーの最高効率機種とする。			
空気				○ 屋外機はJRA耐重塩害仕様とする。 ○ 屋外機は耐塩害仕様とする。			
気 調 和	パッ・	ケージエアコン	ン等	※ パッケージェアコン屋内機の施工については県標準図13を参考にして注意する。			
				○ 天力セ形室内機の取付等による天井の開口及び補強・補修を行う。(建築工事標準詳細図参照)			
换 気				1)補強野縁は野縁と、補強野縁受及び取付け用補強材は野縁受と同材とする。 2)野縁受のはね出しが300mm以上の場合は、増し吊りを設ける。			
設				2 / 野線文の後福田とから6000000000000000000000000000000000000			
1/19	自動	空気抜き弁装	走置	● 不要 〇 要()ヶ所 自動空気抜き弁にはGV及びストレーナーを取付ける。			
	冷媒i	配管のラッキン	ング	※ 配管ラッキング (溶融アルミニウムー亜鉛鉄板・配管化粧カバー) は室外機の直近まで施す。			
				※ 配管樹脂化粧カパー(スリムダクト)も室外機の直近まで施す。なお、屋外スリムダクト最終部は閉塞処理を行う。(コーキング処理、ま	またはエン	ドキャッ	ップ処理)
	#	ク	۲	(フリーコーナー(ジャパラ)は使用しない。) ○ アルミフレキ(不燃材料認定品) ○ ステンレスフレキ(不燃材料認定品)			
		音 内 貼		※ 内貼りチャンパの寸法表示は、外法寸法とすること。サプライチャンパにはその上に銅きっ甲金網押えを行う。			
				※ 消音材はグラスウール (吹出ロチャンバー・吸込ロチャンバー レターンチャンバーは25mm厚, サプライチャンバーは50mm厚) とし、ガラス	クロス押え	えとする	۰
	厨房	等の排気フー	- F	※ 排気フードは、SUS430製とする。(1.0mm厚)			
				※ フィルターは分解掃除が出来るものにする。 ※ 黄銅製コックは20mmのものとする。 (キャップ止でもよい)			
				※ 奥銅袋コックは20mmのものとする。(メヤックルでもよい) ※ 火器使用機器が確定後にフードの形状寸法を変更して、投影面積が変わる場合はフードの面風速もチェックする。			
				(参考: フードの面風速は一般的に0.3m/sとして設計している。)			
	送月	虱 機 (大型	<u>1</u>)	※ 送風機の機器表にファンの番手(#)を明記している場合、小さい番手にしない。			
	エア	コン類の電気コ	エ事	※ エアコン設置に必要な一次側電源送り以降の、室内外渡り電源線、制御線、アース (CE2sq/4C・CE3.5sq/4C程度) を要す。			
				※ リモコン線はEM-AEO.9mm/2C~3C、又はVCTFO.75sq/2C~3Cとする。(但し延長が10m以下のリモコン線は機器付属品でもよい。)	σ## <i>#</i>	- # - # 7	,
				★室内外の渡り配線で、冷媒配管と同じルートを施工する場所は同保温外装内に納める。(電源・制御配線の最低離隔距離は機器メーカ ※表示窓の付いたリモコンの取付場所は視認性の良い高さ(1,300~1500h) 照明SWの上を標準とするが、総合図で充分打合せ調整を行		- 年 9 つ	۰ /
	防护	長 ハ ンガ	_	※ 防振ハンガーの設置判断基準は果標準図14による。	, ,		
	耐多	農対策措	置	※ 震災後の設備機能確保を図る実務的設備耐震対策措置は県標準図15による。			
		付属の制御		※ 冷温水発生機、ボイラ及び温風暖房機の盤の始動スイッチの二次側に煤煙濃度計用電源端子を設ける。			
	* * *	瓦 汚 染 対	策	□○排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。			
	Dil		*	■ スリーブ、箱入れの補強筋 O ガラリ ■ 点検ロ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■			
別工	נימ	巫 工	尹	▼ 天井および壁貫通に対する下地補強○ プロパンボンベ庫○ ○			
途 事							
	材料メー						
	生生	脚 哭	TOTO	材料メーカー LIXIL (INAX)、ジャニス工業			
			_	LIXIL(INAX)、ジャニス工業 LIXIL(INAX)、ジャニス工業、三栄水栓			
	-	水槽	_				
			_	日立、テラル、川本			
			_	日立、テラル、川本、鶴見			
	· 汚 物 気 温		_	日立、テラル、川本、鶴見、新明和 ・ック、ユパック、日本電熱、東芝、パナソニック、三菱、日立			
厨				マン、ニバック、ロデモMix、不足、バックーック、二条、ロエ 理、フジマック、北沢、ホシザキ四国、タニコー、マルゼン			
				和、愛知、ネポン、ヒラカワ			
				成、三菱樹脂、ホーコス			
			_	・ン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア			
				・ン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア 日立、荏原、川重、三菱重工、パナソニック			
				ダイキン、三菱、昭和、日立、木村、東芝キャリア、三菱重エ			
送	風			テラル、荏原、パナソニック、谷山、ミツヤ、旭電業			
冷	却		_	日立、荏原シンワ、空研、日本スピンドル			
			_	ル、ジョンソンコントロールズ			
		ルター	_	ピンドル、東洋空気調和、日本エアフィルタ パナソニック、テラル、東芝、日立、ダイキン			
そ で	文段形			バリブーラウ、リブル、米之、ロエ、ライヤン 通省仕様適合品			
完成後	必要な	ボイ	<u> </u>	○ 資格不要 ○ 特別教育修了者 (小型ボイラ) ○ 講習修了者 ○ () 級ボイラ技士			
	資格者	危 険 冷 凍	物機	○ 資格不要 ○ 危險物取扱主任者 ○ 資格不要 ○ 第 () 種冷凍機械作業主任者			
<u> </u>		/µ /#	1灰	○ R田・メ ○ お \			
		官公庁等				-10	В
		日公川寺	_	打 合 せ 事 項	確	認	н
給	水	日公川寺		打合世事項	令和	年	月日
給 排 消	水 水 防	日公川寺		打 合 せ 事 項	令和	年年	

	官公庁等	打 合 世 事 項	Ŧ	主認	日	
給 水			令和	年	月	日
排水			令和	年	月	H
消 防			令和	年	月	日
浄 化 槽			令和	年	月	日
ガ ス			令和	年	月	日
その他			令和	年	月	日
			令和	年	月	日

特	j	ι	<u></u>	± ⊞⊤	-	工事名	野根地区公衆トイレ等整備工事
] 木 /-	⊢ шј		_ , _	
==		at l				機械設備図	機械設備 特記仕様書(2)
āC		"	製 図	検 印	, <u> </u>	2025. 04. 30	図 番 M - 02



番号	内	容	仕 様		数	量
1	HIVP30		耐衝撃性硬質塩化ビニル管	Τ	17.	.0m
(2)	HIVP25		耐衝撃性硬質塩化ビニル管	Т	0.	.4m



番号	内		容	仕	様		数	量
1	VP1	00		硬質塩化ビニル管			9.3m	
2	小口	1径桝90°	L	耐衝撃性硬質塩化ビ	ニル管		4個	
3	VP3	0		硬質塩化ビニル管			2. Om	

特	ι	東洋	町	工事名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
第一	1			構造図	給排水設備図		
	3	製図	検 印	2025.04 . 30	縮 尺 S=1:100	図番 M−03	

